

科目名	哲 学
担当者	谷 口 郁 夫

講義の目標

まず、「哲学」とは何かということから始めます。哲学が他の学問と違うのはここです。哲学とは何かと問うことがすでに哲学なのです。しかも、客観的に問うと同時に、主体的に問うこと、自己自身にかかわる問題として問うことが要請されます。それを通じて、人間とは、自己とは、歴史とは、理性とは、などについて、考えてゆくことにします。

講義概要

いくつかのテーマを取り上げ、それに関連する哲学書を読んでいきます。哲学書を読んだことのある学生はほとんどいないでしょうから、できるだけ易しいものを取り上げ、できるだけ易しく解説していきたいと考えています。資料は用意していますので、利用していただきたいと思います。

テキスト

すべてこちらで用意しますが、インターネット上のファイルをダウンロードしていただく場合があります。

参考文献

プラトン「パイドン」、デカルト「方法序説」、パスカル「パンセ」、ヘーゲル「歴史哲学講義」など。インターネット上に準備をしていきますので、ダウンロードしていただくこととなります。なお、獨協大学の HP ではありません。アドレスは最初の講義でお知らせします。

評価方法

講義の中で、何回か小論文を書いていただきます。前後期あわせて 6~8 回位を予定していますが、就職活動などで出席できなかった学生には、レポートの提出を課します。メールでお問い合わせください。

受講者への要望

インターネット、メールなどをきちんと利用できるようにしてください。質問は、特に重要な質問に関しては、メールを使ってください。アドレスは講義の中でお知らせします。私語は厳禁です。

年間授業計画

1. 古代ギリシャの哲学者を紹介しながら、哲学という学問において、何が、どういうふうに問われるのか、などについて考えます。
2. ソクラテス以前の哲学者の断片。
3. プラトンの「饗宴」など。エロスについて。

4. プラトン「パイドン」など。死について。
5. 前回のつづき。
6. 前回のつづき。
7. イギリス経験論の祖フランシス・ベーコンの「ノヴム・オルガヌム」を取り上げます。特にイドラについて。
8. 大陸合理主義の祖デカルトの「方法序説」を取り上げます。特に、方法的懐疑について。
9. デカルト「方法序説」2
10. デカルト「方法序説」3
11. パスカル「パンセ」。パスカルにおける人間観について。
12. 前回のつづき。
13. 後期は特に人間理性と歴史を中心に考えていきます。カントの「人間愛からなら嘘をついてもよいという誤った権利に関して」を取り上げます。
14. カントにおける理性概念について。「道徳形而上学原論」の一部を取り上げます。
15. 三回にわたって、歴史哲学の問題を取り上げます。ヘーゲル「歴史哲学講義」
16. フォイエルバッハ「キリスト教の本質」
17. マルクス「共産党宣言」
18. 楽観的哲学と悲観的哲学を取り上げます。ショーペンハウアーの思想を紹介します。
19. 20 世紀は戦争の世紀でした。二度の大戦を通じて、実存主義と呼ばれる思想が流行しましたが、時代背景との関連に留意しながら、この思想を取り上げます。
20. サルトル「実存主義とは何か」を取り上げます。
21. 前回のつづき。
22. 予備（イスラエル・アウシュヴィッツなどのスライド。）
23. 予備（イスラエル・アウシュヴィッツなどのスライド。）
24. 予備（イスラエル・アウシュヴィッツなどのスライド。）

科目名	哲 学
担当者	松 丸 壽 雄

講義の目標

諸文化の担い手としての人間存在は存在するがぎり、根源的なレベルから実際のレベルまで様々な問題と遭遇し、これと対決せざるを得ない、その場合に、どのような立場から、どのような方法でこれらの問題に対処するかを、様々な角度から考えることができる基礎力を養うことを目標とする。

講義概要

実地に現代の諸問題の根元を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。

テキスト

なし。

参考文献

講義中に適宜指示。

評価方法

最低年2回のレポートとディスカッションへの積極的貢献度により評価。

受講者への要望

自分で考えようと努力し、ディスカッションに積極的に参加するつもりのある人。ディスカッションという性質上、人数制限もあり得る。

年間授業計画

1. 講義の概要説明。
2. 愛とは何かについての考察。ビデオ鑑賞。
3. 愛についての様々な思想(1)
4. 愛についての様々な思想(2)
5. 愛についての様々な思想(3)
6. グループ分けと小グループによるディスカッション時の諸注意。
7. ディスカッション(小グループ)
8. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議)
9. 差別についての考察。
10. 障害者と差別。ビデオ鑑賞。
11. ディスカッション(小グループ)
12. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議)

13. 生と死についての考察。

14. 生と死についての様々な思想(1) 宗教と哲学

15. 生と死についての様々な思想(2)

16. ディスカッション(小グループ)

17. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議)

18. 脳死と倫理。

19. 生命倫理について。

20. ビデオ鑑賞。

21. ディスカッション(小グループ)

22. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議)

23. 年間を振り返ってのディスカッション(小グループ)

24. 年間を振り返ってのディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議)

科目名	心 理 学
担当者	杉 山 憲 司

講義の目標

この授業では、性格、発達、知能、学習、動機、社会心理学の諸領域から、なるべく広範囲なテーマを選び、心理学の問題の捉え方、研究方法を紹介する。心理学のキー概念や諸理論を学びながら、例えば、「自己とは何か」「やりたいことが見つからない」「無力感に落ち込んでいる学生」など、現代の学校の諸問題、「ストレスと精神的健康」「高齢者と若者の考え方（認知）のズレ」などの日常的な諸課題を検討して、対処法へとつなげる講義をする予定である。

心理学から見た、多様な科学的人間性のモデルを理解することが、講義の最終的な目標である。

講義概要

心理学の研究内容は、道徳性や性格など、日常的で身近な現象が多い。従って、学生は取り上げる現象に対して、既に、一定の意見を持っていることが多い。そこで、科学的な心理学の研究成果を講義することになる。また、心理学は自分自身が研究者であり、且つ、研究対象であるという特徴がある。従って、自己理解は重要なテーマである。

心理学の領域を大きく分けると、1) 性格や知性などのように、一人一人の個性・個人差の理解と、2) 人間という種に共通する、学習・知覚・動機づけなどの一般法則の理解に分けられ、両者の関係や日常生活との関わりについて講義する予定である。

テキスト

青柳肇・瀧本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介(編著)1989「こころのサイエンス」福村出版 ¥1,900、青柳肇・瀧本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介(編著)1989「トビックスこころのサイエンス」福村出版 ¥1,900

参考文献

教科書の各章末に参考文献が示されている。その他は授業中に、随時、指示する。

評価方法

前後期2回の試験で評価する(追試は教務課を通すこと)。リーディング・レポートの実施については授業の始めに相談する。

受講者への要望

この授業を自分自身を知り、見つめ直すチャンスとして利用することを提案したい。授業を聞く際、自分の専攻(将来の職業)や、現代の諸問題との関

連を考えながら聴講することを希望する。

年間授業計画

1. 心理学への導入：心理学の体系について。心理学の研究対象と方法。心理学と他の学問との比較。人間に共通な一般法則と一人一人の個性や個人差を理解することの意味。
2. 1章 パーソナリティ：パーソナリティの緒理論は人間性のモデルである。1)精神力動的モデルとロールシャッハ検査。
3. 2)行動主義モデルとMPI。3)認知的モデルと自己意識。4)パーソナリティの特性論とビッグ5。
4. 5)人間学的モデルとクライアント中心療法。6)標準心理検査、7)パーソナリティの形成・発達と病理。
5. 2章 知能と創造性：あなたの能力観。知能検査で測られているのは何か。新たな能力観を求めて。1)知能研究の源。2)新しい知能観(能力と動機づけは別か)。
6. 創造性：知能検査で測られていないもう一つの能力としての創造性。1)Guilford, J.P.の知能構造モデルと拡散的思考 2)創造性の育成と活性化
7. EQとは何を指しているか。1)適性とかしこさの概念。2)対人関係に必要な社会的スキル。
8. 3章 生涯発達：高齢者も発達する。生涯発達視点から現在を捉えることの大切さ。1)発達観の変遷。2)研究法：縦断的研究。親や教師の発達観とピグマリオン効果
9. 初期発達：1)乳児の気質の型とアタッチメント。2)コンピテンスと自己原因性の獲得。
10. 社会性の発達：1)道徳性と向社会性の発達段階。2)仲間関係のルールやスキル。3)青年期の自己意識。
11. シルバーエイジと生きがい：1)アイデンティティの確立と自分らしさ。2)喪失の時期と統制感・自己効力感の減退。
12. 前期のまとめ：一人一人の個性・個人差を理解することの意味・大切さ。1)心理学研究の2つの目標。
13. 4章 行動：行動の視点から人間を見る。行動の獲得・形成としての学習。1)学習とは何か。自発的に学ぶことと他者に教えることの違い。
14. 学習の基礎過程：1)行動の種類と発達・進化。2)学習の基本型(1)レスポネント条件づけ、しつけ、情緒の統制、他律から自律へ。
15. 3)学習の基本型(2)オペラント条件づけと強化随伴性(の認知)。行動結果の持つ意味。4)観察学習とモデリング、模倣の役割と意義。

16. 社会的行動：社会心理学の課題と研究方法。1)攻撃と愛他（利他）行動のバランスと育成。2)同調行動と服従、実験室のアイヒマン
17. 3)リーダーシップ行動。変革期のリーダーは何を求められるか。4)集合行動とマスコミュニケーション。
18. 5章 認知：認知とは対象の意味づけのこと。客観的状况と主観的現実。1)感覚と知覚。2)感覚受容器、絶対閾、錯視、恒常性。
19. 3)認知のプロセス：原因帰属とは何か。帰属のエラーと帰属バイアス。4)課題達成行動の原因帰属による理解。
20. 5)人間の記憶の情報処理モデル、1)情報処理モデルの例。2)短期記憶・長期記憶、意味記憶・エピソード記憶。社会的認知としての自己。
21. 6章 動機づけと情緒：学習動機を中心とした動機づけの理解。1)さまざまな動機。食行動と摂食障害、ホメオステシス。
22. 2)内発的動機づけ：自発的な学び、知的好奇心。自己決定と最適不適合とズレ理論。
23. 3)対人社会動機、愛着、共感性と愛他動機。4)動機の矛盾、コンフリクト、フラストレーション。
24. 後期のまとめ：行動の一般法則を理解することの意義。1)心理学から見た人間とは。2)現代の問題にどれだけ答えられたか。3)残された問題

科目名	心 理 学
担当者	瀧 本 孝 雄

講義の目標

本講義では心理学全般にわたって具体的に話を進めていきたい。

心理学研究の対象とその方法論について学習し、心理学とは何かというテーマを最終の目標としたい。

講義概要

まず初めに心理学全体についての領域や対象について述べる。

前期では主にパーソナリティ、知能、カウンセリング、心理テスト、発達など個人理解の心理学について概説する。

後期では感覚、知覚、記憶、思考、社会的行動など人間の意識と行動についての一般的原理について概説する。

テキスト

新版「カウンセリングと心理テスト」林潔他著、ブレーン出版

「こころのサイエンス」青柳肇他著、福村出版

評価方法

出欠席、レポート提出（前・後期）により評価する。

受講者への要望

出欠席を重視するので、授業に休まないことを要望する。

年間授業計画

1. 心理学の対象と方法
2. パーソナリティの定義と理論
3. パーソナリティの測定
4. パーソナリティの異常
5. 知能の定義と理論
6. 知能の形成と知能検査
7. カウンセリングの定義と方法
8. クライアント中心カウンセリング
9. カウンセリングの実習
10. 心理テストについて
11. 心理テストの実習
12. 発達心理学（乳幼児～青年期）
13. 発達心理学（成人期～老年期）
14. 感覚と知覚
15. 記憶と思考
16. 行動の獲得
17. 社会的行動

18. 人間関係と性格

19. 動機づけと情緒

20. フラストレーションとコンフリクト

21. 流行の構造

22. グループ討議（1）

23. グループ討議（2）

24. アサーショントレーニング

科目名	倫 理 学
担当者	市 川 達 人

講義の目標

私たちの日常生活は様々な倫理的価値や規範を織り込んで成立している。しかし、その論理は必ずしも自覚されているわけではない。その隠れた論理を明晰な自覚にまで高めようとするのが倫理学である。

実証科学万能の風潮の中で冷遇されてきた倫理学であるが、今日環境や医療、また政治や経済の領域で正義や善についての倫理的論議が盛んになってきている。倫理的に考えるとはどういうことか、論理的かつ実践的に学んでほしい。

講義概要

前半は倫理に関する理論的な理解を目的として倫理学上の基礎概念について解説する。

後半は時代の関心を集めている生命問題と環境問題に焦点を当て、いわゆる生命倫理と環境倫理の世界をのぞいてみる。

テキスト

使用しない。

参考文献

講義で指示する。

評価方法

レポートを数回提出してもらい評価する予定。

年間授業計画

(前期)

1. 一年間の予定。倫理学の対象と課題
2. 倫理の概念
3. 規範としての倫理(1) 動機 - 行為 - 結果の連関と倫理的判断
4. 規範としての倫理(2) 法の問題
5. 規範としての倫理(3) 習俗の問題
6. 価値としての倫理(1) 価値と欲求構造
7. 価値としての倫理(2) 価値と事実
8. 価値としての倫理(3) 人格と人間性の価値
9. 倫理的問題状況と倫理学の歴史(1)
10. 倫理的問題状況と倫理学の歴史(2)
11. 功利主義
12. 自由主義

(後期)

1. 地球、自然、生命の時代
2. 「善き生」の探求と「生命と環境」危機
3. 生命倫理の前線(1) 医療倫理から生命倫理へ
4. 生命倫理の前線(2) 中絶、生殖医療の問題

5. 生命倫理の前線(3) 安楽死問題
6. 生命倫理の前線(4) 臓器移植の問題
7. 健康と環境
8. 土地倫理とディープ・エコロジー
9. 動物の権利から樹木の権利へ
10. マルサス主義と環境的公正の倫理
11. 風土の理論と環境倫理
12. まとめ

科目名	国 語 学
担当者	桂 千佳子

講義の目標

コトバをめぐって内省的に振りかえったり、意識化するよう努めながら、自分の思考の枠を広げていく。

講義概要

当たり前だと思っていることが本当に当たり前なのか。良く知っているはずの日本語について、本当にわかっているのか。コトバの様々な側面について、これまでの知見を学びながら、できるだけ身近な例で実感していく。

前期は、主に一般的なことについて話していく。後期は、一つの理論を理解したり、実際に自分でも方法論を試してみたりしながら、学んでいく。

自分自身はどう思っているのか、何がわからないのか、などと自問自答しながら積極的に取り組んでいってほしい。

テキスト

なし

参考文献

各テーマごとに提示。

評価方法

年度末にテストを行い評価する。また、出席が2 / 3に満たない時は、評価をワンランク下げる。

受講者への要望

講義を聞いただけですぐにわかるということばかりを期待しないこと。とにかくきちんとノートをとって、じっくりと時間をかけて、自分で考えたり、勉強したりしながら、理解していくという姿勢を望みたい。質問は歓迎。

年間授業計画

1. 本講義の方針について
2. コトバが話せるのは本能か . 本能だ!
3. コトバが話せるのは本能か . 赤ちゃんとお母さんのコミュニケーション
4. コトバはなぜ通じるのか . 理解するというこ
5. コトバはなぜ通じるのか . 表現するというこ
6. 自分のコトバを見つめる . 「母語」と「母国語」
7. 自分のコトバを見つめる . 日本人の母語意識
8. 日本語の文字 . 漢字との出会い

9. 日本語の文字 . 仮名
10. 日本語の文字 . 「漢字仮名交じり文」は不便か
11. 日本人の世界観とコトバ
12. 以心伝心の文化
13. 頭の中の文法 . 日本語学習者の誤用例から
14. 頭の中の文法 . ソシユールの文法理論を学ぶその
15. 頭の中の文法 . ソシユールの文法理論を学ぶその
16. 文とは何か . コトとムード コトの分類
17. 文とは何か . コトとムード 文末の表現
18. 文とは何か . 「桜が咲く」は文か
19. 文とは何か . 南不二男による4つの分類
20. 文とは何か . コトバの構造と文法観
21. 文とは何か . 文の構造のまとめ
22. 日本語の「時」の表現 - テンス 絶対テンス
23. 日本語の「時」の表現 - テンス 相対テンス
24. まとめと質疑応答、テストについて

科目名	国 語 学
担当者	小 島 幸 枝

講義の目標

世界の言語を使用人口の割合からみると、ドイツ語に並んで第 6 位に位置づけられる日本語を、日本人自身は、学校教育を通して体系的には学んでいないのではないだろうか。国際社会にあって日本人の海外進出が日常的になっている現今、単に日本で生れ成長して日本語で用が足せる程度では日本語を修得しているとはいえない。

本講では日本民族の地理的環境をふまえた重層文化に根差す日本語の、基本知識の修得を目標とする。

講義概要

国語学とはどのような内容をもつ学問なのか、国語学の分野を、音声音韻・文字・文法・語彙・文体の領域に分けて講義する。

テキスト

福島邦道『国語学要論』（笠間書院）

参考文献

- ・岩波講座日本語（岩波書店）
- ・講座日本語学（明治書院）
- ・橋本進吉：国語学概論（岩波書店）
- ・金田一春彦：日本語（岩波新書）
- ・築島裕：国語学（東大出版会）
- ・国語学会編：国語学大辞典（東京堂）
- ・佐藤喜代治：国語学研究事典（明治書院）

評価方法

レポート

受講者への要望

日本語教師をみざす学生は受講することが望ましい。

年間授業計画

1. 日本語の特徴
2. 国語学とはどのような学問か。その周辺領域の学問について
3. 国語の音韻 - 音声と音韻
4. 音韻史 - 古代語と現代語のちがひ
5. アクセント
6. 文字、表記 - 漢字、国字
7. かな - 万葉仮名、カタカナ、ひらがな、反切
8. かなづかい - 定家仮名遣、契沖仮名遣
9. ローマ字 - ボルトガル式ローマ字、ヘボン式ローマ字、日本式ローマ字
10. 語彙 - 語彙と語彙量

11. 語形、語義
12. 位相、語彙史への試み
13. 辞書
14. 文法 - 単語と品詞分類
15. 自立語 - 活用する自立語、活用しない自立語
16. 付属語 - 活用する付属語（助動詞）
17. 付属語 - 活用しない付属語（助詞）
18. 文の構造と文の種類
19. 文法史
20. 敬語 - その分類、運用
21. 文体 - 文章と文体
22. 方言 - 方言と方言研究史、言語地理学
23. 日本語系統論
24. .(予備)

科目名	国語表現
担当者	高松正毅

講義の目標

文章を読み手として単に享受し味わうというのと、書き手として自ら発信するというのとは、一つの行為の裏表ではない。当然のことながら、よく読めるからといって同様に文章がよく書けるとは限らないのである。特に文学的な文章表現においては天賦の才能が大きく影響するので、努力さえすれば誰でも上手くなれるというものではない。一般の我々が目指すべきなのは、読み手に「わかりやすい文章」を書くことだけである。

本講義では、他者と関わるための手段としての「実感に基づく言語」の再獲得を目標とする。

講義概要

普段からほとんど文章を書かず、文章を書くことが少しも日常化されていない現状にあって、文章を書くのが苦手などと嘆くのは馬鹿げている。より良い文章が書きたかったら、より多く書く以外に方法はないのである。

本講義では、提示された課題に従い、できる限り多く実際に文章を書いてもらう実践トレーニングを重視する。

テキスト

未定。開講時に決定する。

参考文献

山崎浩一「危険な文章講座」ちくま新書

安本美典「説得の文章術」宝島社新書

樋口裕一「ホンモノの文章力」集英社新書

宮部 修「文章をダメにする三つの条件」丸善ライブラリー

上記以外、適宜指示する。

評価方法

出席は提出物によってカウントする。授業へのとりくみ度はその内容によって量る。評価にあたって出席は重視するが、これは単に教室の中に存在したというだけでは駄目である。すなわち居眠り・内職・私語・白紙提出等は出席とは認めない。

受講者への要望

授業の運営方法は履修者数の多寡により変動する。

授業に真剣にとりくむ意思のない者の履修は断固お断りする。

年間授業計画

1. ガイダンスおよび試験

2. 講義概説、視写による原稿用紙の使い方

3.

4.

5.

6.

7.

8.

9.

10.

11.

12. 前期のまとめ

13. 夏休みの課題提出

14.

15.

16.

17.

18.

19.

20.

21.

22.

23. 冬休みの課題提出

24. まとめ

実践トレーニング

実践トレーニング

実践トレーニング

科目名	国語表現
担当者	飯島一彦

講義の目標

言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」「考える」などの分野があるが、その中でも、現在の日本の教育課程ではほとんど省みられることのない、日本語を「話す」「聞く」ことを中心に、「考える」にまで至る、表現の基礎的なトレーニングを行う。表現手段を獲得できなければ、十分な表現をなしえることはできず、従って他者とのコミュニケーションを完成させることも期待できない。この授業は、日本語によるコミュニケーションを、口頭表現を中心に、より完全に近づけることが目標となる。

講義概要

基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実践、つまり学生諸君の毎時間の表現の、実際のトレーニングが主体となる。毎週出される課題に一週間とりくんで、次の週の授業時にその結果をもとに実践する、といった形式が多くなる。従って、トレーニングは課題を前提になされるから、課題にとりくまなかったものは受講しても無意味である。

テキスト

特になし

参考文献

特になし

評価方法

毎回のトレーニングに対するとりくみの深さ、その成果、夏期・冬期休業中に課するレポート他の課題の提出、後期最後に行われる発表の成果、等々平常点の成績が中心となる。

受講者への要望

膨大な課題が出されるので、覚悟して受講すること。欠席すると表現の訓練の連続性が損なわれるので、欠席しないこと。

年間授業計画

1. 授業ガイダンス。
2. 講義：国語とは、表現とは、コミュニケーションのサイクル。

- 3.
 - 4.
 - 5.
 - 6.
 - 7.
 - 8.
- 諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。

- 9.
 - 10.
 - 11.
 12. 夏休み課題ガイダンス。
 13. 夏休み課題提出。後期ガイダンス。
 - 14.
 - 15.
 - 16.
 - 17.
 - 18.
 - 19.
 - 20.
 - 21.
 - 22.
 - 23.
 24. 冬休み課題提出。年間のまとめ。
- 諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。

科目名	国語表現
担当者	小島幸枝

講義の目標

過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語りかけられるのはことばの力である。しかしことばは、ただ通じればよいというものでもない。人の心をつつ美しいことば、的確な表現、それは確かに才能にもよるがたゆまぬ努力と訓練によってある程度習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を培うために、社会の変化に関心をもち情報の収集および判断力を養うこと、実用文を短時間で書きあげる練習、敬語の使い方の修得、手紙の書き方など、国語の運用面について講述する。

講義概要

前期は音声言語表現を中心とし、一分間スピーチの演習、朗読、敬語の使い方など、後期は文字言語表現を中心とし、実用文の実作、相互の添削、手紙のかき方などを学ぶ。評価は平常点をもってする。すなわち課題として社説の要約、800字の作文、読書報告文を提出する。

テキスト

岡田啓助他『国語表現法』（おうふう）

参考文献

・都度、紹介する。

評価方法

提出物による平均点、および出席点。

受講者への要望

授業中に作業することがありますので、無断で2週連続して欠席した場合は受講資格がなくなると思ってください。

年間授業計画

1. 表現者（送り手）と理解者（受け手）のことばにおけるメカニズムを概説
2. 音声言語について、文字言語との差異および特徴の認識
3. 日本語の基礎知識 - 日本語の音韻
4. 日本語の基礎知識 - アクセントの特徴
5. 美しい言葉の条件 - 正確さと品位をどのように獲得するか
6. スピーチ（演習） - 互いのスピーチをきいて評価、および自己評価をする
7. 反省とまとめ（ディベートの予告）
8. ディベート（ビデオ鑑賞）

9. 反省とまとめ

10. 敬語について - 日本語の敬語の特徴と歴史（上代～中世）
11. 敬語について - 日本語の敬語の特徴と歴史（中世末～現代）
12. 漢字テスト
13. 文と文章
14. 文の構造
15. 文章の構造
16. 文章の種類
17. 文字言語 - 文章を書く手順、材料の収集法
18. 主題と題材
19. 材料を集める - 説明文、報告文を書く
20. 材料を並べる - アウトラインを作る（効率よく文章を書くために）
21. 文献、資料を用いて文章を補強する
22. 交換、批評しあう
23. 推敲のポイントを学ぶ - まとめ
24. (予備)

備考

前期は実作を習慣づけるために、宿題形式で社説要約（週1作）読書報告（月1本）作文（週1作）を課すが、後期は実作の習慣をつけるために作文は授業中に完成させる。従っての課題はない。

科目名	国語表現
担当者	肥田野 昌之

講義の目標

日本語への関心を深め、日本語による表現を豊かにしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識などの学習を通して、大学生としての教養も深めたいと思う。

講義概要

論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基礎的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。

また、文字の問題・仮名づかいなど日本語に関する知識や教養としての日本文学に関連する基本的知識についても言及したい。

テキスト

特に使用せず、その都度プリント配布。

評価方法

実作および年度末試験によって決定する。受講者数によって多少の変更がある。

年間授業計画

1. 国語表現についての意義と一年間の講義概要を説明する。
2. 現代社会における文章の機能についての考察とともに文章上達法についても考える。
3. 「文は人なり」について考えるとともに文章と文体についても言及する。
4. 文章表現のプロセスとして、文章の目的・主題の選定・主題の限定などについて説明する。
5. 文章表現のプロセスとして、材料の意義・材料の源泉などについて説明する。
6. 文章表現のプロセスとして、材料の順序と構成・アウトラインについて説明する。
7. 豊かな内容とは 物の見方や読書などについて考える。
8. 国語表記の問題 段落の分け方や送りがないなどについても言及する。
9. 原稿用紙の使い方や校正などについても説明する。
10. 作文を書く（添削と採点）
11. 作品を返還して、感想や注意事項を述べる。誤字の問題、常体・敬体の混在など。
12. 学生が黒板に出て、漢字かなづけ・漢字書き取りを行う。
13. 教養として能・狂言の入門 熊野・附子など

14. 教養としての歌舞伎入門 勸進帳・与話情浮名横櫛など
15. 文字について 特に「漢字御廃止之儀」から常用漢字までを概説する。
16. 仮名づかいについて 仮名づかいの歴史、特に歴史かなづかいと現代かなづかいに力点を置いて説明する。
17. 標準語と方言について説明し、女房詞や忌詞などについてもふれる。
18. 文章のさまざま 実用性の濃い文章と芸術性の濃い文章など
19. 手紙の書き方 手紙の形式を中心にして説明する。
20. 課題作文を書く（添削と採点）
21. 作品を返還し、感想や注意事項を述べる。
22. まとめとしてプリントを二枚を配布し、年度末試験について傾向と対策を説明する。
23. 学生が黒板にでて、四字句の完成などを行う。
24. ことばと社会について ことばの乱れや敬語法について考える。

科目名	国語表現
担当者	福 沢 健

講義の目標

言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この4技能に関わるさまざまなタスクの実施を通して、日本語表現の基礎的なトレーニングを行う。表現手段を獲得できなければ、十分な表現をなし得ることはできず、したがって他者とのコミュニケーションを完成させることはできない。この授業は、日本語によるコミュニケーションの能力を総合的に向上させることを目標とする。

講義概要

基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実践、つまり学生諸君の実際のトレーニングが主体となる。具体的には、概説・練習問題を通して国語表現の基礎力を身につけたあと段階を追って小論文レポートなどを実際に書いてもらう。また、社会生活に不可欠な敬語の正しい使い方の練習、手紙文の書き方などについても触れる。

テキスト

特に定めない。プリントを使用する。

参考文献

授業時にその都度指示する。

評価方法

毎回の出席状況、授業の参加の度合い、課題の提出など平常点評価及び授業時の試験によって評価する。

受講者への要望

熱意を持って授業に参加してほしい。授業中の私語は、厳に慎んでもらいたい。

年間授業計画

1. はじめに
2. 語彙・熟語
3. 同義語・類義語・対義語
4. 同音異義語・同音異義語
5. 四字熟語
6. 用字法
7. 句読法
8. 文法1 主語と述語
9. 文法2 修飾語
10. 比喩表現
11. 文章展開の表現技法
12. 文章伝達の表現技法
13. 常体と敬体 1

14. 常体と敬体 2
15. 表現上の推敲 1
16. 表現上の推敲 2
17. 文章の構成
18. 段落の構成
19. レポートの作成 1
20. レポートの作成 2
21. レポートの作成 3
22. レポートの作成 4
23. 手紙文
24. まとめ

科目名	日本文学
担当者	飯島一彦

講義の目標

中世から近世にかけて爆発的に産み出された『お伽草子』群は、日本文学史上においては初の庶民文藝と言ってよいが、庶民文藝であるからこそ、実は長きにわたる日本の文化伝統をそのままに体現して重要である。今年はその中でも特に親しまれ、昔話としても流布し、学生諸君も小さい頃から知っているはずである「浦島太郎」と「一寸法師」をとりあげて、単なるお伽話としか思っていないものが、どれほど深く長い文化伝統にのっとって作られているものか、それを受け取る読者、つまり我々の感覚がどれだけ伝統的なものか、明らかにしていく。

講義概要

前期は「浦島太郎」、後期は「一寸法師」をとりあげる。どちらの話も記紀万葉から明治時代の国定教科書を経て、現代に至るまでの長い伝承の歴史を持っている。それらを逐一つまびらかにして、歴史的な変容を明らかにすると共に、変わらない点はどこなのかを明らかにしていく。そのために、古文の講読・解釈を毎時間することになる。

テキスト

その都度教室で配布する。

参考文献

その都度教室で指示する。

評価方法

年二回のレポート、学年末試験の成績による。

受講者への要望

長大なレポートを課するので、様々な文献を読み、考える覚悟が必要である。

年間授業計画

1. 「お伽草子」とは何か?
2. 「浦島太郎」を読む
3. 「浦島太郎」を読む
4. 「浦島太郎」を読む
5. 奈良時代の「浦島太郎」 日本書紀
6. 奈良時代の「浦島太郎」 万葉集
7. 平安時代の「浦島太郎」
8. 平安時代の「浦島太郎」
9. 昔話・伝説の中の「浦島太郎」
10. 国定教科書の「浦島太郎」
11. まとめ：日本人の異郷意識：異人、幸福、時間
12. 予備日「絵本の中の浦島太郎」

13. 「一寸法師」を読む
14. 「一寸法師」を読む
15. 「一寸法師」を読む
16. 奈良時代の「一寸法師」
17. 奈良時代の「一寸法師」
18. 平安時代の「一寸法師」
19. 平安時代の「一寸法師」
20. 藝能に見る「一寸法師」
21. 国定教科書の「一寸法師」
22. 昔話の「一寸法師」
23. まとめ：日本人の侏儒観、異人と差別意識、畏れと恐れ。
24. 予備日「絵本の中の一寸法師」

科目名	日本文学
担当者	肥田野 昌之

講義の目標

日本の代表的な古典である『万葉集』を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的事件などについて解説し、教養として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。

講義概要

前期は主として、初期万葉の歴史的事件を背景として、有間皇子や大津皇子の悲劇・額田王や但馬皇女の恋などについて、その歌とのかかわりで物語風に概説するとともに代表歌人たる柿本人麿や山部赤人についても考察する。後期は主として、伝説・説話の歌から東歌・防人歌の問題および山上憶良・大伴家持などの有力歌人についても広く検討してみたい。

テキスト

小野寛校註『万葉集抄』笠間書院

参考文献

斎藤茂吉『万葉秀歌』上・下（岩波新書）

評価方法

前・後期試験によって決定する。受講者数によって多少の変更がある。

年間授業計画

1. 巻一国歌大鑑1番・雄略天皇の歌について考える。
2. 中大兄の三山歌について、いろいろな角度から考察する。
3. 額田王とその歌についての説明と鑑賞。
4. 柿本人麻呂とその長歌を中心によむ。
5. 大津皇子・大伯皇女について、謀反事件を考察しながら、それらの歌をよむ。
6. 穗積皇子と但馬皇女との悲恋と歌物語について。
7. 有間皇子の謀反と歌について、『日本書紀』を参考にして考える。
8. 再び柿本人麻呂の短歌とその終焉について考える。
9. 前期のまとめとして、プリント二枚を配って前期試験の傾向と対策について説明する。
10. 石川郎女歌物語。
11. 坂上郎女歌物語。
12. 山部赤人「不尽山を望むる歌」を中心によむ。
13. 大宰帥大伴旅人「酒を讃むる歌」を中心にしてよむ。
14. 真間娘の歌 赤人と虫麻呂

15. 山上憶良とその歌 貧窮問答歌を中心に

16. 万葉集の歌体について、特に旋頭歌を中心にしての歌と説明。

17. 高橋虫麻呂の伝説歌について 浦島子・菟原処女など

18. 寄物陳思・正述心緒 卷十一の歌を読む。

19. 万葉集の用字法 特に義訓・戯訓

20. 東歌について説明と歌。

21. 中臣宅守と狭野弟上娘の贈答を中心に

22. 後期のまとめとして、プリント二枚を配り後期試験の傾向と対策について説明する。

23. 大伴家持とその歌について講読する。

24. 防人歌についての説明と歌。上代特殊仮名遣について

科目名	日本文学
担当者	福 沢 健

講義の目標

奈良時代から鎌倉初期（特に歌集・物語・説話）を取り上げ、その作品の魅力について講義します。日本の古典作品を「文学」として読んでいくことを目標とします。

講義概要

日本の古典の評判はよくありません。古文はワカラナイ・ツマラナイ・古クサイ、などといわれて、毛嫌いされています。しかし、古文の教材ではなく、文学作品として読み直してみると、それぞれの作品の魅力が改めて見出せると思います。具体的には、1時間にひとつの話題を取り上げ、その話題に関連する作品を読むというかたちとなります。

テキスト

特に定めません。必要に応じてプリントを用意します。

参考文献

その都度教室で指示します。

評価方法

年2回のレポート。出席・授業態度など、平常点。

受講者への要望

いわゆる古文解釈の技術は必要ありません。日本古典に対する興味を有する学生の受講を希望します。

年間授業計画

1. はじめに
2. 柿本人麻呂 神としての天皇（万葉集）
3. 天照大神と大国主命 伊勢神宮の誕生（古事記）
4. 石川郎女と大伴田主 古代都市の文学（万葉集）
5. 大伴家持と早良親王 武人の末裔（万葉集）
6. 菅原道真 怨霊登場（大鏡）
7. 倭健命と在原業平 反逆する皇子（伊勢物語）
8. 宇多院 流浪の天子（大和物語）
9. 紀貫之 秩序ある世界（古今和歌集）
10. 藤原道綱母 不幸な心の発見（蜻蛉日記）
11. 安倍晴明 平安京と陰陽道（今昔物語）
12. 中宮定子と清少納言 幸福の記憶（枕草子）
13. 紫式部 現実の貴族社会（紫式部日記）
14. 桐壺帝と桐壺更衣 地上世界の天女（源氏物語）
15. 光源氏と藤壺女御 貴族流離の物語（源氏物語）
16. 光源氏と薫大将 苦悩する男君（源氏物語）
17. 菅原孝標女 物語と信仰（更級日記）
18. 虫めづる姫君 物語の行方（堤中納言物語）

19. 西洞院の女房 本当にあった話（今昔物語）
20. 讃岐典侍 衰弱する天皇（讃岐典侍日記）
21. 崇徳院と鎮西八郎為朝 末法の世のはじまり（保元物語）
22. 平清盛 王権を破壊する者（平家物語）
23. 後鳥羽院と藤原定家 乱世と芸術至上主義（新古今和歌集）
24. まとめ

科目名	外国語文学
担当者	石 崎 晴 己

講義の目標

フランス文学を中心としたヨーロッパ文学への入門。フランス文学は、ギリシア・ヨーロッパの古典古代の文学を最も正統的に継承しつつ発展したものであり、また中世以来、ヨーロッパ文学をリードしてきた。フランス文学を閉鎖的に捉えるのではなく、そうした「国際的」ないし「比較文学的」側面を重視しながら読んでいけば、ヨーロッパ的な考え方と感性を知ることができるだろう。

講義概要

具体的には、ギリシア神話・伝説のテーマの永続性と展開を、フランス一七世紀古典劇を中心にして、フランス現代演劇まで含めて検討すること、中世の物語の近代への展開をたどること等が、主たる課題となるだろう。学生が読んででもない作品のタイトルを次から次に羅列して教師が一方的に語るのではなく、じっくりと作品を味わい、分析するという形で進めたい。言及される作品には学生諸君も一通り目を通していただくことが望ましく、後半は発表もお願いすることになるだろう。映画や劇のビデオ等も折り込んで、作品を享受することの楽しさを追求したいとも思う。

テキスト

なし。必要に応じて、プリントを用意する。

参考文献

教場にて指示。

評価方法

前・後期ともレポートによって評価を決める予定であるが、場合によっては、きわめてレポートに近い形の筆記試験（問題予告による筆記試験）を行なうかもしれない。またできれば学生諸君にも発表をして貰いたいと思っているので、それも評価の手段となるだろう。

受講者への要望

少しでも多く読むこと。

年間授業計画

1. 方針説明。課題図書の設定と分担決定。
2. フランス文学史概観
3. ヨーロッパ文学の基層としてのギリシア神話・伝説の典型としてのトロイ戦争
4. ホメロス「イリアス」
5. アイスキュロス「オレスティア」

6. ラシーヌ「アンドロマック」
7. ビデオ鑑賞
8. ジロドゥー「エレクトル」
9. 同上
10. サルトル「蝇」
11. 同上
12. 予備
13. ラシーヌ「フェードル」学生による発表
14. 同上、教師によるまとめ+ビデオ
15. モリエール「ドン・ジュアン」学生による発表
16. 同上、教師によるまとめ+ビデオ
17. 「トリスタンとイゾー」学生による発表
18. 同上、教師によるまとめ
19. ビデオ鑑賞(ワグナー「トリスタンとイゾルデ」)
20. モンテーニュ「エッセ」より
21. ラ・ファイエット夫人「クレーヴの奥方」
22. デカルト「方法叙説」
23. ルソー「告白」
24. 予備

科目名	外国語文学
担当者	北澤 滋久

講義の目標

文学を味わうことの愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。

講義概要

英米の文学に観る人間像

英米文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1 講義、1 作家、1 作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていけば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもり科目ではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来楽しいもののはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会えて、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたいと思います。

興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。

テキスト

テキストは特に定めません。

参考文献

参考文献は、2 回目の授業時間に一覧表にして配布します。

評価方法

前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで（翻訳可）、その感想文（小論文）を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。

受講者への要望

毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年 25%以上の不合格者が出ています。

年間授業計画

1. 登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2. 開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学

現代文明下のアメリカの少年たち

3. 『ハックルベリーの冒険』：イノセントな魂

THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN by Mark Twain

4. 『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って

BLACK BOY by Richard Wright

5. 『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩

THE CATCHER IN THE RYE by J. D. Salinger

19 世紀、イギリスの娘たち

6. 『テス』：汚された？純潔

TESS OF THE D'URBERVILLES by Thomas Hardy

7. 『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きかたを求めて

THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot

8. 『ジェーン・エア』：自立する女性

JANE EYRE by Charlotte Brontë

19 世紀、英米文学の驚異

9. 『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス

WUTHERING HEIGHTS by Emily Brontë

10. 『白鯨』：近代的英雄の悲劇

MOBY - DICK by Herman Melville

英雄不在の 20 世紀の英雄たち

11. 『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇

LORD JIM by Joseph Conrad

12. 『老人と海』：一老漁師にみる英雄的姿

THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway

海洋（冒険）小説の諸相

13. 『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人

THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE by Daniel Defoe

14. 『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶

GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift

近代芸術観の極致

15. 『月と六ペンス』：芸術家の狂気

THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset Maugham

16. 『アッシュャー館の崩壊』他：至上の美を求めて

THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allan Poe

17. 『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って

THE PICTURE OF DORIAN GRAY by Oscar Wilde

父なるもの、母なるものの原像

18. 『ハムレット』: 青年の母への愛憎
HAMLET by William Shakespeare
19. 『息子たち、恋人たち』: 母と息子の絆
SONS AND LOVERS by D. H. Lawrence
20. 『若い芸術家の肖像』: 父なるものを求めて
**A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG
MAN by James Joyce**
倫理と欲望の狭間
21. 『ねじの回転』: 女性家庭教師のみた幻想
THE TURN OF THE SCREW by Henry James
22. 『事件の核心』: 信仰と不倫に揺れて
**THE HEART OF THE MATTER by Graham
Greene**
23. 『緋文字』: 姦通と復讐の贖い
**THE SCARLET LETTER by Nathaniel
Hawthorne**
24. 閉講の辞: 芸術と人生、そして質疑・応答

科目名	歴史学（日本史）
担当者	新井孝重

講義の目標

14世紀の内乱期は、日本の歴史の大きなまがり角であった。社会は南北朝の内乱を通過するなかで、どのように変化したのか。内乱期の諸相をながめながら、歴史の深いところに分け入り、社会の変化の様相をつかまえる。

講義概要

悪党とはどのような人々のことを云うのか。悪党の生態を観察することによって鎌倉末期の社会矛盾をつかまえる。そのさいの視点として、「武勇」と「武装」の問題は重要。つぎに、内乱の諸相を、なるべく具体的に、人間の行動と思想を通して観る。そのあとで、戦乱のなかで安穩をもとめる民衆のすがたを注目したい。

テキスト

新井孝重『悪党の世紀』、吉川弘文館、1997年。
 その他必要に応じてプリントを配布。

評価方法

評価は、定期試験の成績と出席状況をもってする。

受講者への要望

30分以上の遅刻者は出席者とみなさない。

紳士的な態度で気楽に聴いてほしい。（私語、飲み物は遠慮してほしい）

前期授業計画

1. 大仏を領主にする村 伊賀の農村、出作をする人びと。
2. 大仏を領主にする村 奈良寺院社会の風景、南京大衆の周辺
 在地住民の寄人（よりうど）・神人化による「僧兵」の出現
3. 悪党の活動 村の悪党 荘園在地武士の悪党化
4. 悪党の活動 村の悪党 荘園在地武士の悪党化
5. 寺の悪党 武装する僧徒
6. 寺の悪党 預所（あずかりどころ）の僧、悪党になる

東大寺僧快実について

7. 崩れる一揆の「作法」 中世の一揆とは一揆の淵源である寺僧の衆会について
8. 崩れる一揆の「作法」 荘園体制の一揆的構造 荘民の一揆の「作法」、「武」をともなわない一揆

9. 崩れる一揆の「作法」 悪党の登場
 「武」をともなう悪党の行動様式が荘園制の一揆的構造を破壊

10. 武装の行粧 民間における武装の禁忌性
 甲冑を着ることの意味

11. 武装の行粧 武装すがたの異形性
 中世の祭礼と武装

12. 武装の行粧 悪党の武装……禁忌と異形との関連で武装は「悪」そのものである

後期授業計画

1. 内乱の風景 楠木の勢力
 身体の武装の拡大したすがた……館の武装化……城郭の出現
2. 内乱の風景 楠木の勢力
 在地に城郭がつくられることの意味
3. 内乱の風景 金剛山の攻防
 戦争を社会的に観察すると
4. 内乱の風景 移動する大軍
 北畠顕家奥州軍長征の実相
5. 内乱の風景 戦いの日々
 内乱期武士の戦争観をみる
6. 内乱の風景 軍忠と恩賞
 武士はなぜ戦うのか
7. 内乱の風景 備われる凡下（ぼんげ）の輩
 凡下と呼ばれる人々の生態をみる
8. 内乱の風景 戦争に疲れて
 合戦にあけくれる武士の人生、負傷・討死・没落
9. 内乱の風景 武士たちの生きるための知恵
 国人（こくじん）一揆
10. 悪党の美学 パサラをみる
11. 地下（じげ）の芸能と民衆 猿楽の形成
 伊賀の猿楽
12. 悪党の終焉 「平和」をもとめる民衆

科目名	歴史学(日本史)
担当者	新宮 讓 治

講義の目標

主として明治維新(幕末を含む)期より明治末年までの日本社会近代化の変遷を、下記「講義概要」に示した時期に画し、天皇制確立過程の問題として追う。

そのことを通じ、第二次世界大戦終了までの近代日本社会の特質とともに、「グローバル化」がいわれる現代日本の諸問題を見通すことのできる糧の一端も、学生諸君に学んでもらいたいと意図している。

講義概要

幕末・明治維新时期

西南戦争期

自由民権から帝国憲法体制期

日清戦争期

日露戦争期

戦前の日本

戦後の日本

～ までは史料(地方文書・金石文 碑文・新聞・雑誌その他)を解読しつつ、日本の近代化を探る。

～ は講義とする。

テキスト

講義中に指示する。

参考文献

齊藤博『民衆史の構造』新評論。

新宮讓治『戦争碑を読む』光陽出版社。

『普及版・日本史大系』山川出版社(第11巻「幕藩体制の展開と動揺〔下〕」以後)

その他適宜配布、または指定する。

評価方法

前期: 論述形式でのペーパーテストによる。

後期: 前期に同様。

受講者への要望

まじめな受講と真摯な思考。

年間授業計画

1. 諸史料に出る幕末本百姓体制崩壊の実態 日本における初期資本本源的蓄積期の問題として。
2. 諸史料に表れる明治維新前後の民衆像。
3. 西南戦争と戦後にみられる政府の対応(軍人勅諭を中心に)。
4. 自由民権運動(秩父事件、武相自由民権運動史料を中心に)。

5. 文明開化と福沢諭吉の思想(「時事新報」を中心に)。

6. 自由民権各派の国権主義への傾斜。

7. 或る「日清戦争凱旋記念碑」から、政府の国民強化政策と民衆の動向を考える。

8. 「戦没者碑」に表れた日露戦争後の国民思想(天皇制イデオロギーによる国民生活緊縛の実態)。

9. 「日本資本主義発達史論争」を中心に、戦前日本資本主義の特質について検討。

10. 「戦前と戦後」その政治と経済について(総括として)。

科目名	歴史学(東洋史)
担当者	熊谷哲也

講義の目標

西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。

講義概要

前半は7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教の拡大によって広大なイスラーム世界が形成されるまでの様相を理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。

後半はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する、今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係について、関心と理解が深められるよう留意したい。

テキスト

とくにさだめない。

参考文献

夏休みあけに読書レポートを提出していただくが、そのためにイスラームに関する新書程度の本を用意してもらおう。詳しくは授業で指示する。

評価方法

試験とレポート。発想のオリジナリティを重視する。

年間授業計画

1. イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。
2. イスラーム教の誕生以前の世界について考える。ユダヤ教やキリスト教に関する知識が必要である。
3. 預言者ムハンマド(マホメット)の出現と、その時代背景について考える。彼の教えと、それがアラビア半島内に広まる経過を理解する。
4. 最初の4人のカリフ(正統カリフ)の時代について考える。第一次内乱、シーア派の出現を理解する。
5. ウマイヤ朝の歴史について考える。これがヴェルハウゼンの古典理論において「アラブ帝国」と定義される意味を検討する。
6. アッバース朝の歴史について考える。その成立が、

古典理論において「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行と定義される意味を検討する。

7. イスラーム教の聖典であるコーラン(クルアーン)預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって成立・発達した初期思想と学問について学ぶ。
8. アッバース朝時代から発達したアラビア科学とその内容について、また、中世イスラーム社会において民衆教化の役割をはたしたイスラーム神秘主義について考察する。
9. アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開について概観する。
10. エジプトのマムルーク朝について学ぶ。とくにイクター制と呼ばれる制度が西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。
11. ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代、これらが作り上げたヨーロッパの人々の歴史観について検討する。
12. 同 その2
13. オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。また、カピチュレーションの問題をとりあげる。
14. 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述し、アジアにおける近代化の枠組みをひとまず一般論として把握する。
15. 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容を考察する。欧化主義や原理主義(復興主義)の基本的メカニズムを理解する。
16. さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・ズーフイズムなどの問題について考える。
17. エジプトの近代化とその過程について考える。
18. トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。
19. 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて、いくつかの問題をとりあげて考察する。
20. 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会に固有な事項をとりあげ、近代化との関係について検討する。
21. 近・現代のアラブ世界の文化について考える。
22. 今世紀のイスラーム世界について考える。イスラーム諸国における民族主義とそのゆくえ、マイノリ

テイエの問題をとりあげる。

23. 現在のアラブ諸国のかかえる問題を検討する。ポスト冷戦時代におけるイスラーム諸国と欧米諸国との関係を考える。

24. (予備) まとめをおこなう

科目名	歴史学(西洋史)
担当者	高橋正男

講義の目標

近年われわれはユーラシア大陸の大半を占める西欧、東欧・ロシア、中東・アフリカで起こった政治情勢の変転に際会し、人間生活の過去を構築する歴史学への興味をかきたてられている。歴史学の基点は現代史である。本年度は、文明の発生から現代に至るまでの政治・社会史に重点を置いた西洋史の大勢をエルサレムを基点に世界史的な連関のもとに多面的・立体的に理解させることを主眼とする。受講生とともに複眼的視点から西洋史を現代国際関係史から見直し、あわせて現代社会の根底を理解する素材を提供し、21世紀を展望してみたい。

講義概要

講義は平明・概説的であるが、重要事項は詳述し、あわせて学界の研究状況も織り込んで紹介する。必要に応じVIDEO教材を使用する。講義内容は別紙年間講義予定表を参照されたい。

テキスト

- ・高橋正男著『旧約聖書の世界』(改訂版)時事通信社、2000年。
- ・高橋正男著『年表 古代オリエント史』(第5刷)時事通信社、2000年。

参考文献

- ・D=ハバト著(高橋正男訳)『図説 エルサレムの歴史』(第2刷)東京書籍、1994年。
- ・高橋正男著『エルサレム』(世界の都市の物語14)文藝春秋、1996年。
- ・塩生七生著『ローマ人への20の質問』(文春新書082)文藝春秋、2000年。
- ・J.ロジャーソン著(高橋正男監修)『旧約聖書の王歴代誌』創元社、2000年。
- ・池上彰著『現代史』集英社、2000年。
- ・高橋和夫著『アラブとイスラエル - パレスチナ問題の構図 - 』講談社現代新書1085講談社、2000年。
- ・他その都度紹介する。

評価方法

- ・前期・後期の筆記試験による。
- ・講義資料(年間約40枚)等は出席者のみに配布する。

年間授業計画

前期

1. 歴史とは何か、史学研究法
2. 先史時代と歴史時代とのメルクマール
3. 現代国際関係史の諸問題
4. 古代オリエントの地理的範囲、文明の発生 - 前第四千年紀末 -
5. 古代オリエント史の推移 VIDEO
6. 族長時代からイスラエル王国成立まで(1) - 前19世紀~前11世紀 -
7. 族長時代からイスラエル王国成立まで(2)
8. 第一神殿時代(1) - 前10世紀~前586年 -
9. 第一神殿時代(2)
10. バビロニア捕囚時代 - 前6世紀 -
11. 第二神殿時代(1) - 前538年~後70年 -
12. 第二神殿時代(2)まとめ・VIDEO後期
13. ローマ時代 - 70~330年 -
14. ビザンツ時代 - 330~638年 -
15. 初期ムスリム時代 - 638~1099年 -
16. 十字軍時代 - 1099~1187年 -
17. アイユブ朝およびマムルーク時代 - 1187~1517年 -
18. オスマン帝国時代 - 1517~1917年 -
19. イギリスの委任統治時代 - 1917~1948年 -
20. エルサレムの東西分断 - 1948~1967年 -
21. エルサレム再統合 - 1967年以降
22. 第二次世界大戦後の中東情勢
23. 現代歴史学の諸問題、暦法の変遷
24. 後期のまとめ・VIDEO

科目名	歴史学(西洋史)
担当者	佐藤唯行

講義の目標

世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。

各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。

こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。

講義概要

前期は下記二冊のテキストにそってアメリカの反ユダヤ主義とそれを生み出した要因のひとつとなるユダヤ人側の経済的成功について学ぶ。

後期は黒人、ヒスパニック、アジア系、ネイティブ・アメリカン(インディアン)のエスニック・ヒストリーを中心に毎回、完全に文章化されたレジメを配布する。

テキスト

『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行(2000年 集英社新書 680円)

『アメリカ・ユダヤ人の経済力』(1999年 PHP新書 657円)

評価方法

評価は前後期各1回の筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストのみ持ち込み可。

年間授業計画

- 1.(奴隷制時代合衆国南部のユダヤ人) ユダヤ人と黒人奴隷、ネイティブ白人との関係史を辿ることで奴隷制南部の特質に迫る。
- 2.(合衆国の反ユダヤ主義の特質) 自由と民主主義の国アメリカにも消すことのできない歴史上の汚点、反ユダヤ主義があった。そのピークをなすレオ・フランク事件の意味を探る。
- 3.(大都市移民ゲッターのエスニック・コンフリクト) 世紀転換期の北部大都市においてアイルランド系移民をユダヤ人攻撃に駆り立てた背景を探る。
- 4.(国際的「ユダヤ陰謀論」) 反ユダヤ・キャンペーンを始めた自動車王ヘンリー・フォード、彼とヒトラーを結びつけたきずなを探る。
- 5.(甦る儀式殺人告発) 中世ヨーロッパに起源を持つ恐るべき儀式殺人告発が20世紀のアメリカで再

び復活した背景を探る。

- 6.(閉ざされた象牙の塔) 知的創造に擢んでたユダヤ人知識人がなぜ長期にわたりアメリカの諸大学で教授職から排斥され続けたのか。その原因を探る。
- 7.(反ユダヤ主義の都) 1940年代、「反ユダヤ主義の都」との悪名を冠せられたミネアポリス。悪名を払拭すべく改革に乗り出した市長ヒューバート・ハンフリーの取り組みとは。
- 8.(反ユダヤ主義は死なず) 近年、黒人たちがユダヤ人への憎悪をつのらせつつあるのはなぜか。黒人・ユダヤ人両者の和解の道を探る取り組みを紹介する。
- 9.(アメリカ経済史の中のユダヤ人) 投資銀行業界を二分する勢力のひとつであったドイツ系ユダヤ人と映画産業を築いた東欧系ユダヤ人が果たした役割をアメリカ経済史の中で検証する。
- 10.(現代アメリカユダヤ人の経済力の実像) これまで学問的議論の対象として忌避されてきたユダヤ人の経済力、とりわけ彼等の最大の築財源となった不動産開発・投資について検証する。
- 11.(ウォール街のユダヤ人) 1980年代のウォール街で最大の収益源となったM&Aアドヴァイザリー業務に如何にしてユダヤ人達が頭角をあらわしたのか。また90年代のヘッジ・ファンドにおける彼等の活躍を辿る。
12. 2000年度版「フォーブス長者番付」をもとにアメリカ経済におけるユダヤ人達の経済活動の最新の動向を紹介。彼等の成功を生み出した原因を多角的に解明する。
- 13.(黒人奴隷の意識の世界) 南部のプランテーションに生きた黒人奴隷達が何を考え、何を願ったのか、彼等の意識の内面をスレイブ・ナラティブをもとに掘り起こす。
- 14.(差別体制下の黒人指導者) 19世紀末から20世紀前半のアメリカ黒人史上、所謂差別体制下に、黒人解放の道筋を展望した指導者達の思想と活動に迫る。
- 15.(公民権闘争とブラックナショナリズムの台頭) M・LキングとマルコムXの思想と活動を中心に。
- 16.(黒人・ユダヤ人の関係史) 公民権闘争期の南部で明らかとなったユダヤ人と黒人との特殊な関係、「苦くて甘い出会い」といわれる両者の関係史の形成過程を19世紀に遡さかのぼり歴史的に展望。
- 17.(ヒスパニック・アメリカンの歴史) 彼等がアメリカ社会へ流入するに至った初期の歴史から1960年代のセザール・チャベスによる労働運動までを学

ぶ。

18. (ヒスパニック・アメリカンの世界) 彼等の歴史と現状をとりわけ、黒人社会とのエスニック・コンフリクトの視点から明らかにする。
19. (中国系アメリカ人) ゴールドラッシュ直後のカリフォルニアにおける中国系移民労働者の導入から、近年の「山の手中国人」の形成過程まで。
20. (日系アメリカ人の歴史) 1890年代における移民の本格化から1920年代のハワイにおける民族の違いを乗り越えた労働者階級の連帯実現迄を学ぶ。
21. (日系アメリカ人の歴史) 第二次大戦後の日系人の「サクセス・ストーリー」の光と影、1970年代末以後の日米貿易摩擦のきしみの中で高まる反日系人感情について考える。
22. (インディアンと白人の関係史) 白人との毛皮交易がインディアン社会にもたらした文化的変容から、今日の保留地インディアンを取りまく状況について概観する。
23. (アメリカ政治とエスニシティ) 二大政党と各エスニック集団の歴史的関係を探る。
24. (2000年大統領選挙とエスニシティ) 2000年の大統領選挙を焦点にユダヤ系・黒人・ヒスパニックの政党戦略を探る。

科目名	歴史学(西洋史)
担当者	古川 堅治

講義の目標

21世紀になって、人間社会はどのような道を進もうとしているのか。また、国家という枠組はどのようなようになっていくのか。歴史学の課題とそのような問題意識の下にとらえ、本講座は、副題として「ヨーロッパの歴史」と銘打ち、前期をその統合と分裂の側面から通観し、今日のヨーロッパ連合(EU)がどのような思想的系譜の中から生み出され、かつまたいかなる発展の可能性をもっているかを考えること、後期をバルカン情勢の現在という視点から取り扱い、ヨーロッパの不安定要因としてのバルカン地域がもつ意味を考えることを目標とする。

講義概要

講義は概説的に進めていくが、関係するテーマのビデオや映画・LDなどもできるだけ使って理解を深めるのに役立てたい(ただし、それらの作品は都合により差し替える場合がある)。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提示し、それについて考えてもらうことを主眼にしているので、積極的かつ活発な質問・疑問・意見が出ることが期待されている。その意味でも自由な発言が出るようなアト・ホームな雰囲気、小じんまりとしながら進めていく。

テキスト

特に使用することはしない。

参考文献

主なものは、シラバスに記している。その他のものについてはその都度指摘する。

評価方法

前・後期二回のレポートと数回の小レポートで評価。テーマ、≠切日、枚数等については、授業中に提示する。

受講者への要望

歴史が不得意であったとか、これまで学んだことがなかったという人も関係なく、歴史に興味関心のある人、その必要性を感じている人ならだれでも歓迎。

年間授業計画

前期 - ヨーロッパの歴史～統合と分裂の視点から～

1. はじめに 1)大学の起源：幅広い知識の習得と自己判断力 2)歴史を学ぶことの意味：現代認識と歴史学の課題 3)今、なぜヨーロッパか？ 参考文献：J.

ゲーノ/舛添要一訳『民主主義の終わり』(講談社、1994) VIDEO:「豊かさへの移動」(NHK スペ)(その1)

2. ヨーロッパとは何か？ 1)地理的特徴：古代ギリシア人の「エウロバ」神話 2)言語の多様性 3)ヨーロッパ「文明」と「文化」 参考文献：雑誌『月刊言語 10、特集：地中海文明と言語』(大修館、1998) VIDEO:前回と同じ(その2)
 3. 4. 地中海世界とギリシア人の活躍 1)金属器時代と地中海交易 2)ギリシア古典文明 参考文献：桜井・本村『世界歴史 ギリシアとローマ』(中央公論社、1998) VIDEO:「知の冒険：オデュッセウス」
 5. 6. ローマ帝国の威光 1)ローマ：7つの丘から世界帝国へ 2)ローマ帝国下のヨーロッパ・「ローマの平和」と属州支配・キリスト教化されたヨーロッパ 参考文献：前回と同じ LD:「古代ローマの遺産」
 7. 8. 統一ヨーロッパ構想の起点～カルロス・マグヌスのフランク王国 1)フランク王国の形成 2)「ヨーロッパ合衆国」の原型(?) 参考文献：アインハルドス/国原吉之助訳『カルロス大帝伝』(筑摩書房、1988) LD:「聖なる世界ロマネスク」
 9. 10. 最初のヨーロッパ統合 1)スコラ文化 2)騎士文化ほか 参考文献：ウンベルト・エコ/河島英昭訳『バラの名前(上下)』(東京創元社、1990) VIDEO:「バラの名前」
 11. 12. 第二のヨーロッパ統合 1)「文芸共和国」と宮廷文化(17-18C) 2)ヨーロッパ社会の思想的系譜(16-18C) 参考文献：LD:「華麗なるバロック」前期レポート要領(課題、枚数、提出先など)
- 後期 ヨーロッパ統合と民族の問題～バルカン地方を中心に～
1. 地域研究の意義と方法 1)映画『ピッフォ・ザ・レイン』から見たバルカン史 2)地域研究の性格と方法 参考文献：町田幸彦『コソボ紛争』(岩波ブックレット、1999) VIDEO:『ピッフォ・ザ・レイン』(その1)
 2. 3. オスマン帝国の支配と「民族」問題 1)オスマン帝国の支配構造 2)「民族意識」の覚醒 参考文献：柴宜弘『バルカンの民族主義』(世界史リブレット、山川出版、1996) VIDEO:前回と同じ(その2、その3)
 4. 5. フランス革命思想とバルカンの「民族意識」の形成 1)バルカン商人と諸民族間のネットワーク 2)フランス革命と国民国家の形成 参考文献：野田宣雄『二十世紀をどう見るか』(文春新書、1998)

VIDEO：同上（その4）

- 6.7. バルカン地域における民族運動の展開 1)民族的統合の諸契機 2)バルカン諸民族の独立と対立 3)バルカン地域の民族問題の諸類型 参考文献：大島直政『複合民族国家キプロスの悲劇』（新潮選書、1985） VIDEO：「国境紀行：分断された地中海の島国キプロス」（その1）
8. バルカン地域の将来 1)バルカン連邦構想の系譜 2)バルカン諸国サミットの意義 参考文献：VIDEO：前回と同じ（その2）
9. 10. ヨーロッパ統合の思想的系譜（その1） 1)第一次世界大戦の衝撃 2)戦後の「統合」構想：不戦のためのヨーロッパ統合案 参考文献：新田俊三『ユーロ経済を読む』（講談社現代新書、1999） VIDEO:「映像の世紀：世界は地獄を見た」
11. ヨーロッパ統合の思想的系譜（その2） 1)17世紀以前の統合構想 2)17・18世紀の統合構想 参考文献：渡部 亮『改革の欧州に何を学ぶか』（中公新書、1999） VIDEO：『ヨーロッパ経済難民』（その1）
12. おわりに 1)ヨーロッパ統合の歴史的意義 2)ヨーロッパ統合と日本 参考文献：谷川稔『国民国家とナショナリズム』（世界史リブレット）山川出版、1999） VIDEO：同上（その2）

科目名	人文科学特殊講 A (現代社会と学問)
担当者	川 村 肇

講義の目標

1. 教育実践記録を読むことを通じて、教育の現場の実際を知る。
2. 教育実践記録の読み方を深める。
3. 教育を客観的に見ることによって、各自の教育体験を相対化する。
4. 現代社会と教育問題とのかかわりの理解を深める。

講義概要

1. 月刊誌『生活指導』を中心とする教育実践報告を読む。
2. 各自が実践分析を行い、一人が発表し、全員がコメントする。
3. 報告とコメントに基づき、実践分析に関する討議を行う。
4. 扱われている全体テーマについて討議を行う。
5. 掲載論文を月 1 回程度学習する。

テキスト

1. 月刊誌『生活指導』(2001 年 5 月号～各月号。各 690 円程度。明治図書)
2. 配布プリント類

参考文献

- ・堀尾輝久『現代社会と教育』(岩波書店、新書)
- ・『竹内常一 教育の仕事』(全 6 巻、青木書店)
- ・竹内常一『生活指導の理論』(明治図書)

その他、授業中に適宜指示します。

評価方法

毎回発表する実践分析と、随時課すレポートによる。

受講者への要望

- ・初回の授業に、自分の受けてきた教育を振り返りながら、現代の教育について考えることを簡単なレポートにして持参すること(形式、枚数等自由)
- ・2 回目の授業までに『生活指導』2001 年 5 月号を購入して、持参すること。(発売日は毎月 15 日前後)
- ・6 月初旬の土日、12 月初旬の土日に行われる、埼玉県教員の自主的学習会合宿に参加すること(参加費用各 10,000 円程度)
- ・参加者が中心となる形式なので、毎回必ず参加すること。教職課程の登録の有無に関わらず、教

育問題に関心のある学生の積極的な参加を望む。

- ・ E-mail が使えること

年間授業計画

1. 講義の進め方 / 実践分析とは何か / 現代社会の教育について(意見交換)
2. 『生活指導』(2001 年 5 月号)誌上の実践報告の分析
3. 『生活指導』(2001 年 5 月号)誌上の実践報告の分析
4. 『生活指導』(2001 年 6 月号)誌上の実践報告の分析
5. 『生活指導』(2001 年 6 月号)誌上の実践報告の分析
6. 『生活指導』(2001 年 6 月号)誌上の実践報告の分析
7. 『生活指導』(2001 年 6 月号)誌上の論文の学習
8. 『生活指導』(2001 年 7 月号)誌上の実践報告の分析
9. 『生活指導』(2001 年 7 月号)誌上の実践報告の分析
10. 『生活指導』(2001 年 7 月号)誌上の実践報告の分析
11. 『生活指導』(2001 年 7 月号)誌上の実践報告の分析
12. 『生活指導』(2001 年 7 月号)誌上の論文の学習
13. 『生活指導』(2001 年 10 月号)誌上の実践報告の分析
14. 『生活指導』(2001 年 10 月号)誌上の実践報告の分析
15. 『生活指導』(2001 年 10 月号)誌上の論文の学習
16. 『生活指導』(2001 年 11 月号)誌上の実践報告の分析
17. 『生活指導』(2001 年 11 月号)誌上の実践報告の分析
18. 『生活指導』(2001 年 11 月号)誌上の実践報告の分析
19. 『生活指導』(2001 年 11 月号)誌上の論文の学習
20. 『生活指導』(2001 年 12 月号)誌上の実践報告の分析
21. 『生活指導』(2001 年 12 月号)誌上の実践報告の分析
22. 『生活指導』(2001 年 12 月号)誌上の論文の学習
23. 『生活指導』(2002 年 1 月号)誌上の実践報告の分析
24. 『生活指導』(2002 年 1 月号)誌上の実践報告の分析

科目名	人文科学特殊講義 A (西洋哲学史)
担当者	谷 口 郁 夫

講義の目標

20 世紀は戦争の世紀でした。人類は人類全体どころか、地球全体を何度も死滅させることのできるほど核兵器を製造し、民族浄化という名のもとで、殺戮を繰り返してきました。これは今も続いています。18 世紀は、ヨーロッパでは理性の時代だったといえるでしょう。明るい未来が多少なりとも信じられていました。19 世紀は市民革命の世紀でした。まだ、彼らは未来を信じることができたかもしれませぬ。20 世紀を生きた我々は、まだ人間理性を信頼することができるのでしょうか。このような問題を念頭に置きながら、「悪」について考える予定です。

講義概要

哲学に関する書物に触れる機会はあまり多くないだろうと思いますので、できるだけ多くの関連書物を読むことを中心に授業を進めます。具体的には、「悪」に関する文献をいくつか取り上げながら、できるだけ多くの方向から「悪」の問題を考察し、それを通じて、人間存在の理解を深めたいと考えています。今年は特に、キルケゴールに多くの時間を割く予定です。

テキスト

すべてこちらで用意しますが、インターネット上のファイルをダウンロードしていただく場合があります。

参考文献

ルソー「人間不平等起源論」、エーリッヒ・フロム「悪について」、キルケゴール「不安の概念」など。インターネット上に準備をしていきますので、ダウンロードしていただくこととなります。なお、獨協大学の HP ではありません。アドレスは最初の講義でお知らせします。

評価方法

講義の中で、何回か小論文を書いていただきます。前後期あわせて 6-8 回位を予定していますが、就職活動などで出席できなかった学生には、レポートの提出を課します。メールでお問い合わせください。

受講者への要望

インターネット、メールなどをきちんと利用できるようにしてください。質問は、特に重要な質問に関しては、メールを使ってください。アドレスは講義の中でお知らせします。私語は厳禁です。

年間授業計画

1. アリストテレスの言う「ポリスの動物」としての人間を取り上げ、現代の動物行動学の成果なども踏まえながら、人間について考えます。
2. アウグスティヌス「エンキリディオン」キリスト教における悪の問題について。
3. 前回の続き
4. 四回にわたって、「自然状態」について考えます。まず、ホッブスの「リヴァイアサン」を取り上げます。彼は人間を性悪説でとらえていますので、その点に特に注目します。
5. ロック「人間知性論」「市民政府論」における人間観。
6. ルソーの思想に現れた人間観について考えます。自然状態というものを想定しうるとすれば、そこで人間はどんなものなのかについて考えてみたいと思います。
7. 前回の続き
8. 社会心理学者、エーリッヒ・フロムの思想を取り上げます。「悪について」「破壊」など。
9. 前回の続き
10. 前回の続き
11. カントの「単なる理性の限界内における宗教」における根源悪の問題について考えます。あわせて、アダム・スミスの「道徳感情論」との比較を試みます。
12. 前回の続き
13. キルケゴールの生涯と思想
14. キルケゴールの日誌から
15. キルケゴール「おそれとおののき」
16. キルケゴール「不安の概念」1
17. キルケゴール「不安の概念」2
18. キルケゴール「不安の概念」3
19. キルケゴール「哲学的断片への完結的非学問的後書き」1
20. キルケゴール「哲学的断片への完結的非学問的後書き」2
21. キルケゴール「哲学的断片への完結的非学問的後書き」3
22. ウィリアム・ジェイムズ「宗教的経験の諸相」を取り上げます。
23. 「悪」の問題の総括を試みる。
24. 予備

科目名	人文科学特殊講義 A (哲学思想史)
担当者	谷口郁夫

講義の目標

生きることの意味はあるのか、これは、我々が時として突きつけられる問題です。われわれはその問いから逃げることはできません。逃げることもまた、答えていることになる、これは、そういう種類の問いだからです。これはまた自由の問題でもあります。「自由」を手に入れることで、人間はまた「自由」に悩まされてもいるのです。「選ぶことができる」ということは、同時に「選ばなければならない」ということでもあります。「選ぶ」という行為において、価値、意味の問題が姿を現わします。このことを念頭に講義を進めます。

講義概要

19世紀の末、ニーチェは次のように書いています。「ニヒリズムとは何を意味するのか？ 至高の諸価値がその価値を剥奪されるということ。目的が欠けている。『何のために？』への答えが欠けている。」ニーチェがこの言葉を発したとき、その重要性に気づいた人はひとりもいませんでした。狂人の戯言だったのです。二度の大戦を経験した現代人は、ニーチェのこれらの言葉こそ、われわれの状況を言い当てていることに気づいたのです。この講義では、ニーチェを中心に、ニヒリズムの問題について取り上げ、生の意味、労働の意味、人間であること、自由、価値などについて考えていきます。

テキスト

すべてこちらで用意しますが、インターネット上のファイルをダウンロードしていただく場合があります。

参考文献

ニーチェ「ツァラトゥストラはこうに語った」、「楽しい知識」、フランク「夜と霧」など。インターネット上に準備をしていきますので、ダウンロードしていただくことになります。なお、獨協大学のHPではありません。アドレスは最初の講義でお知らせします。

評価方法

講義の中で、何回か小論文を書いていただきます。前後期あわせて6~8回位を予定していますが、就職活動などで出席できなかった学生には、レポートの提出を課します。メールでお問い合わせください。

受講者への要望

インターネット、メールなどをきちんと利用できるようにしてください。質問は、特に重要な質問に関しては、メールを使ってください。アドレスは講義の中でお知らせします。私語は厳禁です。

年間授業計画

1. ニーチェの生涯と思想。ニーチェの遺稿の一部を取り上げ、何がニーチェにおいて問題となったのかをまず紹介していきます。
2. 前回のつづき。ニヒリズム、超人、永遠帰、価値転換、キリスト教批判などについて。
3. ニーチェ「悦ばしき知識」を読む。ニーチェにおける「神の死」の宣告。特に、時代状況との関連に顧慮する。
4. ドストエフスキー「罪と罰」「悪霊」を読む。
5. 前回に続き、ドストエフスキーの作品における、超人の問題。ドストエフスキーにおけるニヒリズム克服の試みとその挫折について。
6. ドストエフスキー「カラマーゾフの兄弟」に含まれる「大審問官」で自由に関する独特の思想が展開されています。自由についてもう一度考えます。
7. カミュ「シーシュポスの神話」におけるドストエフスキー解釈について。特に自殺の問題をめぐって。
8. 前回の続き
9. エーリッヒ・フロム「自由からの逃走」を取り上げ、現代人にとっての自由の意味について考えます。
10. キリスト教について改めて考えます。
11. 前回のつづき。労働の意味、文化、関係としての自己、などについて。
12. ニーチェ「ツァラトゥストラはこう言った」を読む。「超人」「自己超克」について。
13. 前回のつづき。
14. 前回のつづき。
15. ニーチェ「道徳の系譜」。この著作で、善や悪が歴史的に形成されていくものとされています。この問題について考察します。
16. 前回のつづき。
17. ニーチェ「この人を見よ」における「運命愛」について。新たな価値観としての「力への意志」「ディオニュソス的なもの」について。
18. 前回のつづき。
19. 前回のつづき。
20. フランク「夜と霧」。フランクの言う「ニヒリズムの克服」、「生の意味」などについて考える。
21. 前回の続き。「死と愛」「苦悩の存在論」などを併読予定。個と個、個と社会の関係性について。
22. 一年間のまとめとして、さらに広く現代社会にお

けるニヒリズムの問題とその克服の試みについて考
える。

23. 予備

24. 予備

科目名	人文科学特殊講義 A (キリスト教史)
担当者	中 島 文 夫

講義の目標

キリスト教史の考察にはいくつかの異なる視点が可能である。教義・教理の展開を主眼とすることもあれば、教勢の伸長・衰退に焦点を合わせることもできる。また、教団・教派の生成・変化に着目することもあろう。信仰生活の慣習や典礼の変遷を中心とする歴史も考えられるであろう。しかし、この講義では、キリスト教がヨーロッパ大陸の歴史の中で展開した歴史的宗教であるという基本的認識を基盤として、キリスト教を一般史との関わりにおいて見、キリスト教の展開を軸として一般史を見ようとする。

講義概要

- キリスト教史 (古代・中世前期) -

キリスト教は歴史的宗教である。初めから完成されたものとして存在したのではなく、ヨーロッパ大陸の歴史との関わり合いの中で形成されて来たばかりでなく、その歴史的展開の中に神の摂理を読み取るうとする姿勢を常に持ち続けている。二重の意味で歴史的本性をもつ宗教なのである。そのような宗教としてキリスト教が形成されて行った過程を丹念に跡づけて行くことにする。その範囲を古代から中世前期までに限定し、普遍的教会という理念のもとに教皇を頂点とするゲルマン的キリスト教世界ができ上がるまでの経緯を明らかにする。

テキスト

使用しない。代りに、レジュメのプリントを配布する。

参考文献

必要に応じて、講義中に適宜提示する。

キリスト教について全く予備知識のない人には、予め下記の本を読んでおくことを勧める。

井上洋治『キリスト教がよくわかる本』(PHP文庫)

評価方法

前期・後期とも、期末に筆記試験を課す。また、毎回出欠を点検し、評価の一要素とする。甚しく欠席の多い者には単位を与えない。

受講者への要望

特に予備知識を要求しないが、未知の分野に対する旺盛な知的好奇心を持って欲しい。また、講義者及び同僚履修者に対する節度あるマナーを期待する。

年間授業計画

1. 序説 1. キリスト教大観。
序説 2. キリスト教史の意義。
2. 序説 3. ヘブライズムとヘレニズム。
第 1 章 原始キリスト教団の誕生。
§ 1. イエスとその弟子たち。
3. § 2. 原始教団の成立と発展。
§ 3. 「異邦人の使徒」パウロ。
4. § 4. 新約諸文書の成立。
§ 5. 「キリスト論」の展開。
5. 第 2 章 古カトリック教会の成立。
§ 1. 2 世紀のキリスト教。
§ 2. 初期異端と「カトリック」教会の成立。
§ 3. ローマ教会の優位。
7. § 4. ロゴス・キリスト論の確立。
§ 5. アレクサンドリア学派。
8. 第 3 章 「帝国の教会」 § 1. 教会の制度的発展。
9. § 2. 「秘蹟」制度の発展。
10. § 3. 「帝国の教会」への歩み。
11. § 4. ニカイア抗争 アレイオス主義の問題。
12. § 5. 修道生活の発祥と普及。
13. 第 4 章 キリスト教世界の再編成。
§ 1. ゲルマン民族大移動とキリスト教。
14. § 2. 修道院制度の発展。
§ 3. 正統キリスト論の確定。
15. § 4. 西方教会の独自の発展。
16. § 5. 西方教会の権威の確立。
17. 第 5 章 ゲルマン的キリスト教世界の形成。
§ 1. フランク教会の形成。
18. § 2. カルル大帝とカロリング帝国。
19. § 3. 帝国の崩壊と再建 神聖ローマ帝国。
20. § 4. 修道生活の革新と聖者・聖遺物崇敬。
21. § 5. 西欧キリスト教世界の拡大。
22. 第 6 章 教皇権の隆盛。
§ 1. グレゴリウス改革と「使徒的生活」
23. § 2. イエルサレム巡礼と第 1 次十字軍。
24. § 3. スコラ学的发展。

科目名	人文科学特殊講義 A (キリスト教史)
担当者	中 島 文 夫

講義の目標

キリスト教史の考察にはいくつかの異なる視点が可能である。教義・教理の展開を主眼とすることもあれば、教勢の伸長・衰退に焦点を合わせることもできる。また、教団・教派の生成・変化に着目することもあろう。信仰生活の慣習や典礼の変遷を中心とする歴史も考えられるであろう。しかし、この講義では、キリスト教がヨーロッパ大陸の歴史の中で展開した歴史的宗教であるという基本的認識を基盤として、キリスト教を一般史との関わりにおいて見、キリスト教の展開を軸として一般史を見ようとする。

講義概要

キリスト教史 (中世後期・近代前期)

キリスト教は歴史的宗教である。初めから完成されたものとして存在したのではなくてヨーロッパ大陸の歴史との関わり合いの中で形成されて来たばかりでなく、その歴史的展開の中に神の摂理を読み取るうとする姿勢を常に持ち続けている。二重の意味で歴史的本性をもつ宗教なのである。そのような宗教としてキリスト教が「ヨーロッパ」の形成とどのように関わったかを丹念に跡づけようとする。範囲を中世盛期から近代前期(宗教改革の時代まで)に限定し、東方キリスト教は除外する。

テキスト

使用しない。代りに、レジュメのプリントを配布する。

参考文献

必要に応じて、講義中に適宜提示する。

キリスト教について全く予備知識のない人には、予め下記の本を読んでおくことを勧める。

1. 井上洋治『キリスト教がよくわかる本』(PHP文書)
2. 徳善義和・百瀬文晃『カトリックとプロテスタント どこが同じで、どこが違うか』(教文館)

評価方法

前期・後期とも、期末に筆記試験を課す。また、毎回出欠を点検し、評価の一要素とする。甚しく欠席の多い者には単位を与えない。

受講者への要望

特に予備知識を要求しないが、未知の分野に対する旺盛な知的好奇心を持って欲しい。また、講義者及び同僚履修者に対する節度あるマナーを期待する。

年間授業計画

1. 序説 1. キリスト教大観。
序説 2. キリスト教史の意義。
2. 序論 9～10世紀の西ヨーロッパ世界。
 2. 第1章 ローマ教皇権の隆盛。
 - § 1. グレゴリウス改革と「使徒的生活」
 4. § 2. イエルサレム巡礼と十字軍。
 5. § 3. 正統と異端。
 6. 第2章 中世盛期の社会と文化。
 - § 1. 通商活動の復活と都市の発達。
 - § 2. 法体系の整備。
 7. § 3. スコラ学の発展。
 - § 4. 新しい知的世界。
 8. § 5. トーマス・アキナスの人格主義。
 9. § 6. ロマネスク文化とゴシック文化。
 10. § 7. 聖母崇敬。
 11. 第3章 中世の秋。
 - § 1. ドイツ神秘主義と《Devotio Moderna》
 - § 2. スコラ学の変質と崩壊。
 12. § 3. 教皇権の衰退と《Schisma》
13. 第4章 「宗教改革」の時代
 - § 1. ルネサンスとキリスト教。
 - § 2. ルターとドイツの宗教改革運動
 14. § 2. ルターとドイツの宗教改革運動(続)
 - § 3. スイス(ドイツ語圏)の宗教改革
 15. § 4. 再洗礼派
 16. § 5. カルヴァンとスイス(フランス語圏)の宗教改革
 17. § 6. カルヴァンの思想
 18. § 7. イングランドの宗教改革
 19. § 8. 前期カトリック改革
 20. 第5章 抗争の時代
 - § 1. トリエント公会議と対抗宗教改革
 21. § 2. ユグノ戦争とオランダの独立
 22. § 2. ドイツにおける抗争
 23. § 3. 三十年戦争
 24. § 4. ビューリタン革命

科目名	人文科学特殊講義 A (日本近代史)
担当者	中 村 燦

講義の目標

大東亜戦争の歴史的背景、原因、意義を明治開国に遡って解説論評する。話題となった南京事件、慰安婦問題等にも触れ、その実体に迫る。NHK、朝日新聞、岩波新書などを金科玉条と盲信してきた諸君にとっては、目から鱗の落ちるような授業となるだろう。学生諸君に戦争と歴史と人間についての思索を深めてもらうことを狙いとする。この講義は日本人としての歴史観に立って講述するので、一部の外国人学生にとっては相当聞きづらい講義であることを予め承知されたい。

講義概要

資料を配布して講義。

随時ビデオを上映し、レポートを提出してもらう。

テキスト

- 中村 燦 『大東亜戦争への道』(展転社)
- ” 『慰安婦問題の虚像と実像』(国民会館)
- ” 『(英文)歴史の中の南京事件』

参考文献

随時紹介。

評価方法

平素の勤怠。受講態度。レポート。定期試験。

受講者への要望

始業時には大きな声で挨拶すること。真剣に授業に臨み、私語や飲食は一切禁ずる。茶髪・金髪は感心しない。

科目名	人文科学特殊講義 A (日本近現代史)
担当者	今野 日出晴

講義の目標

日本の近現代史を対象にしながら、歴史を学ぶ意味、そして、歴史に接近する方法を考えてみたい。過去は、現在から切り離されたものと感じられ、未来は、不透明でかすんでいるように見える。こうした状況において、立脚する視座と方法を鍛えることはますます重要になってきている。自明のものとおもわれるさまざまな概念を検討することで、私達の近現代史像を練り上げて、「過去と未来の対話」を試みたい。

講義概要

日本近現代史とされる場合の「日本」とは何か、「近代」とは何か。それらは、どのように論じられてきたのか。そして、実際の歴史の道程は、どのような筋道をたどって現在に至るのか。具体的な歴史の事象から、現在を理解するためのテーマを設定して、ともに考えてみたい。

テキスト

特に定めない。

参考文献

随時紹介する。

評価方法

筆記試験によって評価する。適宜課すレポートも評価の対象とする。

受講者への要望

受動的ではなく、積極的な態度で授業に参加することを期待する。

年間授業計画

1. 歴史を学ぶ意味
2. 歴史学と物語 - 方法からの問い -
3. これまで学んできた「日本史」と「近現代史」
4. 「日本」とは何か - 国号をめぐる -
5. 国民国家論の視座 - その 1 -
6. 国民国家論の視座 - その 2 -
7. 明治維新と国民国家
8. 国民国家とメディア
9. 国民国家の形成 - 自由民権運動 -
10. 国民国家の成立 - 国語と日本語 -
11. 国民国家と近代教育 - 「日本人」のつくりかた -
12. 国民国家と軍隊
13. 国民国家と戦争 - 日清戦争と日露戦争 -
14. 国民国家と戦争 - 日露戦争 -

15. 沖縄から見た明治国家
16. 植民地と帝国日本
17. 大正デモクラシー - その 1 -
18. 大正デモクラシー - その 2 -
19. アジア・太平洋戦争 - 国民と動員 -
20. アジア・太平洋戦争 - 証言と史料 (1) -
21. アジア・太平洋戦争 - 証言と史料 (2) -
22. アジア・太平洋戦争 - 沖縄戦 -
23. 戦争責任論の現在 - インターネットから -
24. 過ぎ去ろうとしない過去

科目名	人文科学特殊講義 A (西洋美術史)
担当者	前 川 久美子

講義の目標

十四、五世紀のイタリアとアルプス以北の絵画作品を中心に、西洋美術の見方を学ぶ。

講義概要

1～4週で完結するテーマごとに、スライドを使い講義形式で進める。

テキスト

なし。

参考文献

授業時間中に指示する。

評価方法

テスト。出席も考慮する。場合によってはレポートも課す。

受講者への要望

プリントの重要事柄を中心に、スライドで見せる美術作品を通じて具体的に理解、ノートに書き取って欲しい。

年間授業計画

1. イントロダクション
2. 十四世紀前半のイタリア美術
3. ジョットと同時代の画家たち
4. ～7. ジョット作「スクロヴェーニ礼拝堂壁画」
8. 十四世紀後半のイタリア美術
9. ～10. 十四世紀までの北方美術
11. 国際ゴシック様式
12. 十四、五世紀の芸術家の社会的立場
13. 十五世紀初頭のイタリア美術
14. ～16. マザッチオ作「ブランカッチ礼拝堂壁画」
17. マザッチオと同時代の画家たち
18. 遠近法
19. ～20. 十五世紀半ばから後半のイタリア美術
21. 十五世紀の北方美術
22. ヴァン・エイク作「ヘントの祭壇画」
23. 偽装のシンボリズム
24. 美術作品に「包含された」鑑賞者

科目名	経済学
担当者	片岡晴雄

講義の目標

近代経済学の基礎知識について講義する。経済学は一般に初学者にとって理解しづらい社会科学の一分野というイメージが強いようである。それは、経済学が必ずしも単に日常の経済現象を理論的に説明することを目的とするのではなく、現代社会の経済的仕組みを体系的に理解しようとする学問であることに由来する。従って本講義では、この様に経済を体系的に理解するとはどういうことかについて分かり易く説明したい。

講義概要

経済学の発生的な順序を考慮してミクロ経済学から講義を始める。ミクロ経済学は、市場経済下における個々人の経済行動を体系化した学問である。この様な個々人の合理的経済行動を通じて形成される経済秩序は極めて優れた経済効率を達成している。その経済効率とは如何なるものかについて述べる。後期では、ミクロ経済の限界を超えるものとして誕生したマクロ経済学の基礎について講義する。このマクロ経済学は、その誕生の経緯からにして、非常に現実適用性の高い理論である。

テキスト

小野俊夫編「現代経済学の基礎」(学文社)

参考文献

新開陽一・新飯田宏・根岸隆著「近代経済学」(有斐閣)

パウモテル/ブラインダー著 佐藤隆三監訳「エコノミクス入門」(HBJ 出版局)

福岡正夫著「ゼミナール経済学入門」(日本経済新聞社)

評価方法

[前期] 出席と期末テストを見て総合的に判断する。

[後期] 前期と同じ。

受講者への要望

経済学は積み重ねの学問であるので、毎回出席することが望ましい。

前期授業計画

1. はじめに

講義の進め方 / 経済学の目的と役割 / 評価の方法 / 参考文献

2. 近代経済学誕生までの経済学の流れ

古典派経済学 / 限界革命と近代経済学 / ケインズ革命とマクロ経済学

3. 市場と価格

ミクロ的経済循環 / 市場機構 (価格メカニズム)

4. 需要と供給の基礎理論

部分均衡分析と一般均衡分析 / 需給均衡と均衡の安定性 / 市場の諸形態 / 需給曲線の形状と価格弾力性 / 消費者余剰と生産者余剰

5. 家計の行動

効用関数 / 消費者均衡 / 消費財の需給曲線 / 労働の供給曲線 / 貯蓄の決定

6. 企業行動の理論

生産関数 / 技術選択 / 短期の費用曲線 / 短期の供給曲線 / 長期の供給曲線と産業の均衡 / 生産要素の需要

7. 完全競争市場と経済効率

実証分析と規範分析 / パレート最適と完全競争 / 社会的厚生関数 / 投票のパラドックス

8. 所得分配

階層的所得分配 / 所得分布の不平等度の測定 / 機能的所得分配

9. 市場機構の限界

私的財と公共財 / 外部効果 / コースの定理 / 公共財における市場の失敗 / 情報の不完全性と市場の失敗

10. 不完全競争市場の企業行動

独占市場 / 寡占市場 / 独占的競争市場

11. ミクロ経済学の応用

米価問題 / 自由貿易の利益 / 公共地の悲劇

12. ミクロ経済学のレビュー

市場における価格の役割 / 期末テストの説明

後期授業計画

1. マクロ経済循環 (国民経済計算の体系)

マクロ経済循環と国民所得 / 国民所得の諸概念 / 国民所得の三面等価 / マクロ経済循環と産業連関表 / GNP デフレーター

2. 経済学の危機とケインズ革命

新古典派の雇用理論 / ケインズの批判 / 一般理論の体系

3. 国民所得の決定

有効需要の原理 / 均衡国民所得の決定の 45 度線モデル / 均衡国民所得決定の貯蓄・投資モデル / 節約 (貯蓄) のパラドックス

4. 投資乗数の理論

投資の乗数効果 / 乗数過程の中断 / インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ

5. 投資の決定
投資の諸概念 / 投資と資本の限界効率 / 利子率と
投資の決定 / トービンの q 投資理論
6. 政府活動と国民所得
直接税と間接税 / 政府支出乗数 / 自動安定化装置
/ 公債負担の問題 / リカード定理
7. 貨幣市場
貨幣の本質と機能 / 貨幣制度と貨幣の種類 / 貨幣
供給 / 貨幣需要 (流動性選好理論)
8. 生産物市場と貨幣市場の同時均衡
生産物市場の均衡と I S 曲線 / 貨幣市場の均衡と
L M 曲線 / 財政政策と金融政策
9. 経済のマクロ的一般均衡体系
労働市場の均衡 / 物価と産出量の同時決定 / 賃金
伸縮性と完全雇用 / ビグー効果
10. インフレーション
超過需要インフレ / コスト・プッシュ・インフレ
/ フィリップス曲線と雇用
11. 経済の変動と成長
カレツキー = カルドア モデル / サミュエルソン
= ヒックス = グッドウィン モデル / ハロッド =
ドマー モデル / ソロー モデル / 新しい経済変動
と成長のモデル
12. 開放体系のマクロ経済学
国際収支 / 外国為替相場と国際収支の調整 / 開放
体系のマクロ経済モデル / 国内均衡と対外均衡

科目名	経済原論
担当者	松本正信

講義の目標

現代経済の実際と理論を知識すること。経済学・社会科学の面白さの一面に、「個人にとって真なる行動も社会全体から見ると必ずしも真ではない、つまり逆もまた真」とか、「経済学を学ぶ前の常識と学んだ後の常識とは異なる」といった事があります。しかしもっと大切な事は経済理論・経済思想がその時代々々の背景とともに変遷してきた事実を見極める事です。そのうえに立って出来れば現代世界の政治経済的動向を、人類の未来像へのビジョンを、年間の経済学を通じて探ってみたいと考える。

講義概要

年間を通じて、ミクロ・マクロの経済理論の概要を講義します。後記の年間授業計画に示す通り、前期ではほぼミクロ経済学を、後期ではほぼマクロ経済学を配当します。前期のミクロ理論は個人（消費者）や企業など個々の経済主体が経済合理性にしたがって行動するとき、その経済社会はどのような経済状態を実現することになるか。そのキーワードは価格、市場、外部性等である。後期のマクロ理論は個々の経済主体の行動を社会全体の1つの集合体と考え、その行動を1つの集計量としてとらえるとき、社会全体がどのような状態になるかを分析する。そのキーワードは所得、消費、貯蓄、投資、物価水準、利子率、政府の財政・金融政策等々である。これらを講義の目標に関連させるようにする。

テキスト

・小野俊夫編著『現代経済学の基礎』学文社

参考文献

中谷巖『入門マクロ経済学』日本評論社

伊藤元重『入門ミクロ経済学』日本評論社

評価方法

前期・後期の2回ある定期試験の結果に出席状況・受講態度を加味して評価する。もとより定期試験の結果を最重要視する。かといって試験さえ出来れば出席しなくともよいと思えば大間違い、自身で自学自習すれば受講時間の5倍、10倍の時間を要するであろう。努力忘れ給もうな。

受講者への要望

静かに眠っている分にはさしつかえないが、雑談・私語は真面目で熱心な受講生と講義をしている私にとっては騒音という名の一大外部不経済。排除さる

べきは当然。まずは熱心に聴き給え。授業料が不経済。

年間授業計画

つぎの序・終章を含めた12の章を2~3回の講義で進めて行く積もりである。

序章（プロローグ）

経済学と経済系、現代経済の問題：南北問題と環境問題（地球系と人間系）人類の経済発展：とりわけ産業革命前と後、ならびに経済思想の変遷（アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、シュンペーター、ケインズ等々）、資本主義経済の変遷（とりわけ第二次世界戦争前と後との移り変わり）、現代の経済思想。

1. 消費の理論（狙いは「需要の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）消費者行動の理論、消費選好理論に基づく解説；消費者の均衡点、価格・消費曲線、個別および社会需要曲線、所得効果と代替効果、代替財（競争財）と補完財、需要の価格（所得）弾力性、消費者余剰。1章に最後にいたっては、工業製品と農産物の需要の違い、特質を考えてみよう。昨今、ガット・多角的貿易交渉（ウルグアイラウンド）において日本の米の輸入自由化問題が宣伝されているのでこの問題も考えてみよう。
2. 生産の理論（狙いは「供給の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）生産とは、企業（生産者）行動の理論、費用分析、平均費用と限界費用、損益分岐点と操業中止点、個別および社会供給曲線、短期および長期供給曲線、技術進歩の供給曲線に与える影響、大都市集中の問題。
3. 市場；マーケット（交換の理論）市場と取引：その形態、市場における均衡と不均衡、市場機構（マーケット・メカニズム）の果たす役割とその効率性、価格の媒介機能（Parametric function of price）、部分均衡と一般均衡、マーシャル調整とワルラス調整、くもの巣の理論（農産物価格の形成過程）
4. 競争の問題 競争市場と自由市場、完全競争市場の定義、不完全競争市場の諸形態、独占の問題；ここでは売手独占について考える。独占均衡と独占利潤、完全競争均衡との相違（短期・長期）、市場の効率性と資源の最適配分ならびに消費者主権との関連、生産者余剰と社会的余剰；その完全競争者と独占者の相違、社会的余剰の独占による死重的損失、最後にアメリカの生産者が日本の輸出品に対してしばしばなされるダンピング（廉価販売）提訴につい

て考えてみたい。消費者がとるべき態度、消費者教育の問題も考えよう。

5. 市場の限界と失敗・欠落 市場には大なり小なり不完全、ただその程度が問題だ。非価格競争、品質競争、アフター・サービスはよしとして、ビホアー・サービス（ワイロ）談合・慣れ合いはかつてアメリカにもあった。日本でも建設業界ばかりではない。もともと、市場での取引にそぐわない財貨・サービスが増大しているのも現代社会の特質。ゴミをだれが金をだして買いますか。負の価格の意味するもの、一般道路で通行料を徴収するか税で賄うかどちらが効率的か火を見るより明らか。外部経済・不経済、公共財（公共サービス）パブリック・ユーティリティ、公的独占と公共料金、投票と納税、パレート最適と社会的厚生。

6. 国民所得の分析 マクロ経済学の生成と意義、大恐慌とケインズ思想、修正資本主義と混合経済、第二次世界戦争後の自由主義圏工業先進国の経済成長と現代経済思想。マクロ的経済循環、国民所得の諸概念、総需要・総供給（総生産）あるいは集計需要・集計供給、消費とマクロ消費関数、貯蓄と投資の意義、その行動主体と動機の違い、投資の変動性；投資の限界効率；投資対象の価値、将来の期待収益と割引利率、貯蓄と投資の不均衡による均衡国民所得水準の変動、乗数過程、節儉のパラドックス、政府部門と外国貿易を加えた乗数理論、国民所得水準と労働雇用水準との関係。

7. 貨幣・金融市場 金本位制と管理通貨制度；その歴史的意義と機能の違い、銀行のはじまりと近代銀行制度、金融市場における銀行の信用創造過程と貨幣供給、ケインズの流動性選好説と貨幣需要、金融市場の均衡利率いわゆる市場利率

8. 中央銀行の機能と役割：金融政策 現金通貨の発行と通貨価値の維持；その社会的意義と責任、その歴史的・現代的素描、中央銀行の金融政策の主たる手段、とりわけ公定歩合操作、公開市場操作とその金融市場に与える効果。

9. 政府の経済的役割：財政政策 政府の経済役割すなわち経済政策には大きく分けて2つ；その1つは将来の国民経済の構造をどのような方向に誘導するか、例えば福祉政策、年金制度、農業問題、租税制度、社会基盤整備等々である。もう1つは、いわゆる景気の変動に対する調整的機能としてのマクロ経済政策である。ここでは後者の役割を狭義の財政政策（フィスカル・ポリシー）として考える。その見本は1930年代前半のアメリカのニュー・ディー

ル政策（当時のルーズベルト大統領による）に見ることができる。政府は財政赤字の時は減税もしくは歳出を増大して短期的には益々赤字が拡大するように、黒字の時には財源があるからといって減税などしないで増税もしくは歳出を削減して益々黒字が拡大するように行動するのが、現代のマクロ経済学の原理なのである。政府も1つの主体、その主体の行動としては不合理である。しかし、社会全体、国民経済にとっては合理的なのである。これはひいては政府にとっても長期的には合理的であるはずだ。逆もまた真、パラドックスなる由縁である。分析：政府財政支出と減税の国民所得水準に与える影響、租税体系の変更と国民所得、ラフファアー曲線、完全雇用政策と物価水準安定（貨幣価値の維持）フィリップ曲線

10. 財政・金融政策とヒックス＝ハンセン 総合（IS-LM 曲線） ポリシー・ミックスについて、国民生産物市場と貨幣・金融市場の相互作用、これまでのマクロ経済理論の再編とまとめ；IS-LM 分析、古典派の理論；セーの販路法則と完全雇用理論およびその時代的背景、ケインズの有効需要原理と不完全雇用理論、ならびにその時代的背景、現代マナタリストの思想と理論；修正型貨幣数量説、集計供給からみたポスト・ケインズ学派との違い、付論：サブライサイド経済学派とネオ・ケインジアン、景気循環と民主政治、政策のタイム・ラグ。

終章（エピローグ） 結びにかえて

人間社会と経済と政治と価値観と、経済発展と自然環境、国際貿易；古典派リカードの比較生産費税と現代のオーリン・ヘクシャー理論、現代の貿易不均衡問題、技術移転と資本移動、長期的有効需要の拡大と世界規模化

科目名	政治学
担当者	志摩園子

講義の目標

複雑多岐な様相を見せる現代社会に生きるわれわれは、そこで起きている混沌とした政治の動きや政治現象を理解したり、自分なりの判断を下すことが必要となってくる。そのためには、政治とは何かを考えられるような手がかりを知ることが重要である。まさに、人間がつくり出している政治の世界を、そこに参加する一員という自覚の下に生きていくために、政治学の全体像を鳥瞰するとともに、政治学を見る目を養うことを目標にしたい。

講義概要

本講義は、できるだけ学生参加型で進めたいが、前期は、共通の知識や政治学の基本的概念の整理、確認など、参加するさまざまな学生に政治学についての一定の共通基盤を与える形で進める。それと共に、学生に自らの関心や疑問を見つけ出してもらうことにする。「なぜ」と思うことで、自らの考察を展開していく上での最初の一步を見つけるためである。それぞれが、個々の関心テーマを前期を通して見つけ出し、各自、後期のレポートに向けて一貫した形で考察を進めてもらう。特に、後期には、出きるだけ発表の機会を設け、参加学生による議論を促したい。ただし、参加する学生の数によって、やり方は流動的なものとなる。

テキスト

田中浩、安世舟『政治学への接近』学陽書房、改定増補版 1999年（1983年）

参考文献

授業中、適宜示す。

評価方法

夏休み明けのレポートと後期のレポート、および、発表議論等の参加の平常点で評価する。

受講者への要望

ただ、講義を聞いてノートを取るだけではない参加型の授業であるので、積極的な姿勢での参加を望む。

年間授業計画

1. 政治学とは
2. 政治をめぐる「思想」の発展
3. 近代国家の成立と近代政治原理の形成
4. 近代国家の発展と自由・平等の拡大
5. 近代国家と現代政治学の登場

6. 民主主義・ファシズム
7. より良い政治を保障するための「制度」の発展
8. 近代議会制度の成立と発展
9. 権力分立制と政治運営の3類型
10. 議会政治の危機とその克服
11. 現代政治の仕組みとその動き
12. 国家機能の拡大と政策決定過程の変容
13. 現代政治を動かす諸要因（1）政党と社会集団
14. 現代政治を動かす諸要因（2）エリートと大衆
15. より良い政治をつくりだすルールの模索
16. 国際政治の仕組みとその動き
17. 国際政治の特徴
18. 国際政治を動かす諸要因
19. 国際政治を動かす諸要因
20. 国際政治の構造的変動
21. 近代国家の限界と課題
22. テーマの決定
23. テーマ発表
24. テーマ発表

科目名	日本国憲法
担当者	元 山 健

講義の目標

日本国憲法の基本原理（基本的人権の尊重、国民主権、平和主義）を理解すること。それを通じて一人一人の人間がかけがえのない存在であること、そうした自律した個人が連帯しあって良き人生を過ごしていくために、お互いに合意した「人間性の実現のための規範」が憲法であることを理解すること。そして核時代の現代では、民主主義も人権も平和なればこそ活かされることを理解すること。外国学部学生のために、諸外国とくにイギリスとの比較を交えて講義します。また教職・公務員志望の人のことも考えて講義します。

講義概要

前期は憲法の総論と統治機構（国会、内閣、裁判所）について学習します。まず憲法とはどういう法かという話から始めます。次に日本の憲法の歴史を幕末・維新から現在まで学習します。そして統治の制度と作用について具体的に学習します。ここではいずれも、日本を理解するためにイギリスの制度を比較の対象にとりあげながら学習を進めます。

後期は平和主義と人権について学習します。ここでは理論だけでなく、具体的な事件やイギリスの例なども素材にして勉強します。

テキスト

元山健・倉持孝司編『新版 現代憲法 - 日本とイギリス - 』（敬文堂 2000年刊）

参考文献

『小六法』（三省堂刊）

評価方法

前期と後期のテスト。毎回出欠をとり、成績評価に反映させます。

受講者への要望

遅刻、欠席をしないで、自覚的に授業に臨んでください。

年間授業計画

1. 開講にあたって
2. 憲法とは何か
3. 近代憲法の歴史 - イギリスを中心に -
4. 日本憲法史（その1）明治憲法史
5. 日本憲法史（その2）戦後憲法史
6. 国民主権と象徴天皇制
7. 議会制民主主義の歴史と理論

8. 選挙と政党

9. 国会

10. 内閣

11. 司法

12. 地方自治

13. 基本的人権：総論

14. 個人の尊重と幸福追求権

15. 法の下での平等

16. 精神的自由権（その1）総論と思想・良心の自由

17. 精神的自由権（その2）信教の自由

18. 精神的自由権（その3）表現の自由の原理

19. 精神的自由権（その4）表現の自由の諸問題

20. 精神的自由権（その5）学問の自由

21. 社会的経済的権利（その1）経済的自由権

22. 社会的経済的権利（その2）生存権

23. 社会的経済的権利（その3）労働と教育

24. 人身の自由と刑事手続き

科目名	教 育 法
担当者	市 川 須美子

講義の目標

戦後教育法制の特徴とその変遷、教育法の内容とその機能的種別、ならびに各種の教育人権など、教育法学の基礎理論の理解の上に、1980年代以降の「子どもの人権裁判」を素材に教育法の現代的問題点を分析し、教育法の体系的理解を目標とする。

講義概要

前期は、教育法の基本概念である教育人権の概念と、教育における国家の役割を学ぶ。教育法形成に重要な影響を及ぼした基本判例を素材とする。

後期は、現在の教育法の焦点となっている「子どもの人権裁判」を体罰裁判、いじめ裁判、校則裁判、学校教育措置訴訟、教育情報裁判に分類して、論点と課題を検討する。

テキスト

『教育小六法』学陽書房。参考文献は必要不可欠ではありませんが、教育関係法令集は必携です。

参考文献

兼子・神田編『ホーンブック教育法』北樹出版 1995年

市川・安達・青木編『教育法学と子どもの人権』三省堂 1998年

評価方法

前期 レポート（不提出の場合は後期受験不可）

後期 試験（事前に問題を発表する）

小テスト 時々の講義テーマに応じて

受講者への要望

六法にあまり魅力を感じていない法学部生には、身近な問題から法学的方法を学ぶ機会です。

年間授業計画

1. 教育法とは何か？ 教育法の機能的三種別、教育条理
2. 戦後教育法制の基本的特徴 戦前法制と比較して
3. 教育法における教育人権と一般人権、教育権力
4. 教師の教育権（1）
5. 教師の教育権（2）
6. 親の教育権（1）
7. 親の教育権（2）
8. 子どもの学習権（1）
9. 子どもの学習権（2）
10. 国家の教育権と国民の教育の自由 最高裁学テ判

決

11. 教育の地方自治 教育委員準公選制
12. 前期まとめ
13. 子どもの人権裁判総説
14. 体罰裁判（1） 特徴と論点
15. 体罰裁判（2） 体罰判例の展開と動向
16. いじめ裁判（1） いわきいじめ自殺事件、中野富士見中事件
17. いじめ裁判（2） その後のいじめ判例
18. 校則裁判（1） 中学校校則裁判
19. 校則裁判（2） バイク退学事件・パーマ退学事件
20. 学校教育措置訴訟（1） 特徴と論点、内申書裁判
21. 学校教育措置訴訟（2） エホパの証人生徒退学事件
22. 学校教育措置訴訟（3） 障害生徒入学不許可事件・特殊学級訴訟
23. 教育情報裁判 町田いじめ作文開示請求訴訟
24. まとめ 子どもの権利条約と教育法

科目名	民法
担当者	橋本 恭宏

講義の目標

民法は、私たちの日常生活に関し、財産と家族に関する秩序について定めています。そこで、こうした日常生活に最低必要な、法律知識について話します。これからの永い人生において、少しでもトラブルなく生活できるようにしたいと願う人は聞いてほしい。

講義概要

以上の講義目標の下に、民法上の主な制度について紹介しつつ、その具体的適用を解説します。さらに、今日、特に問題となっている医療過誤問題とか、本年4月1日から施行された「消費者契約法」等の民法以外の法律について、一般社会人としての教養として必要な範囲で、民法との関わりも含めて話します。

テキスト

毎回、できるだけ、プリントを配布しますが、高梨公之編『実例民法』(自由国民社)、ならびに、三省堂『ディリ-六法』を持参してほしい。

参考文献

五十嵐清『私法入門』(有斐閣)、野村豊弘『民事法入門』第2版(有斐閣)

評価方法

定期試験と、レポートによる。

受講者への要望

人の話を聞く態度をもって携帯電話、隣と話すこと、脱帽等のマナーを守ってほしい。

年間授業計画

なお、詳細なシラバスは、開講時に提示する予定である。

1. 人の歴史と民法の歴史はどのような関係にあるのか(ローマ法, ヨーロッパの法制度史)
2. 民法の構成はどのようにになっているのか, また, 民法関連の法律にどのようなものがあるのか
3. 人の法律上の地位はどのようなものか(権利の主体性・胎児の取り扱い, 制限能力者制度)
4. 団体の法律上の扱いはどのようなものか(法人制度・設立手続, 期間, 運営, 消滅)
5. 契約にはどのようなものがあるのか?(1)
民法が定める契約の種類 財産の譲渡に関する契約(贈与・売買)
6. 不動産を買うために金銭を借りる場合の法律

債権担保制度・執行手続

7. 契約にはどのようなものがあるのか?(2)
財産の利用に関する契約 消費賃借(例: サラ金の利息が高いとき)・賃貸借(例: マンションの賃料値下げは可能か)
8. 借地借家に関する法はどのようなことを定めているのか?
9. 契約にはどのようなものがあるのか?(3)
人の労力を対象とする契約(請負・委任),
10. こうした契約には一般的にどのような効力があるのか 同時履行の抗弁権とは・解除ができる場合とは・危険負担制度とは
11. こうした契約を破った場合の責任はどのようなものか? 債務不履行による損害賠償制度
12. 契約以外での責任が発生することがあるか 不法行為制度, 不当利得制度等について
13. 名誉侵害(毀損)・セクハラ・製造物責任・医療過誤問題と民法, その他の法律
14. 契約の効力を生じない場合はどのような原因によるのか 民法と人の意思表示の関係
15. 物の移転の方法はどのようなものか(1)
物の分類(不動産と動産)・物権変動・不動産登記制度
16. 物の移転の方法はどのようなものか(2)
動産の即時取得制度・債権の譲渡
17. 占有権とはどのようなものか 泥棒にも占有権がある?
18. 民法における隣人との関係 所有権・相隣関係・事務管理
19. 権利が時の経過により消滅したり, 取得したりすることがあるのか(時効制度) 取得時効・消滅時効とはどのような制度か
20. 家族関係と民法(1) 家族関係についての民法の考え方はどのようなものか
21. 家族関係と民法(2) 夫婦関係(婚姻と離婚)・親子関係について, 扶養について
22. 相続関係と民法(1) 相続制度はどのようなものか,
23. 相続関係と民法(2) 遺言制度はどうなっているのか
24. まとめ

科目名	国際法
担当者	廣部和也

講義の目標

国際社会の法である国際法の基礎的知識及び国際社会において法がどのように機能しているかを学ぶ。

講義概要

国際法の全般を学ぶ予定であるが、1年間ですべてをカバーすることは無理があり、基礎理論、及び現在国際関係法で実際に問題となっているようなことが中心となる。

テキスト

- (1) 導入対話による国際法講義(広部和也・荒木教夫著)(不磨書房)
- (2) 解説条約集・第9版(石本泰雄・小田滋編)(三省堂)

評価方法

試験による。(中間試験を行う予定である)

受講者への要望

関心を持って学ぶこと

年間授業計画

1. 講義全般に関する注意。
 - ・ 国際法の意義・国際法主体(国家、国際組織、個人)
2. 国際法の歴史(国際法はどのように成立し、どのように発展してきたか。)
3. 国際法の法源(国際法はどのような形で存在するか、それは、また、どのように形成されるか。)
4. 国際法と国内法(両者の法はどのように異なり、どのような関係にあるのか。)
5. 国家の成立(国際法上、国家とはどのように定義され、どのようにして国際法上の存在となるのか。)
6. 国家の基本権(国際法上、国家はどのような権利を持つのか。特にその基本となる主権を中心にその権利がどう行使されるか。)
7. 外交使節(国家は対外関係をどのように維持するか。外交官及び領事の地位、特権免除)
8. 国家責任(国際法上の違法行為と国家の責任、損害賠償などの責任の解除)
9. 国際社会の組織化1(国際組織とは何か。その形成過程、どのような国際組織があるか。)
10. 国際社会の組織化2(国際連合を基本に表決制度や決議の効力がどのようにになっているのか。)
11. 個人の地位(国籍、外交保護権、など)
12. 人権の国際的保護(世界人権規約や国際人権規約

などによる基本的人権の保護とその保障措置)

13. 国際犯罪(個人の国際犯罪とその処罰、犯罪人引渡し制度)
14. 国家領域1(国家領域とはどのように構成され、国家はどのように取得するか。)
15. 国家領域2(領海制度と無害通航権)
16. 公海制度と船舶の通航(公海、船舶の地位、海域その他の船舶の取締り)
17. 大陸棚、排他的経済水域(大陸棚や排他的経済水域とはどのようなものか。)
18. 深海底(深海底とその資源の法的地位及び開発)
19. 航空機の地位(航空機の地位及び国際的飛行はどのように行なわれるか。)
20. 宇宙法(宇宙の法的地位、宇宙開発、人工衛星の地位)
21. 国際環境の保護(人間環境宣言を初めとする国際的環境問題の法的側面)
22. 国際紛争の平和的解決(国際紛争の解決方法にはどのような方法あるのか)
23. 国際裁判(国際仲裁裁判と国際司法裁判)
24. 安全保障制度(国連による集団安全保障体制)

科目名	国際関係論
担当者	阿部純一

講義の目標

東アジアを中心とした現代国際関係を論じることで、わが国を取り巻く国際情勢への認識を深める。

講義概要

第1次世界大戦の経験から生まれた国際関係論は、その契機が示すように「戦争と平和」を強く意識した学問分野である。講義では、第2次大戦後の国際関係を、米ソの冷戦を軸に解説するとともに、冷戦後の国際関係のなかで中心的重要性をもつ東アジアの国際関係の現状把握に努める。日米中口という大国の利害が交錯し、かつ ASEAN という地域協力体や APEC という多国間経済協力機構が存在するこの地域は、大国間外交の場であるとともに多国間外交の場でもあり、また朝鮮半島や台湾海峡、南シナ海など潜在的紛争地域を内包している。この地域の動向をフォローすることによって、形成途上にある新たな国際秩序の方向を明らかにしていく。

テキスト

未定

参考文献

さしあたり高坂正堯著『現代の国際政治』（講談社学術文庫）

評価方法

前期はブックレポートを課す。レポート提出者のみが後期試験の受験資格あり。

年間授業計画

1. イントロダクション：国際関係論とは何か、なぜアジアなのか
2. 米ソ冷戦の起源
3. 中国革命、朝鮮戦争、日本の再軍備：アジアに拡大する冷戦
4. 中ソ対立とベトナム戦争
5. 米中和解の衝撃
6. 米ソ・デタント：進展する核軍備管理
7. 新冷戦：日米中戦略提携の時代
8. 民主化の潮流とソ連体制の崩壊
9. ポスト冷戦の世界
10. 東アジアの台頭
11. アメリカ単独覇権の時代
12. (予備日)
13. 21世紀の超大国・中国：建国50年の紆余曲折
14. 21世紀の超大国・中国：外交戦略の変遷

15. 21世紀の超大国・中国：将来への模索
16. 香港：中国返還への過程と現状
17. 台湾：蒋介石・蒋経国の権威主義時代
18. 台湾：李登輝の民主化路線
19. 北朝鮮：金日成・正日体制の形成と発展
20. 韓国：強権政治から民主体制への転換
21. 北朝鮮「核・ミサイル危機」への対応
22. 東南アジア世界の統合：拡大 ASEAN の問題点
23. 総括：21世紀迎えた東アジア国際関係
24. (予備日)

科目名	社会学
担当者	有吉 広介

講義の目標

現代社会の問題は 18 世紀に始まった産業革命に端を発し、現在も進行している産業化、そして引き続いて今世紀に起こる脱産業化、さらにこれらが引き起こした社会構造の変化とおおに関係がある。本講義ではこのような視点から、現代のわれわれの日常生活に見られる諸変化と、そこに起こる様々な社会問題とを考える。

講義概要

豊かで、ゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、企業では能率主義的管理体制のもとにサービス残業が求められたり、過労死までもがみられる。その背景には、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、これらを変化させてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動社会化、学歴主義化、高齢化と少子化、福祉化などもそうした流れのなかに起こる。講義では、産業化が職業生活を含めてわれわれの日常生活のなかで多くの社会問題をどのように生みだしているのかを説明していく。講義の進行は、講義メモを配布して理解を深めることによる。

テキスト

プリントを配る。

参考文献

随時紹介

評価方法

評価は、前・後期の定期試験期間中に各一回おこなう試験の成績による。

受講者への要望

講義に出席し、そこで要点を把握すること。

年間授業計画

1. 社会学の先駆者サン・シモンやオーギュスト・コントなどにおける社会学のテーマ
2. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解
3. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解
4. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代

社会の理解

5. 社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
6. 社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
7. 現代の職業構造の分析
8. 雇用社会と職業的キャリア
9. 産業社会における知識の性格と教育
10. 日本の近代化、教育システム、および学歴社会
11. 社会的不平等の諸次元
12. 不平等の構造化
13. 社会移動の現実
14. 日本の階層社会と社会移動
15. 管理社会の中核としての官僚制
16. 近代的経営の社会構造
17. 日本的組織構造
18. 都市化と地域社会
19. 家族の定義・類型、そして核家族化・少子化
20. 家族のライフサイクルの変化
21. 高齢化社会の人口学的および社会学的分析
22. 高齢化社会における社会問題
23. 生活の質を考える
24. まとめ

科目名	社会思想史
担当者	市川 達人

講義の目標

「社会」や「思想」のリアリティが薄くなってきているような気がする。しかし近代という時代は「社会」を正面から見つめ、それを「思想」よって支えることに全力を注いだ時代であった。その遺産はなお私たちの日常のものの方の中に根付いている。近代の歴史を振り返ることによって、その遺産を掘り起こし対象化すること、それを目的とする。

講義概要

ルネッサンスを起点として 19 世紀あたりまでの社会思想の歴史を概観する。近代市民社会の成立・成熟を支えた政治思想、経済思想、哲学的思想などの流れをたどることとなるが、それぞれの時代を代表する人物の思想に焦点を当てた講義となる。現在、リベラリズムが時代の関心となっているが、その歴史的意味の検討が隠れたテーマとしてある。

テキスト

渋谷一郎編『社会思想の歴史』八千代出版社

参考文献

講義で適時指示

評価方法

後期の一括試験で評価を与える。前期末にレポートの提出を求める場合もありうる。

年間授業計画

(前期)

1. 年間予定。講義の目的と課題。講師の問題意識
2. 思想史の方法。社会とは？。社会像の歴史的類型などについて。
3. 近代市民社会とは（西欧的社会観の原型と展開）
4. ルネッサンスと都市
5. マキャベリと『君主論』
6. ユートピア思想とは。
7. トマス・モアと『ユートピア』
8. 中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派
9. ルターの改革運動と神学
10. ルターの経済思想。
11. カルヴィニズムと近代化
12. 前期のまとめ

(後期)

1. 自然法思想の歴史
2. ホッブズの人間観と自然権思想

3. ホッブズの国家論
4. ロックの市民社会論
5. ロックの所有権理論とリベラリズム
6. フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ、モンテスキュー）
7. ルソーの啓蒙批判と社会批判
8. アダム・スミスと経済的自由主義
9. 社会主義思想の諸潮流
10. マルクスの思想（1）
11. マルクスの思想（2）
12. 後期のまとめ

科目名	社会思想史
担当者	松丸 壽雄

講義の目標

歴史観、社会観をみずからの判断のもとで形成することができるように、批判的なものの見方、考え方を身につけることを目標とする。

講義概要

それぞれの時代の社会には、歴史的状況、文化的背景などにより、異なったものの考え方が生じる。それは社会をどう考えるかという思想までに展開することもあるし、時代の単なる風潮として表層的な現象にとどまることもある。これらの現象を掘り下げ、社会に対する思想とその底にある自我意識の形成を西洋中世から近代にかけての魔女裁判と錬金術思想において分析する。さらに、これを日本の江戸時代から明治にかけての絵画と西洋の絵画等との比較を通して、日本人の社会思想と自我意識を検討する。

テキスト

なし。

参考文献

講義中に指示。

評価方法

最低年2回のレポートと授業への貢献度（例えばディスカッション時の積極性）により評価。受講者が多い場合には、筆記試験も考え得る。

受講者への要望

他人のレポートを写したり、あるいは本を書き写しただけのレポートもある。これは評価に値しない。調べたことをもとに自分で考えてレポートを作成してほしい。

年間授業計画

1. 講義の概要説明
2. 異端審問成立以前のヨーロッパ社会。
3. 異端審問制度の成立。
4. 異端審問制度の変質。
5. 異端審問から魔女裁判へ。
6. 異端者と魔女。
7. 映画「バラの名前」の鑑賞1。
8. 映画「バラの名前」の鑑賞2と映画中の中世的諸現象の説明。
9. ヨーロッパの中世の精神的・社会的状況と魔女裁判の位置づけ。
10. 魔女の裁判の終焉とヨーロッパにおける時代意識

の変遷。

11. 現代と魔女裁判。
12. できれば、ディスカッション。
13. 錬金術の歴史。古代からアレクサンドリア文化まで。
14. アラブ世界における錬金術思想とギリシア哲学。
15. ヨーロッパ中世における錬金術思想。
16. 錬金術と予言と近代科学・医学。
17. 錬金術思想における自我意識とキリスト教の精神的・社会的状況。
18. 江戸時代における遠近法。
19. 絵画から見られた社会観。
20. 明治時代における遠近法。
21. 西洋ルネッサンス期以降の遠近法と近代科学。
22. 江戸・明治時代における芸術作品に見られる世界観と自我意識。
23. ヨーロッパ中世における芸術作品に見られる世界観と自我意識。
24. できれば、現代日本における自我意識についてのディスカッション。

科目名	社会心理学
担当者	三 本 茂

講義の目標

- 集団と文化の社会心理学 - 人間は、他の動物に比べて集団への依存性が極めて高い。集団の成員として生きる人間の「社会的動物」としての行動の特色を考察する。

集団の構造とその機能、および集団成員の行動様式としての文化を取り上げ、文化によって形成される集団的パーソナリティの特徴について考察する。

講義概要

まず社会集団の特質とその形成過程を取り上げ、次いで集団内の行動様式としての文化の特性について考察する。

次に特定の文化圏で生活する人々に認められるパーソナリティの共通性を「集団的パーソナリティ」として考察する。

事例として、ネパール高地民族であるシェルパ族の生活の様子や「シェルパ気質」を紹介したい。

テキスト

なし

参考文献

授業中に紹介する。

評価方法

前期：レポート 後期：筆記試験

受講者への要望

紹介した参考書を最低一冊は読むこと。

年間授業計画

集団の形成過程

集団参加の動機

集団の機能

集団規範と同調行動

集団内のコミュニケーション

リーダーシップ

文化の特性

文化とパーソナリティ

社会化の過程

集団的パーソナリティ

事例研究

各2回程度の講義を行う。

科目名	文化人類学
担当者	井上兼行

講義の目標

文化人類学は、文明社会から最も遠い位置にあり、現在急速に消滅しつつある未開社会の文化を、異文化として理解し、同時にそれを通してわれわれの文化についても理解を深めようとする学問である。形成の歴史、方法、事例分析を通じてそのおおよそを知る。

講義概要

文化人類学形成の歴史を通して、未開社会に対するこの学問の態度を明らかにし、次いでその独特の研究方法を述べる。そのあと、いくつかの事例を通して異文化理解の仕方を示し、またそこからわれわれの文化をどのように考えることができるかを説明してゆく。

テキスト

なし。

参考文献

随時紹介する。

評価方法

定期試験期間中の試験によって評価する。

4年生諸君へ。当然ですが1～3年生と同じ規準で評価を出します。安易には考えないように。

年間授業計画

1. 序 どんな学問か。
2. 学問形成の歴史 (1) スペイン人のインディオ観
3. " (2) "
4. " (3) 16C 後半～18C 後半の西
欧人の未開人観
5. " (4) 18C 後半～19C 後半の西
欧人の未開人観
6. 19C 後半 文化人類学の誕生 (1) "文化"の概念
7. " (2) "
8. " (3) "進化"の概念
9. 19C 末～20C 初 現代の文化人類学へ
10. 研究方法としての"実地調査" (1)
11. " (2)
12. これ以降は事例研究。テーマは未定。これまでの話の脈絡から決めてゆく。

科目名	社会科学特殊講義 A (文化人類学特殊講義)
担当者	井上兼行

講義の目標

“異なった文化”をもつ人々とは、事物についてわれわれとは“異なった認識”をする人々、ということである。異文化の完全な理解などありえないが、われわれの認識の仕方をはざとりながら、異文化に迫ることは可能である。文化人類学の立場からその成果の一端を知る。

講義概要

文化人類学における未開社会の成果を基礎に、いくつかのテーマを取り上げ、いずれも数回ずつ使って、“異なった文化”をもつ人々の認識の仕方について述べ、われわれのそれとの違いを知るようにする。年間講義予定については第一回の講義においてその大枠を述べる。

テキスト

なし。

参考文献

随時紹介する。

評価方法

試験、レポート、その両方ということもあるが、登録者の数によって考える。

4年生諸君へ。当然ですが1～3年生と同じ規準で評価を出します。安易には考えないように。

受講者への要望

2年生以上、または文化人類学の単位を取ったか、興味をもって何かを読んだことのある人に登録してほしい。全くその知識のない1年生には、わからず、興味をもてずやめてしまうものが数多く出ている。

科目名	社会科学特殊講義 A (廣 告 論)
担当者	梶 山 皓

講義の目標

現代社会における広告の機能や役割を明らかにします。また企業の広告活動を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。

講義概要

1. 企業や団体が広告をなぜ行うかについて考えます。
2. どのように広告を計画し実施するかを学びます。
3. 社会風俗や価値観、倫理・法的な面から、現代の広告現象を考えます。
4. マスコミ、メディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。
5. マーケティング活動やコミュニケーション過程の原理を明らかにします。
6. ビデオや広告物を通じて、日米のコミュニケーションの違いを探ります。

テキスト

梶山皓『広告入門』、日経文庫 1998。

参考文献

- * 八巻俊雄・梶山皓『広告読本』東洋経済新報社、1998。
- * 『広告に携わる人の総合講座』日経広告研究所、1999。
- * W. Wells: Advertising, Principles and Practice, Prentice-Hall, 1997
- * S. W. Dunn: Advertising, Its Role in Modern Marketing, Dryden Press, 1994.

評価方法

前期：出席と試験。問題は 4 - 5 題。教科書・ノート等の持込不可。

後期：出席と試験。問題は 4 - 5 題。教科書・ノート等の持込不可。

受講者への要望

2 年生か 3 年生で履修してください。

前期授業計画

1. 広告をなぜ学ぶか (Introduction) : 広告を学ぶと、社会の近未来が見えてくる。また社会現象のポジティブな面を的確にとらえる習慣が身に付く。
2. 広告の定義 (Ad. Definition) : 広告という言葉の語源は、古フランス語やラテン語で「振り向かせる」「注意を引く」という意味である。
3. 広告の定義 (Ad. Definition) : 広告という言葉は、しばしば PR、広報、宣伝、プロモーションなどと混同して間違った使われ方をしている。
4. 広告の機能 (Role of Ad.) : 広告には情報を伝える

機能がある。このほかに人を説得する機能、広告主と受け手の関係を強化する機能がある。

5. 広告の種類 (Ad. Classification) : 広告を代表するのは、消費財広告、ビジネス広告のように商業目的に使われる広告である。
6. 広告の種類 (Ad. Classification) : 広告には、公共広告、意見広告、政治広告のように、市民の啓蒙や世論の喚起に使われるものがある。
7. 広告主 (Advertisers) : アメリカの広告費は邦貨で年間約 15 兆円で、世界の約半分を一国で占める。日本は世界 2 位で約 6 兆円である。
8. 広告主 (Advertisers) : 広告主は、広告活動を効果的に行うために広告活動を策定する。また企業内に広告組織を編成して実施に当たる。
9. 広告会社 (Ad. Agency) : 広告会社は、広告コミュニケーションを企画し実施する専門家集団である。日米では広告ビジネスの進め方が異なる。
10. 広告会社 (Ad. Agency) : 広告会社には色々な形態や組織がある。日本では、広告会社の収入源は媒体手数料という古い習慣に基づいている。
11. 広告メディア (Ad. Media) : 広告メディアには、マスメディアから看板やチラシまで色々な種類があり、広く活用されている。
12. 広告メディア (Ad. Media) : マルチメディア時代を迎えて、衛星放送、双方向 CATV、インターネットなどの新しいメディアが広告界を揺さぶっている。

後期授業計画

1. マーケティングの基本理念 (Marketing Principles) : マーケティングは消費者志向の概念である。最近は環境問題などの新しい価値観の影響を受けている。
2. 戦略企業計画 (Strategic Planning) : 戦略計画はアメリカで発達した経営理論で、マーケティングをサブシステムとする企業経営の全体計画である。
3. マーケティング・ミクス (Marketing Mix) : 企業は、製品開発、価格の設定、流通チャネルの選択、プロモーションの相乗効果によって企業間競争を進める。
4. プロモーション・ミクス (Promotion Mix) : 製品の販売は、広告、セールスマン、SP (セールスプロモーション)、PR などの力を合体化させて行う。
5. コミュニケーションの原理 (Communication) : 広告はマスコミを手段とした社会的なコミュニケーションであり、受け手に様々な心理的影響を与える。
6. コミュニケーションの原理 (Communication) : 消費者には、マスコミによる新しい情報を受け入れ

る人と、従来の習慣に固執する人がいる。

7. DAGMAR の理論 (DAGMAR) : 広告効果は、売上高にではなくコミュニケーション効果に置くべきだという考え方があり、広告理論に大きな影響を与えている。
8. 広告階層モデル (Ad. Hierarchy Model) : 人々は製品の属性を調べてから買うのか、それとも買った後に調べるのか、衝動買いはなぜ起きるのかなどを考える。
9. 広告計画 (Ad. Planning) : 広告活動は、広告目標の設定、予算策定、広告表現の決定、媒体選択、効果測定という一連の過程を経て進める。
10. 広告計画 (Ad. Planning) : 広告計画の中では、広告表現の方針を決めることと、広告を運ぶメディアを選ぶことがとくに重要である。
11. 広告規制 (Ad. Regulation) : 広告は、倫理や公序良俗の面と法律の両面から規制を受けている。規制の内容は時代によって、国によって異なっている。
12. 広告の将来 (Ad. Future) : 広告はどのような方向に進むのか、これからの広告ビジネスや広告人に何が求められるかを考える。

科目名	社会科学特殊講義 A (マスコミュニケーション論)
担当者	佐々木 輝 美

講義の目標

マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、かつそれらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。

講義概要

本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の数週間で、マス・コミュニケーションのモデル及び効果について解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。その後、前期の後半はマスコミと教育の問題を、そして後期は、マス・コミュニケーションの「影響研究」を中心に講義を行う予定。影響研究については、特に「メディア暴力の視聴者への影響」を中心テーマとして扱う。

テキスト

(前期)プリント

(後期)佐々木輝美『メディアと暴力』勁草書房、1996

参考文献

・岡崎篤郎 他編著『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版、1992

・H.J.アイゼンク他著 岩脇三良訳『性暴力メディア』新曜社、1982

評価方法

定期試験による。出席は参考程度。

受講者への要望

60点以下は不可となりますので、毎回出席して授業内容をよく理解するよう心がけてください。

年間授業計画

<前期>

1. マス・コミュニケーションとは
2. コミュニケーションについての基礎知識(1) プロセスの概念について
3. コミュニケーションについての基礎知識(2) 意味はどこに存在するか?
4. コミュニケーションについての基礎知識(3) メディア接触について
5. マス・コミュニケーションのモデルについて(1) モデルの長所と短所
6. マス・コミュニケーションのモデルについて(2) マス・コミュニケーションの要素

7. ビデオ視聴&解説

8. マスコミ効果の概念について(1) 効果とは

9. マスコミ効果の概念について(2) 順機能と逆機能

10. マス・コミュニケーションと教育(1)

11. マス・コミュニケーションと教育(2)

12. 前期のまとめ

<後期>

1. マスコミの影響研究について(1) 弾丸理論

2. マスコミの影響研究について(2) 限定効果モデル

3. マスコミの影響研究について(3) 適度効果モデルから強力効果モデルへ

4. メディア暴力研究について(1) 研究の背景

5. メディア暴力研究について(2) カタルシス理論

6. メディア暴力研究について(3) 観察学習理論

7. メディア暴力研究について(4) 脱感作理論

8. メディア暴力研究について(5) カルティベーション理論

9. ビデオ視聴&解説

10. メディア暴力研究について(6) 4理論のまとめ(暴力番組の類型化)

11. メディア暴力研究について(7) メディア暴力への対応

12. 後期のまとめ

科目名	社会科学特殊講義 A (イスラム(原理)主義過激思想)
担当者	藤原和彦

講義の目標

「イスラム原理主義」と呼ばれる宗教・政治運動が今、中東から中央アジアにかけた広大な地域を揺るがしている。ソ連を崩壊に追い込む一大要因となったのも原理主義運動だった。ムジャーヒディーン(イスラム聖戦士)と呼ばれたアフガニスタンの原理主義ゲリラは、1979年同国に侵攻したソ連を長年の消耗戦に引きずり込んで、その屋台骨を揺るがしたからだ。講義では、今世紀原理主義運動の嚆矢となり、イスラム世界に大きな影響を与えたエジプトの「ムスリム同胞団」の歴史を学び、現代原理主義運動の理解に迫る。

講義概要

毎時限の講義は(1)ムスリム同胞団に関する英文テキストの読解(2)原理主義運動を中心とした中東・中央アジアの政治・社会情勢の時事解説(3)イスラム教を中心とした中東・中央アジア事情のビデオによる紹介の3部構成とする。(1)については、前期はムスリム同胞団史テキストを読解、後期は同胞団創始者ハッサン・アル・パンナの英文プロフィールを読解する。また、イスラム原理主義の基本的理解に必要なイスラム教術語(アラビア語と英語)も並行して解説する。(2)については、講師(藤原)が雑誌や新聞に執筆する各種レポートを教材とする。

テキスト

毎時限の講義開始時、ムスリム同胞団史などの英文読解用テキストをはじめ必要なテキスト(講師執筆レポートや「現代用語の基礎知識」など)をコピーして配布する。

参考文献

板垣雄三・佐藤次高編『概説イスラーム史』(有斐閣)1986
 山内昌之『現代のイスラーム』(朝日選書)1983
 山内昌之『イスラームと国際政治』(岩波新書)1998
 中村廣治郎『イスラームと近代』(岩波書店)1997
 小杉泰『イスラームとは何か』(講談社現代新書)1994
 宮田律『イスラーム政治運動』(日本経済新聞社)1996

評価方法

前期、後期各1回のレポートによる

受講者への要望

とくになし。

年間授業計画

- 1.[イントロダクション]セム族唯一神教の系譜。イスラム教とユダヤ教、キリスト教との関係。イスラム教創始者、預言者ムハンマドの生涯など。
- 2.イスラム教多数派スンニー派と少数派シーア派の関係。他に、中東言語に関する解説。イスラム教言語アラビア語の他言語への影響など。
- 3.イスラム教戒律の解説。シャリーア(イスラム法)の意味。原理主義とシャリーアの適用運動。食物禁忌、巡礼、利息の禁止など。
- 4.英文テキスト「同胞団」の読解=創設者ハッサン・アル・パンナの生地デルタ地帯の現状。パンナの同胞団タイトル「総ガイド」の意味など。
- 5.英文テキスト「同胞団」の読解続き=セム族唯一神教における「律法」の意味。イスラムの律法シャリーア(イスラム法)について解説。
- 6.英文テキスト「同胞団」の読解続き=1920年代から40年代にかけての同胞団の歴史。地下活動とテロ。パンナ自身の暗殺など。
- 7.英文テキスト「同胞団」の読解続き=エジプト共和国第2代大統領でアラブ民族主義の英雄ガマル・アブド・ナーセルの解説。
- 8.英文テキスト「同胞団」の読解続き=イスラム原理主義とアラブ民族主義との関係。民族主義に対するアラブ大衆の幻滅、その“受け皿”としての原理主義運動の台頭。
- 9.英文テキスト「同胞団」の読解続き=ナーセルと第3次中東戦争の大敗北。同胞団員のアレキサンドリアでのナーセル暗殺未遂事件とナーセルによる同胞団大弾圧。
- 10.英文テキスト「同胞団」の読解続き=同胞団過激イデオログ、サイド・クトゥップの登場。ジャーヒリヤ理論。本格的な過激主義運動の開始など。
- 11.英文テキスト「同胞団」の読解続き=サイド・クトゥップを中心としたイスラム原理主義イデオロギーの系譜。中世の原理主義思想家イブン・タミーヤとモンゴルの襲来など。
- 12.英文テキスト「同胞団」の読解続き=アンワル・サーダート第3代大統領の治世から現代まで。同胞団から派生した過激原理主義運動「ガマア・イスラミヤ」など。
- 13.英文テキスト「同胞団」の読解続き=エジプト以外の同胞団運動(1)パレスチナの同胞団と、同胞団が母体となった過激運動ハマス。
- 14.英文テキスト「同胞団」の読解続き=エジプト以外の同胞団運動(2)シリアの同胞団運動。アサド政権とシーア派のヌサイリー派。1980年代初めの

大弾圧など。

15. 英文テキスト「アル・バンナ」読解 = ハンバリー派とイスラム教4法学派の存在。シャリーアの法源解説など。
16. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = ウラマーとイスラム教聖職者。異端色の濃いシーア派小宗派「グラール」。トルコのアレビ派、シリアのヌサイリー派など。
17. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = スーフイズム（イスラム教神秘主義）ハサフィヤの会員だったバンナ。スーフイズムの解説など。
18. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = コーランとハディースとシーラ（ムハンマドの伝記的研究）、「ムハンマドと正統4代カリフの時代に帰れ」と叫ぶ原理主義。
19. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = スエズ運河の町イスマイリーヤの独特の雰囲気。この町が同胞団発祥の地になった意味。
20. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = ポートサイド、スエズ市などスエズ運河沿い主要都市の現状と歴史。日本が資金支援の「スエズ運河架橋」建設の意味について。
21. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = 同胞団組織の拡大。バンナと王室、政府有力者との関係などを解説。
22. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = 同胞団と第1次中東（パレスチナ）戦争。同胞団と「自由将校団」中でもアンワル・サーダート（後の第3代大統領）との関係など。
23. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = 同胞団の最近の指導者たち。同胞団の分裂と新党「ワサト」の動き。同府団と職能組合の関係など。
24. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = エジプト過激組織「ジハード」とサウジアラビア出身の“テロのファイナンス” オサマ・ビンラーデンとの関係など。

科目名	社会科学特殊講義 A (異文化との触れ合い)
担当者	水 口 章

講義の目標

グローバル化され地球規模で政治・経済が語られる今日、文明間の対話はより重要性を増している。そこで、本講義では、この異文化との触れ合いによって生じた歴史的な事項を知り、考察することで、国際社会で実務的な現場に立つ上での基礎力を高めたい。

講義概要

本講義は、人口 12 億を有するイスラム世界を中心に、近代化の過程において、どのような対応の差が生じたか、また、その結果としてどのような国家システムの違いになったかを考えたい。その上で、グローバル化への対応をイスラム諸国がいかに進めているかを理解したい。

テキスト

なし。

参考文献

「近代・イスラムの人類学」大塚和夫著、東京大学出版会

「文明における科学」伊東俊太郎著、勁草書房

評価方法

前期・後期のレポートを各 30 点満点とする。それに出席点を加えて評価する。

受講者への要望

- (1) 講義内容に関するプリントを事前に配布するので、必ず一読してから授業に出る。
- (2) 時事問題に対応できるよう、国際ニュースに関心を持つ。

年間授業計画

1. 日本とイスラム世界
2. 中東・イスラム世界の多様性
3. 一神教世界と多神教世界
4. イスラム教の誕生
5. 誤解されるイスラム世界
6. イスラム世界と生活のサイクル
7. 家族と家族観
8. 農業と食物
9. 紛争と平和
10. アラブ文化の遺産
11. 12 世紀ルネッサンスと西ヨーロッパ文明
12. ヨーロッパにおける近代化論
13. イスラム世界と近代化

14. イスラム改革運動
15. オスマン・トルコの解体
16. ヨーロッパ法とイスラム法
17. 国民意識と経済発展
18. 資本不足の国民経済（エジプトの例）
19. ブルジョアジーと政府の対立（シリアの例）
20. 石油収入による経済発展（サウジアラビア）
21. イスラムと経済発展（イランの例）
22. 世俗主義と経済発展（トルコの例）
23. シオニズムと国民国家（イスラエル）
24. 東アジアと西アジアの発展の差

科目名	社会科学特殊講義 A (貿易実務)
担当者	山崎 静光

講義の目標

貿易の実務を引き合いの段階からクレームの解決まで時間的な順序に従って説明し、将来貿易に従事しない学生には一般教養としての知識を与え、貿易に従事する学生には本格的な企業内研修への階梯とする。

講義概要

取引の前段階として一般的な事項、例えば打ち切りと代理商買い、買い越しと売り越し、現物と先物などを理解させ、以後引き合い、契約、受け渡し、支払、入金の前段階を追ってそこに出てくる用語、取引技術を説明する。その際絶えず既知の事実立ち帰って全体との連関をつかませ、同じ用語の理解が段階を進むにつれて深まっていくようにする。さらに簿記、会計、法律、経済学、歴史、言語などの隣接科学、また時事問題にも触れて興味を起こさせることを図る。

テキスト

物産研修センター編「貿易実務基礎講座テキスト」

参考文献

山崎静光「輸出入手続ハンドブック」(中央経済社)

評価方法

学年試験の成績による。設問は記述式の大きな問題2問とし、総体的な把握を見る。

中間試験は行うが、単位を与えるか否かの境界線上の者についての参考とするにとどめ、学年試験を受けなかった者には単位を与えない。

受講者への要望

授業中に理解することを心がけ、質問、教師に対する批判を活発にし、双方向の発信のあるクラスにするのに寄与してください。前期の終わりや学年末に、教務部のものとは別に授業評価を求め、feedbackしている。

年間授業計画

1. orientation
2. 貿易取引の前段階
3. "
4. "
5. . 引き合い段階 - 値段を出す - インコタームズ
6. "
7. 運賃 - 海上輸送一般

8. 海上保険
9. 採算の立て方
10. 与信 - 荷為替
11. " - 前期授業の評価
12. 信用状 - 授業評価に対する回答
13. 前期試験の講評 - 信用状
14. D/P、D/A 取引
15. " - カントリーリスク - 貿易制限の諸形態
16. オファー
17. "
18. . 契約段階 - 契約書、契約履行の管理
19. 為替
20. "
21. . 受け渡し段階
22. 船積書類
23. " - 輸入
24. . 支払い段階。 . クレーム。 通年授業の評価

科目名	社会科学特殊講義 A (現代国際社会の統合と分裂)
担当者	若 林 広

講義の目標

本講では、21世紀の現代世界が直面する複雑な種々の問題(地域紛争、南北格差、先進国間摩擦、環境破壊、国連の強化、経済統合の進展等)の理解を目標に、その根本には、近代国民国家とは何かとの理解が必須と考え、国家論の理論的、歴史的理解の後、個々の地域に関しても、その歴史的側面に常に言及しながら、検討を加えていく。

講義概要

冷戦後の現代世界は、核の脅威こそ大幅に減じたものの、世界各地で発生する地域・民族紛争や、イスラム原理主義運動といった文明的・宗教的対立の問題、さらには、南北格差、先進国間摩擦、地球環境破壊等、多くの経済問題をもいまだ抱えている。現代には、このように世界を分裂的、破壊的方向へ導く力が存在する一方で、安全保障、環境問題等における国連中心主義の強化、新ラウンドが象徴する国際貿易体制の強化、さらには、EU・ASEAN等の統合の進展といった、全地球及び地域レベルでの種々の問題解決への模索もなされている。本講では、これら諸問題の根本には、国民国家に対する種々の方向からの挑戦があると考え、まず、国民国家概念の理論的側面に検討を加える。更にはこれら分裂・破壊的、及び統合・協力的な動きを、諸地域の例に即して検討を加えていく。受講者数にもよるが、後半の各地域を扱う後期においては出来れば学生諸君が選んでくる諸地域に関する論文をクラス全員で読んでゆきたい。

テキスト

未定

参考文献

その都度指示する。

評価方法

基本的には、学年度末の試験によるが、後期、論文を読む場合には各人の発表内容・出席・質問等を通じた積極的な授業への参加等により評価する。発表で出来なかったものについてはレポートの提出による場合もある。

受講者への要望

授業の理解と積極的な参加のため、新聞の国際面と経済面には、常に目を通しておく事。論文を読むときは必ず事前に読んできて、自分の分からない点を

明らかにして授業に臨むこと。

年間授業計画

1. 国際関係論とは何か(1) 学問の成立から発展まで
2. 国際関係論とは何か(2) 国際関係論による国際社会の把握
3. 国際関係論とは何か(3) 主要な学派と国民国家概念
4. 国民国家とはなにか(1) その起源と歴史的展開
5. 国民国家とはなにか(2) 現代の国民国家像
6. 伝統的国民国家像の変容 例(1) 欧州連合(1)
7. 伝統的国民国家像の変容 例(1) 欧州連合(2)
8. 伝統的国民国家像の変容 例(1) 欧州連合(3)
9. 伝統的国民国家像の変容 例(2) ベルギーにおける分権化(1)
10. 伝統的国民国家像の変容 例(2) ベルギーにおける分権化(1)
11. 伝統的国民国家像の変容 例(3) ユーゴスラビアの分裂
12. 伝統的国民国家像の変容 例(4) ラテン・アメリカの経済統合
13. 諸地域に関する論文の発表
14. 諸地域に関する論文の発表
15. 諸地域に関する論文の発表
16. 諸地域に関する論文の発表
17. 諸地域に関する論文の発表
18. 諸地域に関する論文の発表
19. 諸地域に関する論文の発表
20. 諸地域に関する論文の発表
21. 諸地域に関する論文の発表
22. 諸地域に関する論文の発表
23. まとめ
24. 予備日

科目名	社会科学特殊講義 A (現代中国論)
担当者	辻 康 吾

講義概要

いわゆる民族性論の可否ともかく、ある民族を理解するとき民族性論として発表された文献は、それなりに示唆に富んでいる。本講では中国民族性論として歴史的に評価されている林講堂の『My Country and My People』(英文)を原書で講読しながら、中国文化への理解を深めたい。

参考文献

コピー配布

評価方法

期末レポート

受講者への要望

予習を重視する。複数の辞書・参考書を利用のこと。

年間授業計画

教材に合わせ可能なだけ早く進める。

科目名	社会科学特殊講義 A (スペイン：歴史と文化)
担当者	野々山 ミチコ

講義の目標

スペインとはいかなる国か。他のヨーロッパ諸国とのちがいは？

前期は歴史的な面から考察。後期は現代社会に焦点をあて、さまざまな社会問題をとりあげる。

イメージづくりのため毎回ビデオを用いる。

講義概要

前期：スペイン人の国民性にふれ、その背景にある歴史を考える。またとくにアンダルシアをとりあげスペインのアイデンティティとされる闘牛・フラメンコにもふれる。

後期：フランコ死後民主化したスペイン社会の諸問題を考察する。

テキスト

野々山真輝帆著「すがおのスペイン文化史」(東洋書店)

参考文献

斉藤孝編「スペイン・ポルトガル現代史」(山川書店)

野々山真輝帆著「スペイン辛口案内」(晶文社)

評価方法

出席率とテストによる。

受講者への要望

自分たちの専攻する地域と比較して考えてほしい。

またスペイン語履修者は語学だけでなく、それが話される地域について常識を持ってほしい。

年間授業計画

前期 1. スペイン人の国民性と歴史的背景

2. "

3. "

4. "

5. "

6. アンダルシアとナショナリズム

7. アンダルシア フラメンコ

8. アンダルシア 闘牛

9. バンプロナの牛追い祭

10. 聖母マリア崇拜

11. スペインの騎士道的カトリック

12. パティオ

後期 13. フランコ時代の男女交際

14. フアン・カルロス国王と王政復古

15. 中絶

16. 性差別と教育

17. 女性の社会進出

18. ホモセクシュアル

19. 初等・中等教育の問題点

20. 歴史教育の悩み

21. 外国人の移民

22. 若者の価値観

23. 食文化

24. "

科目名	数 学
担当者	福 井 尚 生

講義の目標

数学は、無関係に見えるいくつかの現象の奥底に共通して潜む法則の抽出、その法則の科学的解析、そしてモデル作りに威力を発揮します。特に、微分積分は諸現象の解析に役立つ数学の筆頭分野です。

今や宇宙時代、火星にまで人間を送り込もうとしています。地球からロケットを打ち上げる際、ロケットの脱出速度(第2宇宙速度)は秒速11.2kmです。この数値は重力に関する法則を微分方程式で解析して得られます。微分積分を勉強すれば微分方程式が扱えます。

本講義では、現象を数学的に解析することを念頭に、「使える数学」を目標にします。『ちょっとひと休み』のコーナーもあります。

講義概要

1. 簡単な関数と逆関数：
 - 有理関数と無理関数
 - 指数関数と対数関数
 - 三角関数と逆三角関数
2. 微分(関数の変化の様子)：
 - 1変数関数の微分(常微分)
 - 多変数関数の微分(偏微分)
3. 積分(微分の逆演算、微分方程式への助走)：
 - 不定積分
4. 微分方程式(数学モデル作り)：
 - 変数分離形
 - 1階線形微分方程式
 - 2階線形微分方程式

テキスト

プリント

参考文献

- 『微積分概論』南部 徳盛 著、近代科学社
 『数学読本』松坂 和夫 著、岩波書店

評価方法

授業の際に配布する用紙に、授業内容に関する課題・宿題をその都度解答・提出してもらい、書かれてある内容を評価します。

受講者への要望

『大学は学問を通じての人間形成の場である』を肝に命じ、十分に予習・復習をしながら真面目に主体的に授業に取り組んで下さい。

科目名	物 理 学
担当者	東 孝 博

講義の目標

現代物理学の基礎の一つである相対性理論を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、科学と非科学の違いに留意し、「科学的」ということはどういうことなのかについて考えていきたい。

講義概要

前期を特殊相対論（光の速度、同時概念の相対性、時間・空間概念の変更等）後期を一般相対論（等価原理、重力の幾何学化、ブラックホール、宇宙論等）に充てる。

テキスト

テキストはとくになし。

参考文献

参考書は適宜紹介する。授業では視聴覚教材も使用する。

評価方法

日常の授業への参加態度、前・後期各3～4回の課題か、または、前・後期各1回の試験で評価を付ける予定。

受講者への要望

授業のホームページを利用するなどして、双方向授業を心掛けますので、積極的に参加して下さい。1限の授業ですが、遅刻は他の人の迷惑となりますので厳禁です。

年間授業計画

1. プロローグ - 現代物理学を学ぶ意味
2. 飛行機の中でもワインが注げる訳 - 相対性原理
3. 光の正体 - 電気と磁気の基本法則
4. 光にも速度がある！？ - 光速の測定方法
5. 光の速度で走りながら光を見たら？ - 光速一定の原理
6. どっちが先？ - 同時概念の相対性
7. 時間が遅れる - 時間概念の相対性
8. 空間が縮む - 空間概念の相対性
9. 18歳の少女に恋した47歳の科学者の戦略 - 「浦島効果」
10. どっちが若い？ - 双子のパラドックス
11. 時間も空間も一緒 - 4次元の世界
12. 原子爆弾！ - $E = mc^2$
13. エレベータの綱が切れたら - 等価原理
14. 宇宙空間にいるのか？ - 一般相対性原理
15. 空間も曲がる - 重力の幾何学化

16. 天才の発明 - アインシュタインの重力場方程式
17. 観測結果と一致！ - 光路の曲がり・水星の近日点移動
18. 光も出られない蟻地獄 - ブラックホール
19. 宇宙の将来はどうなるの？ - 膨張宇宙
20. 宇宙、宇宙と簡単に言うけれど - 宇宙の空間的・時間的広がり
21. 始めに光ありき - ビッグバン宇宙
22. 暗黒物質・銀河の種・インフレ宇宙 - 現代宇宙論の諸問題
23. 宇宙人さん、こんにちわ - 地球外文明探査
24. エピローグ - 再び、現代物理学を学ぶ意味

科目名	地 学
担当者	福 井 尚 生

講義の目標

地学とは「地球科学」、地球を対象とする自然科学なら全部地学です。本講義では地球を広大な宇宙に浮かぶ天体の一つと見て、天文学を取り上げます。天文とは「天」から届けられた「文」のことです。天文学とは宇宙から届く手紙を解読する学問、対象は天体と天体の占める空間とです。手紙の解読には、本講義でも物理学・数学を道具として少し使うことになります。

ただ解読のための道具は二の次、目標はあくまでも「人間も宇宙全体を貫く自然法則に支配されている」ことの自覚を持ってもらうことにあります。

講義概要

宇宙の階層に従って話を広げて行きます。

1. 恒星：太陽
連星：ミザール
散開星団：プレアデス「すばる」
球状星団：M13
2. 銀河：銀河系
銀河群：局所銀河群
銀河団：おとめ座銀河団
超銀河団：局所超銀河団
3. 見える限りの宇宙：ビッグバン宇宙

テキスト

プリント、視聴覚教材

参考文献

- 『現代天文学要説』内海 和彦、他著、朝倉書店
『宇宙科学入門』尾崎 洋二 著、東京大学出版
『教養のための天文学講座』米山 忠興 著、丸善

評価方法

授業の際に配布する用紙に、授業内容に関する課題・宿題をその都度解答・提出してもらい、書かれてある内容を評価します。

前・後期定期試験

受講者への要望

『大学は学問を通じての人間形成の場である』を肝に命じ、十分に予習・復習をしながら真面目に主体的に授業に取り組んで下さい。

科目名	生物学 A
担当者	加藤 信重

講義の目標

近年、自然観察を楽しむ人が多くなってきているが、それだけ身近な自然環境が破壊されている証でもある。

担当者の専門である植物分類形態学の立場で、日本のフロラ、生態系の特徴等を説明するが、受講生自身にも色々な調査をしてみよう。

講義概要

日本の自然の実態を知るために各種新聞・雑誌等の記事を利用しながら講義を進める。

テキスト

なし

参考文献

図鑑類、解説書（全 7～8 冊、講義中に紹介するので購入すること）。

評価方法

出席回数、通常のレポート、夏季休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。

受講者への要望

講義の性質上、人物名・地名が多数出るので、歴史・地理学の常識が必要である。最初の日にテストを行う。このテストを受けていない学生の受講は認めない。

年間授業計画

1. 序論 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読む必要があること、またそれについてのレポート提出が多いことを説明する。
2. 北半球の植生を知る 1 ヨーロッパと日本
3. 北半球の植生を知る 2 北アメリカと日本
4. 北半球の植生を知る 3 中国と日本
5. 日本植生の特徴 4 亜寒帯から亜熱帯まで（温量指数と乾湿指数）
6. 日本植生の特徴 5 中央構造線とフォッサマグナ
7. 日本植生の特徴 6 対応種（ミヤコザサ線とは？）
8. 日本植生の特徴 7 固有種を紹介する
9. 日本植生の特徴 8 固有種を紹介する
10. 日本植生の特徴 9 固有種を紹介する
11. 1935 年に A. G. Tansley が提唱した生態系
12. 日本植生の特徴 10 カンアオイ属とギフチョウ属の分化
13. 身近な植物の形態 1 根・茎・葉・花・果実

14. 身近な植物の形態 2 広義のバラ科
15. 身近な植物の形態 3 広義のユリ科
16. 身近な植物の形態 4 広義のセリ科
17. 身近な植物の形態 5 真果と偽果
18. 身近な植物の形態 6 ミカンとカキ
19. 身近な植物の形態 7 節（茎と葉の接部）と節型
20. 身近な植物の形態 8 子葉の形態の節型
21. 身近な植物の形態 9 節型からみた維管束植物の進化
22. 豊かな日本の自然を守る諸団体を紹介 1
23. 豊かな日本の自然を守る諸団体を紹介 2
24. 一年のまとめ

科目名	生物学 B
担当者	加藤 信重

講義の目標

身近な自然を注意深く観察出来るようになることを目指す。

講義概要

普段、見過ごしている普通の種類を材料に、現代の生物学が抱える問題にスポットを当てて講義を進めたい。そのためには新聞・雑誌等に目を通すことが肝要である。原則として毎回特定のテーマについてのレポートを提出してもらう。

テキスト

使用しない。

参考文献

講義中に必要に応じてコピー配布をする。

評価方法

出席回数、通常のレポート、夏季休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。

受講者への要望

生物観察に関心があること。

年間授業計画

1. 序論 一年間の講義の進め方を説明し、レポート提出が多いことを理解してもらった後、抽選で受講生 48 名の確定、実験室での座席の決定を行う。
2. 実験室内における心得 実験室の器具等の扱い方を説明。
3. キャンパス・ウォッチング 種を区別するポイントを説明。
4. 身近な植物の観察 見なれた花の構造を観察。
5. 顕微鏡の使用法 実際の顕微鏡に慣れてもらう。
6. 顕微鏡の使用法 ミクロメーターの使用法。
7. 顕微鏡の使用法 単位面積当りの細胞数を数える。
8. キャンパス・ウォッチング 五感を働かせる
9. 身近な植物の観察 見慣れた果実の解剖。
10. トピックス 新聞・雑誌等の記事を読む。
11. 身近な植物の観察 見慣れた種の葉の形態を観察する。
12. 身近な自然 夏期休暇のレポートを書くための説明。
13. 種の多様性保全条約 なぜ他の生物を守らなければならないか。
14. 身近な植物の観察 スイカズラ科の特殊な形態を観察する。

15. 身近な植物の観察 身近なブナ科植物を観察する。
16. ワシントン条約 身近な"絶滅の危機に瀕している動植物"を観察する
17. 身近な植物の観察 秋の果実を観察する。
18. 身近な植物の観察 生産構造図を描く。
19. 身近な植物の観察 紅葉・黄葉の観察。
20. 分類に使われるキー・キャラクターとは デンドログラムを描く。
21. 分類に使われるキー・キャラクターとは ブナ科植物の場合。
22. レポートの整理 観察結果をより良いレポートにする方法を説明する。
23. トピックス 新聞・雑誌の記事を読む。
24. まとめ 一年のまとめと試験の説明。

科目名	自然科学概論
担当者	福井尚生

講義の目標

自然科学とは自然現象（人間の存否に無関係に起こる現象）に見出される普遍的な法則を探求する学問です。Kepler・Galileo・Newton・Einsteinへと宇宙方程式（Theory Of Everything）の模索は続きます。

さて、人間はこの宇宙方程式を満足する存在なのでしょう吗？宇宙進化の本流を人間本位に変えてはいないのでしょうか？地球外に文明を探してみても、この疑問を解決する糸口となるかも知れません。この辺りの自然科学者の取り組みを辿り自然科学の進め方を学ぶのが本講義の目標です。

講義概要

地球外文明の

1. 存在：「多数世界論」対「唯一世界論」
2. 探査哲学：平凡性の原理、人間原理
3. 進化： 型文明“地球”（ドレーク方程式）
型文明“ダイソン球”（赤外線源）
型文明“カルダシェフ球”（CTA-102
騒動）
4. 探査の現段階：オズマ計画、SETI
5. 探査効能：段階的（夢 現実 進歩）循環図

テキスト

プリント、視聴覚教材

評価方法

授業の際に配布する用紙に、授業内容に関する課題・宿題をその都度解答・提出してもらい、書かれてある内容を評価します。

前・後期定期試験

受講者への要望

『大学は学問を通じての人間形成の場である』を肝に命じ、十分に予習・復習をしながら真面目に主体的に授業に取り組んで下さい。

科目名	自然科学特殊講義 A (人間の自然認識)
担当者	東 孝 博

講義の目標

現代物理学を支える二本の柱は相対論と量子論であるが、この講義では量子論を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、自然科学の法則における人間（観測者）の存在ということに注目していきたい。

講義概要

前期はミクロの世界の成り立ちとそこを支配する法則である量子力学について概説する。後期は場の理論や観測の問題等を扱う。ブラックホールの蒸発や宇宙の発生というような新しい話題も紹介したい。

テキスト

とくになし。

参考文献

適宜紹介する。授業では視聴覚教材も使用する。

評価方法

日常の授業への参加態度と前・後期各 3~4 回の課題で評価を付ける予定。

受講者への要望

外国語学部共通科目「物理学」を既に履修していることが望ましい。

年間授業計画

1. はじめに - 講義内容紹介
2. 物は何からできているのか? - ミクロの世界 (1)
3. 物は何からできているのか? - ミクロの世界 (2)
4. 物は何からできているのか? - ミクロの世界 (3)
5. 光とは何か? 一波動説と粒子説
6. 光は粒子? - 光量子仮説
7. 電子は波? - 物質波
8. 確率の波 - 波動関数 (1)
9. 確率の波 - 波動関数 (2)
10. 確率の波 - 波動関数 (3)
11. 何処にいるのか分からない - 不確定性原理 (1)
12. 何処にいるのか分からない - 不確定性原理 (2)
13. 相対論と量子論の結婚 - 場の理論 (1)
14. 相対論と量子論の結婚 - 場の理論 (2)
15. 点の自転? 真空の穴?? - スピンと反粒子 (1)
16. 点の自転? 真空の穴?? - スピンと反粒子 (2)
17. シュレーディンガーの猫 - 観測の問題 (1)
18. シュレーディンガーの猫 - 観測の問題 (2)
19. 現実の世界は対称性の破れた世界 - 素粒子論 (1)
20. 現実の世界は対称性の破れた世界 - 素粒子論 (2)

21. 現実の世界は対称性の破れた世界 - 素粒子論 (3)
22. ブラックホールは黒くない - ブラックホールの蒸発
23. 宇宙は“無”から生まれた - 量子宇宙論
24. まとめ

科目名	自然科学特殊講義 A (植物と人間)
担当者	加藤 信重

講義の目標

普段、あまりに見慣れた種類のために注意深く観察することのない植物を材料として人類の交流を想像してみたい。

講義概要

身近な生物を理解するためにも、幅広く種類を選び、それらを扱った様々な文献を輪読し、その文献のサマリー作成を受講生にしてもらう。

テキスト

なし

参考文献

講義中に必要に応じてコピー配布をする。

評価方法

出席回数、通常のレポート、夏季休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。

受講者への要望

授業の性質上、受講希望者は生物学 A または B および外国文学概論等の講義をすでに履修済みであること。最初の日に簡単なテストを行うので、必ず出席すること。

年間授業計画

1. 序論 一年間の講義の進め方を説明。
2. 遺跡から出た植物遺骸 1 ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介 1
3. 遺跡から出た植物遺骸 2 ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介 2
4. 遺跡から出た植物遺骸 3 ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介 3
5. トピックス 英語や日本語の新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
6. 栽培植物の起源 1 何を植栽したか、民族による違いを説明 1
7. 栽培植物の起源 2 何を植栽したか、民族による違いを説明 2
8. 栽培植物の起源 3 何を植栽したか、民族による違いを説明 3
9. 日本文化の基盤をなす植物 縄文時代・弥生時代を特徴づける植物。
10. 日本文化の基盤をなす植物 江戸時代を特徴づける植物
11. 日本文化の基盤をなす植物 日欧交流史を特徴づける植物

12. 前期のまとめ 授業内容をまとめ、併せて夏休みのレポートを説明
13. 後期の序論 後期の講義進め方を説明
14. 夏期休暇中の読書紹介 1 受講生一人ひとりに講演をしてもらう。
15. 日本文化の基盤をなす植物 南蛮人の持ってきた植物。
16. トピックス 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
17. 日光御成街道沿いの植木村。
18. 朝顔と菊人形。
19. 夏期休暇中の読書紹介 2 受講生一人ひとりに講演をしてもらう。
20. 夏期休暇中の読書紹介 3 受講生一人ひとりに講演をしてもらう。
21. ツェンペリー、シーボルト、ペリー、モースの役割。
22. 夏期休暇中の読書紹介 4 受講生一人ひとりに講演をしてもらう。
23. 夏期休暇中の読書紹介 5 受講生一人ひとりに講演をしてもらう。
24. まとめ 一年間のまとめと試験の説明。

科目名	自然科学特殊講義 A (宇宙論)
担当者	福井尚生

講義の目標

特殊講義では、“特殊”な話題を「教養」の範囲内で少し深く“講義”するのが目標です。そこで本講義では、私の専門で自然科学の一分野・一般相対論的宇宙論に関する話題を少し深く講義します。

広大な宇宙を支配する力は重力、その重力に仕える物理学が Einstein の一般相対性理論です。その理論の宇宙への応用の際に、重力でつぶれてしまう宇宙を支える力として彼が導入した宇宙項が何度かの浮沈の後、今再び宇宙論屋の間で話題になっています。最近の観測では、宇宙膨張が加速しているかも知れないのです。この理論的説明にも宇宙項が一役買っています。

講義概要

1. 光：光の実速度を測定
2. 空間・時間：「絶対」対「相対」
3. 相対性理論：特殊相対性理論（特殊相対性原理、
光速度不変の原理）
一般相対性理論（一般相対性原理、
等価原理）
4. 一般相対論的宇宙論：構造論（宇宙モデル）
起源論（宇宙の始まり）
5. 宇宙論、最新の話題から：宇宙項、...

テキスト

プリント・視聴覚教材

評価方法

授業の際に配布する用紙に、授業内容に関する課題・宿題をその都度解答・提出してもらい、書かれてある内容を評価します

受講者への要望

『大学は学問を通じての人間形成の場である』を肝に命じ、十分に予習・復習をしながら真面目に主体的に授業に取り組んで下さい。科目の特性上、自然科学部門の科目を履修した学生或いは履修中の学生の受講を希望します。

科目名	自然科学特殊講義 A (化学)
担当者	和田 浩志

講義の目標

日常あまり意識していない身近な化学物質や化学的な現象を広く見渡し、自然界の不思議さや人類の英知を化学の面から再認識する。

また、近年社会問題になっている化学物質について、化学的に理解を深めるとともに、その背景にある問題点を多面的に把握しその解決方法を探る。

講義概要

洗剤、環境汚染物質、甘味料、香料、香辛料、毒物、麻薬・覚せい剤、薬、色素など、身近にある化学物質の構造式をテーマごとに眺めながら、そこに見られる共通性や異質性、有用性や危険性などについて講義する。構造式になじみがなくても理解できるように、なるべく実物に触れたり簡単な実験を行う。

また、最近の新聞や雑誌などで話題になっている化学物質についても適宜取り上げる。

テキスト

参考資料としてプリントをテーマごとに配布する。

参考文献

渡辺啓著『日常の化学』、サイエンス社、1999年

評価方法

出席回数、各種レポート、受講態度、定期試験の結果を総合して評価する。

受講者への要望

高校時代に化学を選択していなくても不都合がないように講義するが、ただ聞くだけという受身の姿勢ではなく、講義を通じてしっかりとした問題意識や自分なりの考え方を身につけて欲しい。

年間授業計画

1. はじめに：年間予定と講義内容の説明
2. 溶液の化学(1)：水の構造と特性 おいしい水と安全な水
3. 溶液の化学(2)：天然洗剤と合成洗剤
4. 溶液の化学(3)：界面活性剤とその応用
5. 環境の化学(1)：酸性雨と水質汚濁
6. 環境の化学(2)：地球温暖化とオゾン層破壊
7. 環境の化学(3)：内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン)
8. 味の化学(1)：天然甘味物質
9. 味の化学(2)：人工甘味料と味覚変革物質
10. 味の化学(3)：苦味物質と酸味物質

11. 香りの化学(1)：香りの本体とその応用
12. 香りの化学(2)：香辛料とその効用
13. 食品の化学(1)：お茶の成分と効用
14. 食品の化学(2)：ポリフェノールと活性酸素
15. 毒と薬の化学(1)：天然毒(植物毒、キノコ毒、カビ毒など)
16. 毒と薬の化学(2)：人工毒(農薬、毒ガスなど)
17. 毒と薬の化学(3)：麻薬、覚せい剤、幻覚剤など
18. 毒と薬の化学(4)：人体と薬
19. 毒と薬の化学(5)：生薬と合成医薬品
20. 色素の化学(1)：花と紅葉の色素
21. 色素の化学(2)：天然色素と合成色素
22. 生態の化学(1)：有用物質を介した生物界の相互作用
23. 生態の化学(2)：有害物質を介した生物界の相互作用
24. まとめ

科目名	コンピュータ入門
担当者	各担当教員

11. ワープロ入門 - 英文ワープロ (2)

12. 情報倫理

講義の目標

現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。

この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。

とくに大学生活（広くは社会生活）で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。

講義概要

コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。

内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク（通信）、情報倫理についてである。

テキスト

本学情報センター発行のもの。タイプ練習用ソフト。

参考文献

授業中、随時紹介する。

評価方法

授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。

受講者への要望

実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。第1回目の授業で、使用教材や授業に必要なものを指示する。欠席した場合にはその後の受講は認めない。

年間授業計画

1. ガイダンスとコンピュータの基本操作
2. ウィンドウズ入門 - ウィンドウ操作とフロッピーディスクの取り扱い
3. タイピングと日本語入力
4. インターネット - ブラウザ・メール・図書検索 (1)
5. インターネット - ブラウザ・メール・図書検索 (2)
6. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷 (1)
7. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷 (2)
8. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷 (3)
9. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷 (4)
10. ワープロ入門 - 英文ワープロ (1)

科目名	情報科学概論
担当者	呉 浩 東

講義の目標

本講義では、はじめて情報科学とコンピュータの勉強をされる学生たちを念頭におき、情報科学とコンピュータリテラシの話からスタートし、コンピュータの歴史と仕組み、情報のデジタル化とコンピュータによるデータの表現や、コンピュータの原理を紹介する。その後で、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術に重点をおき、コンピュータ利用技術に関するさまざまな知識を概説する。本講義は情報処理技術者試験を受験しようとする学生たちに、また、コンピュータを中心とした情報科学に深い興味をもつ学生たちに十分に役立つように工夫している。

講義概要

本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に情報の符号化、数値や文字などデータのコンピュータ内での表現、データの入出力、プログラム構造、ファイルとデータベースの構造、データベース管理システムの概要、データ通信とコンピュータ・ネットワーク、特にインターネットについて述べる。最後に、情報システムの設計、情報セキュリティについて解説する。

テキスト

- (1) 最初の講義で指示する。
- (2) 随時必要な資料をファイルで配布する。

参考文献

適宜紹介します。

評価方法

前・後期各一度のテストと、レポートの提出および出席を加味して評価する。

受講者への要望

「コンピュータ入門」を既修または並行履修のこと。

年間授業計画

1. 本講義の概略
 - 年間の講義概要、評価の方法と基準、授業の進め方
2. 情報とは何か
 - 情報の持つ性質、情報の形態、情報とデータ、機械文明と情報

3. コンピュータの歴史と特徴
 - 計算機械の変遷とコンピュータの世代論、コンピュータの定義
4. コンピュータ・ハードウェアの概略
 - 中央処理装置、記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置
5. データ表現
 - 情報量の単位と文字コード、数値データの種類
6. 数の体系と基数変換
 - 2進数と16進数、基数変換
7. 論理演算
 - 論理演算の種類、真理値表
8. コンピュータ・ソフトウェアの概略
 - ソフトウェアの役割、体系と種類
9. オペレーティングシステム (OS)
 - OSの基礎概念、OSの構成と機能
10. コンピュータ言語
 - コンピュータ言語の目的と分類
11. 基本データ構造
 - 木構造、配列構造、リスト構造、スタック構造、キュー構造
12. ファイルの構造
 - ファイルの構造、種類、用途
13. ソフトウェア開発手順
 - システム分析と設計、プログラム開発、プログラミング、システムテストと保守
14. データベース
 - データベースの概要、データベースの種類
15. データベースの管理システム DBMS
 - DBMSの条件、機能、分散データベース
16. データベース言語
 - データベース記述言語と操作言語の概要、データベースの定義と操作
17. データベースの設計
 - データベース構築の手順、設計の事例、データの正規化
18. コンピュータ通信
 - 情報通信の基礎、データ転送のしくみ
19. コンピュータ・ネットワーク
 - コンピュータ・ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式
20. インターネット
 - インターネットの仕組み、通信規約 TCP/IP、DNS、サーバクライアントモデル
21. インターネットサービス
 - World Wide Web、情報検索、電子メールなど

22. インターネットと社会

インターネット通信の特徴、ネットワークセキュリティ、暗号システムの基礎

23. 情報処理システム

情報管理の必要性、情報処理システムの構成、システムの評価

24. コンピュータ・セキュリティ

情報化社会の問題点と倫理

科目名	言語学
担当者	小松雅彦

講義の目標

テキストを理解し、一般言語学の諸分野および音声学について知ることを目標とする。

講義概要

講義では、テキストに従って、一般言語学の諸分野および音声学について説明する。どちらかというところ、かなり堅い話になると思われる。年度末には、数回に渡って、テキストに含まれていないトピックを選び講義する。

この講義では、一般言語学および音声学に多くの時間を費やし、そのほかの分野にはあまり触れられない。全般的な知識を得るためには「現代言語学 20 章 ことばの科学」等を各自読んで欲しい。

テキスト

風間喜代三他「言語学」東大出版会

参考文献

ジョージ・ユール「現代言語学 20 章：ことばの科学」大修館書店

二木紘三「国際語の歴史と思想」毎日新聞社

評価方法

レポート

受講者への要望

自分で言語についていろいろ考えて欲しい。

「現代言語学 20 章：ことばの科学」は講義でカバーされていない諸分野を含む読みやすい本なので、各自読んで欲しい。

年間授業計画

1. 授業の説明、言語学とは何か (1)
2. 言語学とは何か? (2)
3. 語の構造 (1)
4. 語の構造 (2)
5. 文の構造 (1)
6. 文の構造 (2)
7. 語の意味 (1)
8. 語の意味 (2)
9. 文の意味 (1)
10. 文の意味 (2)
11. 言語の種類 (1)
12. 言語の種類 (2)
13. 言語の変化 (1)
14. 言語の変化 (2)
15. 音の構造 (1)

16. 音の構造 (2)
17. 音の構造 (3)
18. 音の構造 (4)
19. 音響音声学
(時間が不足する場合には割愛)
20. 言語の特性、動物と人間言語
21. 言語と脳、手話
(時間が不足する場合には割愛)
22. 母語の習得、第 2 言語の習得・学習
(時間が不足する場合には割愛)
23. 人工世界語・国際語の歴史
24. (予備)

科目名	言語学
担当者	井口厚夫

講義の目標

言語学の一般的な知識を得る。

講義概要

言語学とは何かを問う。英語や日本語といった個別の言語ではなく、全ての人間言語が持つ特徴について触れるとともに、言語を分類するとどのようになるかも論じる。抽象的な議論も多いので、コトバに興味のない人は取らないほうがいいだろう。興味のある人にはいろいろな逸話が出て面白いと思うが、それらに興味のない人にとっては酒のつまみにもならない。

教科書は分かりやすいが、日本語の例が少ないので講義中に補っていく。この他にも随時詳述したり省いたりするので必ずしも教科書通りに進むわけではない。教科書と講義が相補的になる場合もある。あらかじめ指定された箇所を読んでこない講義はわからないので予習が必要。

テキスト

「言語学は科学である」(城生侑太郎著、情報センター出版局)

評価方法

レポートの予定。

受講者への要望

聞いているだけなら面白い授業だが(多分)教科書の丸暗記では単位は取れない。講義と教科書、そして自分のアイデア、それをサポートするデータが要求される。

年間授業計画

1. 人間言語の特徴 ミツバチの“コトバ”
2. 人間言語の普遍性
3. 音声学 1 音の仕組み・一般論
4. 音声学 2 音の仕組み その2
5. 音声学 3 外国語との対照
6. 音韻論 rice と lice、または空耳アワー
7. 音韻論 日本語の「ん」「っ」とは何か
8. 音韻論 モーラと英語の俳句、韻を踏む
9. 文法のカテゴリー - テンス・アスペクト・性・数など
10. 品詞の話
11. 形態論 “レスカ”の秘密
12. 統語論 「血まみれの泥棒」・生成文法の理念・言語習得

13. 意味論・語用論 “Where were you on the bike at that time?” “On the seat.”
14. 言語の系統(歴史的1) 英語などのルーツ
15. 言語の系統(歴史的2) 泥沼の日本語のルーツ
16. 言語変化(地理的) 方言、または日本アホバカ分布図
17. 言語変化(歴史的1) 英語の変化
18. 言語変化(歴史的2) 日本語の変化
19. 言語接触 - ビジン・クリオール「高いないよ」
20. 言語変化(現代)「ら抜き」言葉、言語生活
21. 社会言語学
22. 二言語使用(バイリンガリズム)
23. 言語と文化
24. コンピュータと言語、機械用辞書の話

科目名	情報科学各論 (中級 - データベース 1, 2)
担当者	長 崎 等

講義の目標

本講義はデータベースについて、その扱い方、作り方等について学ぶ。前期にはデータベース専用ではないが、通常は十分と思われるソフトウェア、Excel のデータベースについてその基本を学び、特にクロス集計については統計的な関連などに触れるつもりである。後期にはデータベース専用ソフトである、Microsoft Access についてその扱い方、作り方等について述べる。特に複数のデータベースの扱い方やマルチメディア、たとえば写真などの扱い方にも触れる。

講義概要

本講義のねらいは、あらゆる情報がうずまく中で、如何に的確な情報を取り込むかについての方法的なひとつの答えとしてデータベースについて述べる。データベース用のソフトはかなり沢山のものが出回っているが、前期では Excel、後期には Access を中心に述べるつもりである。これらのソフトは Microsoft Office として含まれているものであり、かなり一般的なものである。また当然のことであるがコンピュータにある程度なれていることが必要である。

テキスト

未定

参考文献

授業中に随時述べる。

評価方法

レポートまたはテスト

受講者への要望

まじめに出ること。

年間授業計画

(前期)

1. データベースとは。コンピュータによるデータの検索とは。
2. データベースの作り方および扱い方。用語について。
3. 既存のデータベースである Excel のデータベース機能について見よう。
4. 「百人一首データベース」とは。収録和歌集別に和歌を分類してみよう。
5. 特定の順序での並べ替え。
6. 簡単な集計。作者職業別集計や和歌分類毎の和歌

の分類。

7. レコードの検索。AND 検索や OR 検索。
 8. オートフィルタによるレコードの抽出。
 9. 和歌の上の句や下の句に、たとえば、"恋"という字が含まれている和歌の抽出。
 10. データベース関数。2 項目間のクロス集計。
 11. データベースへのデータ入力。
 12. データベース総合。
- (後期)
13. データベース専用ソフト Access について。
 14. Access とは。Access の起動。Access の終了。
 15. Access の基本操作。テーブル、クエリー、フォーム、レポート。
 16. Access によるデータベースの作成。フィールドの定義。追加。削除。
 17. クエリーによるデータ検索。
 18. フォームの作成。
 19. ポートレイトをとる。デジタルカメラの実習。
 20. 住所録データベースを作る。
 21. 住所録データベースに写真を貼り付ける。データベースの圧縮。
 22. 出身高校データベースを作る。
 23. 特定高校の出身者を抽出する。
 24. レポート作成。データベース総合。

科目名	情報科学各論 (中級 - データベース 1)
担当者	松 山 恵美子

講義の目標

この授業は表計算ソフト (Excel) の基礎をマスターした学生を対象とし、データベースの扱い方の基礎を学ぶ。ネットワーク上から取得したデータを加工してデータベースを作成する、Excel に用意されているデータベース機能を使いデータを検索・抽出するなどの実習を通しデータベースの基本を理解する。また、数値データだけでなく文字データの処理方法についても学習する。

講義概要

大量のデータの中から必要なデータを的確に抽出・検索・加工していく力を習得する。1つのデータベースから別の表やグラフを作成する、計算式や関数などを利用し新たな項目を付加するなど、情報科学各論 (表計算の基礎) の復習も含め学習していく。また、新たにデータベースを作成する方法やデータベース機能についても学ぶ。

最後に、作成したデータベースを抽出・検索、クロス集計などで分析し、その結果を Word でまとめレポートを作成する。

テキスト

第1回目の授業で指示します。

参考文献

授業中、随時紹介します。

評価方法

授業中に指示する課題の作成と授業への出席、参加態度などの平常点で総合評価します。

受講者への要望

情報科学各論 (初級一表計算入門) を既修、またはそれと同等程度のものが望ましい。第1回目の授業は必ず出席してください。遅刻は厳禁とします。

年間授業計画

1. 授業の目標と進め方など本授業の概要について。
表計算の復習。
2. ネットワークからのデータの取得と加工。
3. レコードの並べ替え。
4. 集計。
5. 検索。
6. オートフィルタ機能のオプションによる抽出。
7. クロス集計 (ピボットテーブル)。
8. データベース作成 - その1。
9. データベース作成 - その2。

10. データベース総合 - その1。

11. データベース総合 - その2。

Wordでのレポート作成 - その1。

12. Wordでのレポート作成 - その2。

以上

科目名	情報科学各論 (初級 表計算入門)
担当者	各担当教員

講義の目標

この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。

講義概要

この授業では、表計算 (MS-Excel) の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。

テキスト

第1回目の授業で指示する。

参考文献

授業中、随時紹介する。

評価方法

授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

受講者への要望

「コンピュータ入門」修了者が、または、それと同等程度のものを対象とする。教室のコンピュータの台数にあわせて受講者を選抜する。第1回目の授業で使用教材や授業に必要なものを指示するので必ず出席すること。

年間授業計画

1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
2. 表の作成 (文字の入力)、グラフの作成
3. 表の編集、グラフの装飾、印刷
4. 計算式の利用
5. ネットワークからのデータの収集・整理
6. 関数の利用 (1)
7. 関数の利用 (2)
8. マクロの利用
9. プレゼンテーションの作成 (1) - MS-Powerpoint とは
10. プレゼンテーションの作成 (2) - データの活用・まとめ
11. プレゼンテーションの発表
12. 総合演習

科目名	情報科学各論 (初級 HTML 入門)
担当者	各担当教員

11. ファイルの転送とページの更新

12. インターネットと情報倫理

講義の目標

この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。

講義概要

この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。

テキスト

授業で指示する。

参考文献

授業中、随時紹介する。

評価方法

授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

受講者への要望

「コンピュータ入門」修了者か、または、それと同等程度のものを対象とする。教室のコンピュータの台数にあわせて受講者を選抜する。第1回目の授業で使用教材や授業で必要なものを指示するので必ず出席をすること。

年間授業計画

1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
2. コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成
3. ファイルの種類とフォルダ構造
4. WWW と WWW ブラウザ
5. ページの構造と HTML
6. ホームページの作成 - テキスト
7. ホームページの作成 - リンク
8. ホームページの作成 - イメージ
9. ホームページの作成 - テーブル・その他
10. ホームページの作成 - 完成

科目名	情報科学各論 (初級 - プレゼンテーション)
担当者	金 井 満

講義の目標

この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。

講義概要

この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。また実際にプレゼンテーションする場合の一般的な注意点なども併せて学ぶ。

テキスト

授業で指示します。

参考文献

授業中、随時紹介します。

評価方法

授業中に指示する課題の作成と学期末に行うプレゼンテーションで評価します。

受講者への要望

「コンピュータ入門」修了者か、または、それと同等程度のものを対象とします。プレゼンテーション用ソフトウェアの学習ですので、積極的に参加し、アピールのできる学生以外には向きません。教室のコンピュータの台数にあわせて受講者を選抜します。

年間授業計画

1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
2. Powerpoint の基本操作 1
3. Powerpoint の基本操作 2
4. 画像や音を取り込もう
5. 動画を取り込もう
6. 他のソフトも一緒に便利に使おう
7. アニメーションでアクセントをつけよう
8. プレゼンテーション用の資料を作ろう
9. その他の便利な使い方
10. プレゼンテーションのリハーサル
11. プレゼンテーションの準備
12. プレゼンテーションの準備

科目名	情報科学各論 (中級 - HTML 応用 1)
担当者	金子 憲一

講義の目標

この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人を対象に、一方向な情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コミュニケーション技術を得る事を目標とする。

講義概要

この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、簡単なゲームや占い、アンケート、掲示板等の作成を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。

テキスト

授業で指示する。
プリントの配布も行う。

参考文献

随時紹介する。

評価方法

授業中に作成する課題と平常点で総合評価する。
出席は特に重視する。

受講者への要望

「HTML 入門」の修了者か、同程度の能力 (HTML および FTP の理解) を持つ者を対象とする。必要に応じて選抜を行うので、「履修登録の要領・指示」には特に注意する事。第 1 回目の授業に無断で欠席した場合は、履修を無効とする。復習 (宿題) が多い事を認識した上で受講してください。

年間授業計画

- 1 . ガイダンスとイントロダクション
- 2 . HTML と FTP の復習
- 3 . インタラクティブなページ (HTML と CGI)
- 4 . JavaScript (1)
- 5 . JavaScript (2)
- 6 . JavaScript (3)
- 7 . JavaScript (4)
- 8 . CGI プログラム (1)
- 9 . CGI プログラム (2)
- 10 . CGI プログラム (3)
- 10 . CGI プログラム (4)

科目名	情報科学各論 (中級 - HTML 応用 1)
担当者	田 中 雅 英

講義の目標

この授業は情報科学各論（コンピュータ初級 - HTML 入門）に続く中級コースである。初級と同じく単にホームページ作成ということのみを目標とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を深め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。

講義概要

HTML 入門において Web ページの作成の一通りの知識を習得した学生を対象に、単に HTML 言語の更なる発展を目指すのではなく、cgi や javascript にまで範囲を広げる。そうしてネット上で様々な情報のデータベース化を図り、情報処理としての広範囲の知識の整理を図りたい。

テキスト

授業で指示する。

参考文献

授業中に適宜紹介する。

評価方法

授業中に指示する課題（複数回）と平常点で評価する。

受講者への要望

情報科学各論（コンピュータ初級 - HTML 入門）を履修しておくことは絶対条件である。受講生はコンピュータの台数に合わせて選抜になる。選抜に関する注意は必ず把握しておくこと。また講義最初の時間は出席が必須で、いかなる理由による欠席も受講が取り消される。なお授業計画はあくまでも一つの目安であり、途中での変更はありえる。

年間授業計画

1. ガイダンスと復習
2. Web ページのネットへのアップロード等
3. cgi (counter、掲示板)
4. cgi (アンケート)
5. javascript 1
6. javascript 2
7. 情報の収集 1
8. 情報の収集 2
9. データベース化 1
10. データベース化 2
11. データベース化 3
12. その他

科目名	情報科学各論 (中級 - HTML 応用 1)
担当者	井上博樹

講義の目標

インターネットを利用した Web サイトの企画・作成・公開などを通じ、

1. 情報社会におけるプロデュースワーク手法の習得
2. チームでのコラボレーション手法の習得
3. 上記に必要な各種技術の習得

(HTML, E-mail, メーリングリスト、Web データベース)

を目指す。

講義概要

基礎的な知識・スキルの講義・実習と、チームに分かれてのサイト構築に取り組んでいただく。

1. 分散コンピューティングの概念
2. HTML ファイルのコーディングからアップロードまで
3. 画像ファイルの処理
4. 入力フォームと CGI、サーバサイドスクリプトの連携
5. Web とデータベースの連携
6. データベースからのデータ抽出と分析手法
7. インターネットへのアクセス手段と可能なコンテンツ

テキスト

特になし。適宜 Web ページを通じて提供。

参考文献

「ネットワーク経済の法則」(カール・シャピロ、ハル・バリアン)(IDG)

「PHP 徹底攻略 Web データベースの連携プログラミング」(技術評論社)

「MySQL 徹底入門」(翔泳社)

評価方法

課題への取り組み、プレゼンテーション、チームへの貢献度など

受講者への要望

HTML の基礎やコンピュータの基本的な扱いについて理解している方が望ましい。

年間授業計画

1. イントロダクション
 - ・講義の目標と、概要について
 - ・チーム編成と企画着手
2. Web ページの作成からサーバ掲載まで
 - チーム作業(企画完成・チームの Web 作成)

3. 企画発表
4. Web サーバの動作原理と外部プログラムとの連携
5. UNIX マシンへのログインとファイル編集
6. PHP スクリプト入門
7. リレーショナルデータベース入門 (MySQL)
 - ・テーブルの作成・検索・更新・削除
 - ・PHP による Web サーバとの連携
8. アンケートデータベース作成
 - ・データベース設計
 - ・データのエクスポート・分析
9. HTML のブラッシュアップ
10. マルチメディアデータの扱い(1)
11. マルチメディアデータの扱い(2)
12. 最終発表

科目名	情報科学各論 (中級 - HTML 応用 2)
担当者	井上博樹

講義の目標

インターネットを利用した Web サイトの企画・作成・公開などを通じ、

1. 情報社会におけるプロデュースワーク手法の習得
2. チームでのコラボレーション手法の習得
3. 上記に必要な各種技術の習得

(HTML, E-mail, メールングリスト、Web データベース)

を目指す。

講義概要

基礎的な知識・スキルの講義・実習と、チームに分かれてのサイト構築に取り組んでいただく。

テキスト

特になし。適宜 Web ページを通じて提供。

参考文献

「ネットワーク経済の法則」(カール・シャピロ、ハル・バリアン)(IDG)

「PHP 徹底攻略 Web データベースの連携プログラミング」(技術評論社)

「MySQL 徹底入門」(翔泳社)

評価方法

課題への取り組み、プレゼンテーション、チームへの貢献度など

受講者への要望

HTML の基礎やコンピュータの基本的な扱いについて理解している方が望ましい。

年間授業計画

1. イントロダクション
 - ・ 講義の目標と、概要について
 - ・ チーム編成と企画着手
2. インターネットへのアクセス手段とブロードバンド時代のコンテンツ
 - ・ CATV、xDSL、FWA、FTTH などの現状とアプリケーションの理解
3. オンラインマーケティング(1)
4. オンラインマーケティング(2)
5. オンラインマーケティング(3)
6. Web データベース(1)
 - ・ 前期の復習 (Web サーバとデータベース連携)
7. Web データベース(2)
 - ・ 検索サイトの作成

8. マルチメディアデータとストリーミング配信(1)
 - ・ 取り込みと変換 (MP3, RealMedia, WindowsMedia)
 - ・ RealMedia によるストリーミング配信
9. マルチメディアデータとストリーミング配信(2)
10. マルチメディアデータとストリーミング配信(3)
 - ・ ビデオ撮影と取り込み・エンコーディング
11. チーム発表
12. まとめ

科目名	情報科学各論 (中級 - プログラミング論 1)
担当者	呉 浩 東

講義の目標

コンピュータで問題を解決するには、プログラムを書かなくてはなりません。本講義では、プログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説します。プログラミングのノウハウや方法などを理解することを目標とします。

講義概要

初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語とオペレーティングシステムについて概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic を用いてプログラミングの設計手順や方法、およびプログラミング言語の構造、さらに基本的なプログラムの仕組みなどを学びます。いくつかのプログラムの設計について講義と演習を行います。

テキスト

- (1) 最初の講義で指示する。
- (2) 随時必要な資料をファイルで配布する。

参考文献

必要に応じて、著書、ホームページ、ソフトウェアなどを紹介する。

評価方法

前期の定期試験と、2 回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。

受講者への要望

「コンピュータ入門」を既修か、または、それと同等程度のものを対象とします。教室のコンピュータの台数にあわせて受講者を選抜します。本講義を履修する方は、後期の「情報科学各論(中級 - プログラミング論 2)」と組み合わせて履修する必要があります。

年間授業計画

1. 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説：コンピュータハードウェアの構成とコンピュータのアプリケーションの概説
2. プログラミング言語とオペレーティングシステム：プログラミング言語の種類と特徴、オペレーティングシステムの基礎概念、構成と機能
3. Visual Basic の概要：Visual Basic の特徴、画面構成と重要用語
4. Visual Basic の基本操作：アプリケーション作成

手順、コントロールの配置、プロパティの設定、コーディング

5. 簡単なプログラムの作成：変数の定義と使い方、データ型、プロパティの値の取得と演算
6. 選択構造をもつプログラムの作成(1)：条件選択構造、アプリケーションの設計とコーディング
7. 選択構造を持つプログラムの作成(2)：多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計、選択ステートメントの説明
8. 選択構造を持つプログラムの作成(3)：オプションボタンの利用、チャットボタンの利用、リストボックスの利用
9. 繰り返しあるプログラムの作成：ループ構造とその応用
10. 配列とコントロール配列：一次元配列、二次元配列、コントロール配列
11. グラフィック処理：さまざまな図形を描写する
12. ファイル処理：データファイルの種類、ファイルヘデータの読み書き

科目名	情報科学各論 (中級 - プログラミング論 2)
担当者	呉 浩 東

講義の目標

プログラミング技術を上達させるために、系統的に異なる様々な視点でのアルゴリズム (algorithms) 学習が効果的です。そのために、本講義はコンピュータのプログラミングで使われるデータ構造とアルゴリズムにおいて重点的に概説します。データ構造とは、コンピュータのメモリ (またはディスク) の上にデータをどのように並べるか、という方法や形式のことです。アルゴリズムとは、それらのデータ構造に収めたデータを操作するためにプログラムが用いる一連の手続きのことです。本講義では受講者に基本的なデータ構造とアルゴリズムをわかりやすく説明し、プログラミング能力をさらに上達することに目指します。

講義概要

初めに、プログラミングの設計に重要であるデータ構造とアルゴリズムの概念を概説します。さらに、データ構造を細かく分析する上、さまざまな例を用いてデータ構造の定義から使い方までを説明し、演習を行います。また、データ構造をアルゴリズムに応用し、プログラミングに特によく使うアルゴリズムを講義と演習しながら学びます。

テキスト

- (1) 最初の講義で指示する
- (2) 随時必要な資料をファイルで配布する。

参考文献

必要に応じて、著書、ホームページ、ソフトウェアなどを紹介する。

評価方法

定期試験と、2 回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。

受講者への要望

プログラミング言語 (例えば、Visual Basic あるいは C++ か Java など) を理解できることが履修の前提とします。教室のコンピュータの台数にあわせて受講者を選抜します。

年間授業計画

1. なぜデータ構造とアルゴリズムが重要なのか？
現実世界の多様なデータの記録と表現、プログラミングのツールとして
2. 基本的なデータ構造 (1): 配列、スタックとキュー

3. 基本的なデータ構造 (2): 連結リスト、リストの作成、リストへの挿入、リストからの削除
4. 基本的なデータ構造 (3): 木と二分探索木
5. 探索 (1): 逐次探索と番兵
6. 探索 (2): 二分探索、併合
7. 探索 (3): 文字列の照合、文字列の置き換え
8. 簡単なソート: 選択ソート、挿入ソート
9. 再帰: 再帰とは、再帰の簡単な例
10. 高度なソート: クイック・ソート
11. アルゴリズムの設計: 分割統治法、動的計画法
12. アルゴリズムの評価と比較

科目名	情報科学各論 (音の構造1)
担当者	伊豆山 敦子

講義の目標

人間の言語音にはどのようなものがあるか。その調音機構を観察し、調音・聴取の訓練をする。そしてその表記方法を習得する。それは、言語研究の基礎である。

さらに、音声が各言語で果たしている機能にも触れる。

無意識に習得した各自の第一言語の音声面に対して、客観的認識が得られることを期待する。そして第二言語習得や言語研究・教育などに役立てることを目標としている。

講義概要

一般的に、人間の言語音には、どんなものがあり、どのような構造なのかを学ぶ。国際音声字母表を用いながら、調音音声学的訓練を行う。個々の単音の調音を説明し、各自で自覚的に調音し、また、聞き分ける。そして音声表記をできるようにする。当然、各自生得の言語(方言)の音声面に対する音声学的観察をすることになる。

さらに進んで、音声の機能面に着目し、音韻論の基礎を日本語の音声観察から学ぶ。

受講者の人数にもよるが、各人が音声学的知識を身につけ、音声を観察することができるようになることを主眼とする。

テキスト

小泉保「音声学入門」(1996) 大学書林

参考文献

服部四郎「音声学」(1984) 岩波書店

川上泰「日本語音声概説」(1977)おうふう

風間喜代三 et al.「言語学」(1993) 東京大学出版会

評価方法

授業中に随時行う単音聴取テストへの参加。

前期・後期各一回の聴取テストと筆記試験。

以上の総合により評価する。

受講者への要望

単音を聴き取り、発音するのは、自分自身である。

実際に聴き、注意を向けるところを教われれば解るのに、一人で本を読むだけでは解りにくい。休まないことを要望する。

年間授業計画

1. 音声学とは(pp. 1 - 4)

2. 気流と発声(pp. 5 - 23)

3. 調音器官(pp. 23 - 30)

4. 母音(pp. 85 - 97)

5. 有声・無声、鼻腔・口腔

6. 両唇閉鎖音

7. 両唇摩擦音

8. 唇歯音

9. 歯・歯茎閉鎖音

10. 歯・歯茎摩擦音

11. 破擦音

12. テスト

科目名	情報科学各論 (音の構造2)
担当者	伊豆山 敦子

講義の目標

人間の言語音にはどのようなものがあるか。その調音機構を観察し、調音・聴取の訓練をする。そしてその表記方法を習得する。それは言語研究の基礎である。

さらに、音声各言語で果たしている機能にも触れる。

無意識に習得した各自の第一言語の音声面に対して、客観的認識が得られることを期待する。そして第二言語習得や言語研究・教育などに役立てることを目標としている。

講義概要

一般的に、人間の言語音には、どんなものがあり、どのような構造なのかを学ぶ。国際音声字母表を用いながら、調音音声学的訓練を行う。個々の単音の調音を説明し、各自で自覚的に調音し、また、聞き分ける。そして音声表記をできるようにする。当然、各自生得の言語(方言)の音声面に対する音声学的観察をすることになる。

さらに進んで、音声の機能面に着目し、音韻論の基礎を日本語の音声観察から学ぶ。

受講者の人数にもよるが、各人が音声学的知識を身に付け、音声を観察することができるようになることを主眼とする。

テキスト

小泉保「音声学入門」(1996) 大学書林

参考文献

服部四郎「音声学」(1984) 岩波書店

川上泰「日本語音声概説」(1977)おうふう

風間喜代三 et al.「言語学」(1993) 東京大学出版会

評価方法

授業中に随時行う単音聴取テストへの参加。

前期・後期各一回の聴取テストと筆記試験。

以上の総合により評価する。

受講者への要望

この講義は前期開講の情報科学各論(音の構造1)の習得を前提とする。

年間授業計画

1. テスト講評と復習
2. 硬口蓋音
3. 軟口蓋音

4. 口蓋垂音
5. 側面音
6. ふるえ音・はじき音
7. 接近音
8. 副次調音(pp.70 - 83)
9. 鼻母音(pp.100 - 101)
10. 日本語の音素(pp.142 - 146)
11. 日本語の音素(pp.148)
12. テスト

科目名	日本語学概論
担当者	金田一 秀 穂

講義の目標

母語である日本語を客体的に捉え、今ある世界をちがった目で見ることが出来るようになること。

講義概要

日本語の音声や語彙について触れ、私たちの使っていることばが、どのように分析されるかを考える。

テキスト

使いません

参考文献

評価方法

前期、及び後期の試験

受講者への要望

好奇心、柔敏な思考と発想

年間授業計画

1. オリエンテーション 日本語学の領域
2. 音声からみた日本語 1
3. 音声からみた日本語 2
4. 音声と語彙
5. 語彙論の方法
6. 語彙の分類
7. 外来語・借用語
8. 語彙の構成
9. 語彙の生成
10. 語彙と文法
11. 文の形・分類
12. 文の構造
13. 文のモダリティ
14. 文の命題
15. 文の意味
16. 意味の種類
17. 文体的意味
18. 状況の意味
19. 直示
20. 発語の意味
21. 認知と意味 1
22. 認知と意味 2
23. 言語行動論
24. まとめ

科目名	日本語教育概論
担当者	井口厚夫

講義の目標

日本語教育とは何か、日本語教育に何が今起きているかを理解する。

日本語教師になる者だけを対象とした講義ではないので、語学教育や日本語を教えることに興味を持つ学生に広く受講してもらいたい。

講義概要

このコースでは、日本語教育がどのようなものかを紹介し、概観する。併せて外国語教育に関連した諸々の問題にも触れる。なお旧カリで受講する学生（4年生）は、後期については集中授業（12月末）とする。

テキスト

『ここからはじまる日本語教育』 姫野昌子 他、
ひつじ書房。

参考文献

その都度指示。

評価方法

気づきノート・レポート・前期試験・後期試験(旧カリのみ)の4つによって評価する。

受講者への要望

『日本語教授法』の前にこのコースを取ることが望ましい。日本語を外国人に教えることに興味を持つ者は、まずこの授業から入ること。

年間授業計画

1. オリエンテーション・日本語授業の実際
2. 日本語教育とは何か・日本語教育と国語教育
3. 日本人なら日本語が教えられるか - 日本語と外国語（音）
4. 日本語と外国語（文法）
5. 日本語と外国語（文法2）
6. 君の日本語は大丈夫か ら抜き言葉など
7. 辞書の話
8. 教授法あれこれ その歴史的発展と特長
9. 教授法あれこれ その歴史的発展と特長 その2
10. 外国人の日本語・外国人に通じる日本語
11. 海外で教えるケーススタディ
12. まとめ

以下旧カリのみ

13. 日本語教育の歴史1（黎明～戦前）
14. 日本語教育の歴史2（戦後）
15. 日本語教育の現状

16. 日本語学習者の姿・異文化理解とカルチャーショック
17. 海外で教える その2
18. 海外で教える その3
19. 日本語教師論
20. 日本語教育能力検定試験について
21. 日本語教育の抱える問題点
22. 日本語教育の将来
23. まとめ
24. (予備)

科目名	日本語学特殊講義 A
担当者	中 西 家栄子

講義の目標

海外で書かれた日本語学に関する文献を原書で読むことを通じて日本語を様々な視点から見る。また、この購読を通じ日本語に関する理解を深めることもその目的とする。さらに、この講義を海外で日本語教育をする時に役立つものにしていきたい。

講義概要

基本的には原書講読となる。日本語学関係の文献（英文のものに限られる）を読んでその内容を理解し、検討する。文字通りの翻訳ではなく、各人が担当する章をまとめ、そのまとめに基づいて内容発表をすることが課題となる。本年度は談話についての文献 "Japanese Communication - Language and Thought in Context" by Senko K. Maynard を取り上げる。必要に応じて他の関連の文献を読むこともある。

テキスト

"Japanese Communication - Language and Thought in Context" by Senko K. Maynard
University of Hawaii Press , Honolulu

参考文献

「談話分析の可能性」 泉子・K・メイナード くろしお出版

「会話分析」 泉子・K・メイナード くろしお出版

その他

評価方法

クラスでの課題発表

中間・期末テスト

出席・クラス参加

受講者への要望

必ず予習をすること。

年間授業計画

授業進行は特に日程を決めない。

科目名	基礎ドイツ語
担当者	大 串 紀代子

講義の目標

ドイツ語初級者対象だが、ドイツ語の基礎学力向上と、ドイツ語圏の社会、政治、文化、歴史に対する関心を高めることを目標にする。語学力に関しては、文法的知識だけでなく、発音、作文、読解能力をバランスよく伸ばす。

講義概要

語学力を高め、諸知識を深めるため、テキスト(教科書)を土台としつつ、同時に Video、CD 等を毎時併用する。

授業の性質上、参加学生の発言の機会をなるべく多く持つ。

より高い効果を得るため、作文は常時メールで提出させる。

テキスト

“ Mit Spa zur Ernte ! ”

「ドイツ語の収穫」 春日正男、高橋泰男 著
朝日出版社 2001年4月初版

参考文献

各種 独和辞典、ドイツ語参考書
中公新書 1420 「物語ドイツの歴史」
阿部謹也 著

評価方法

主として日常点(授業への取組み)で決める。

受講者への要望

- 1) 必ず出席し、授業中に発表、提案、質問、意見など、積極的に発言すること。
- 2) 1日1題自主作文をし、週に1度はメールで提出すること。

年間授業計画

1. 発音と簡単な単語
テキストと Video 使用
2. 発音と簡単な挨拶
テキストと CD 使用
3. 動詞の現在人称変化
短文練習
4. 不規則動詞の変化 と形容詞
短文練習
パートナー練習
5. 名詞の変化
定冠詞の変化と簡単な短文
組かえ練習

6. 不定冠詞の変化
さまざまな文章を作ってみる
Video による練習
7. 定冠詞類の練習
文の言い換え
所有冠詞の変化
8. 所有冠詞類の練習
パートナー練習
質問と答え
9. 不規則動詞の変化
作文練習
状況設定による練習
10. 男性弱変化名詞と前置詞
叙述の練習
11. 前置詞 人称代名詞の変化
Video、CD による練習
短文暗記
12. 分離動詞の変化
再帰動詞と再帰代名詞
各種短文の作成
13. 助動詞の変化
よく使われる助動詞
自分の考えをドイツ語で表現する。
14. 助動詞の変化
平叙文からの書きかえ
Video、CD
15. 形容詞の語尾変化
形容詞の修飾的機能を多用にした叙述の練習
16. 形容詞の変化、名詞化
やつ長文を読解
17. 動詞の三基本形
規則変化と不規則変化、暗記と作文練習
18. 現在完了形
haben 支配と sein 支配
Video + CD
19. 関係代名詞の変化と練習
2つの文をつなげる。長文を分離する。
文学的表現の小例を読む。
20. 形容詞の比較級と最上級
述語的用法と修飾的用法
Video
21. Zu 不定句と非人称の練習
各種のいいまわしを暗記
CD
22. 受動態
能動文からの書きかえと特殊用法

23. 接続法 式

非現実・外交話法

状況設定によるグループ練習

24. 接続法 式

文章の書きかえ練習

長文の読解

科目名	基礎ドイツ語
担当者	渡部重美

講義の目標

基礎ドイツ語（ドイツ語）で学んだドイツ語の基礎を応用しながら、自分のこと、家族のこと、学生生活などについて簡単なドイツ語で表現できるようになることを目標とします。

講義概要

下記テキストを用いて、適宜ドイツ文法を復習しながら、日常よく使う表現の練習をしてゆきます。参加者の人数にもよりますが、ペアワークが中心になると思います。

テキスト

“ Heidelberg neu ”, Elfriede Akaike/Kimio Akaike/Hiroshi Yagi, 同学社、¥2,600

参考文献

基礎ドイツ語（ドイツ語）で使ったテキスト、辞書

評価方法

小人数の授業になると思うので、学期末の大きなテストはおこなわず、毎回毎回の授業への参加度・貢献度で判断して成績をつけます。

受講者への要望

毎回毎回の積み重ねが大切なので、コンスタントに1年間授業に参加してください。

年間授業計画

第1週：授業の進め方、評価方法などについての説明
 第2週～第24週：上記テキストを使って、第1課から授業をしてゆく。

科目名	基礎フランス語
担当者	若 森 榮 樹

講義の目標

フランス語文法を学び、テキストが読めるようにする。

講義概要

フランス語の文法を1つ1つ項目を追って勉強します。

テキスト

天羽、佐々木他「初級フランス語文法」(朝日出版社)

参考文献

辞書が必要ですから用意して下さい。

評価方法

前後期の試験および平常点(出席点を含む)

受講者への要望

予習・復習をすること。

年間授業計画

1. あいさつのしかた、名前のいいかた、発音、つづり字記号
2. 主語人称代名詞、être の直説法現在、形容詞の性と数
3. <er> 動詞の直説法現在、否定形
4. 不定冠詞定冠詞、C'est / Il eat
5. 形容詞の女性形、形容詞の位置
6. avoir の活用、疑問文のつくり方
7. 所有形容詞、疑問形容詞
8. 部分冠詞、数量を表わす表現
9. 移動をあらわす動詞、時刻の言い方
10. <ir> 動詞の直説法現在、近接過去、近接未来
11. 代名動詞
12. <oir> 動詞、いろいろな動詞の直説法現在
13. 直説法複合過去
14. 直説法半過去、大過去
15. 人称代名詞
16. 中性代名詞、y, en, le
17. 指示代名詞、所有代名詞、いろいろな否定
18. 命令法、受動態
19. 直説法単純未来、前未来
20. 条件法現在、条件法過去
21. 関係代名詞
22. 接続法現在、接続法過去
23. 現在分詞、ジェロンディフ、使役動詞、知覚動詞
24. まとめ

科目名	基礎フランス語
担当者	前川 久美子

講義の目標

フランス語の基礎力を充実させる。

講義概要

仏 で学んだ文法を復習しながら、やさしいフランス語のテキストを読む。

テキスト

未定

評価方法

平常点とテスト。

受講者への要望

辞書と仏 で勉強した教科書を参照して、自宅でしっかり予習してきてほしい。

辞書と仏 で勉強した教科書は、教室にも持参すること。

科目名	基礎スペイン語（総合）
担当者	各担当教員

講義の目標

スペイン語を初めて学ぶ学生を対象として、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。

講義概要

この授業で学ぶ文法項目は、直説法現在、命令の用法、疑問詞、形容詞、名詞、代名詞、数などである。点過去まで進みたい。日常によく使う会話文については、順次練習をおこなう。受講生の積極的口頭練習が求められる。テキストでは第1課から第6課までである。具体的には、開講時に担当者が説明をおこなう。

テキスト

¡Hola, amigos! (芸林書房)

評価方法

出席状況、年2回の定期試験によって評価する。

担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

受講者への要望

スペイン語 総の進行にあわせて口頭練習をおこなうスペイン語 L が用意されているので、同時履習を要望する。

科目名	基礎スペイン語（LL）
担当者	高松 朋子

講義の目標

スペイン語を初めて学ぶ学生を対象として、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。

講義概要

この授業で学ぶ文法項目は、直説法現在、命令の用法、疑問詞、形容詞、名詞、代名詞、数などである。点過去まで進みたい。日常によく使う会話文については、順次練習をおこなう。受講生の積極的口頭練習が求められる。テキストでは第1課から第6課までである。具体的には、開講時に担当者が説明をおこなう。

テキスト

¡Hola, amigos! (芸林書房)

評価方法

出席状況、年2回の定期試験によって評価する。

担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

受講者への要望

スペイン語 総の進行にあわせて口頭練習をおこなうスペイン語 L が用意されているので、同時履習を要望する。

科目名	基礎スペイン語（総合）
担当者	柴田純子

講義の目標

スペイン語 総の続きの授業である。スペイン語 総の既習者を対象として、より進んだ文法の習得と、その文法内容をつかうより進んだ聴取力、理解力、口述能力の習得を目的とする。

講義概要

主な文法項目は、線過去、命令、同士の原型の使い方、現在分詞、過去分詞および接続法である。また形容詞、冠詞、前置詞など既習事項についてより高度な使い方の練習をおこなう。テキストの第 7 課から第 12 課を予定している。具体的には、開講時に担当者が説明をおこなう。

テキスト

¡Hola, amigos!（芸林書房）

評価方法

出席状況、年 2 回の定期試験によって評価する。
担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

受講者への要望

スペイン語 L との組み合わせで受講することを要望する。

科目名	基礎スペイン語（LL）
担当者	落合佐枝

講義の目標

スペイン語 Lの続きの授業である。スペイン語 総の既習者を対象として、スペイン語 総の進度に合わせてより高度なスペイン語会話力（聞き取りと話す能力）を養うことを目的とする。

講義概要

スペイン語 総と同じテキストとそれに準拠したテープ教材を使い、スペイン語 総の進度にあわせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語 総で主におこない、この授業では練習を中心にする。また別のビデオ教材も使って、耳からだけでなく映像を通してテキストを補う場合もある。進度についてはスペイン語 総のシラバスを参照のこと。具体的には、開講時に担当者が説明をおこなう。

テキスト

¡Hola, amigos!（芸林書房）その他。

評価方法

出席状況、授業への積極的参加、および小テストによって評価する。

受講者への要望

スペイン語 総との組み合わせで受講することが望ましい。

科目名	基礎ポルトガル語
担当者	山本 麻美子

講義の目標

ポルトガル語をはじめて学ぶ者や初級者を対象として、正しい発音、聞き取り、会話、文法の基礎固めをする。ポルトガル語でのコミュニケーション及びプレゼンテーションに必要な総合的基礎力の養成を目指す。

講義概要

テキストに沿って基本表現を口頭練習しながらポルトガル語の正しい発音をマスターする。現地会話を馴染むように実際の生活で頻出する口語表現も学習し日常レベルでのコミュニケーション能力を養うと同時に、配布資料で文法事項を丁寧に解説していく。ヒアリング・発音練習にはブラジルやポルトガルのポピュラー音楽（サンバ、ボサノヴァ、ファド等）を利用する他、ビデオ、スライドの映像資料で社会的・文化的背景の理解も深める。本講義は、グローバルな視点からポルトガル語文化圏の全体像を正しくイメージするための機会としたい。

テキスト

- ・ Helena H. Toida / Mauro Neves Jr. / 大野隆雄
「こうすれば話せるCD ブラジルポルトガル語」朝日出版社
- ・ 配布資料

参考文献

- ・ 池上岑夫 他「現代ポルトガル語辞典」白水社
- ・ その他、講義中に紹介する。

評価方法

出席状況と試験により評価する。

受講者への要望

学生の積極的授業参加を望む。

年間授業計画

1. ポルトガル語総論
2. アルファベット、綴り字記号、母音（口母音、鼻母音、二重口母音、二重鼻母音）、子音、アクセント
3. 文型と特徴：品詞（変化語と不変化語）、文の構成と種類、基本文型
- 4.〔第1課〕主格人称代名詞、動詞 SER、疑問文と否定文
5. 冠詞・名詞・形容詞の性数一致
- 6.〔第2課〕時の副詞
- 7.〔第3課〕現在形と現在進行形、動詞 ESTAR の

基本的用法、疑問詞

8. 指示詞
9. 動詞総説、規則動詞の活用（直説法・現在形）
- 10.〔第4課〕《IRの直・現在形 + Infinitivo》の未来表現、直説法・完了過去形
11. 直説法・未完了過去形
- 12.〔第5課〕前置詞、直説法・過去未来形（丁寧な依頼）
- 13.〔第6課〕所有詞、数詞
- 14.〔第7課〕前置詞句、時間の表現
- 15.〔第8課〕比較級
- 16.〔第9課〕不定数量表現、大過去複合形（完了表現）
- 17.〔第10課〕時の副詞句
- 18.〔第11課〕主要不規則動詞の活用（直説法・現在形）
- 19.〔第12課〕縮小辞、受身文
- 20.〔第13課〕命令文
- 21.〔第14課〕接続詞、menteの副詞
- 22.〔第15課〕関係詞
23. 重要表現、既習文法事項の確認
24. まとめ

科目名	基礎ポルトガル語
担当者	山本麻美子

講義の目標

「基礎ポルトガル語 I」より一歩進んだ会話表現、読解、作文力を習得し、ポルトガル語でのコミュニケーション及びプレゼンテーション能力を向上させる。文法の理解をさらに深め、ポルトガル語の基礎を構造的に完成させ、実際に活用できるようにする。

講義概要

原則として「基礎ポルトガル語」の続きと位置付け、初級後半から中級レベルを想定して授業を行うが、受講者の習熟度に応じて内容を調節する予定である。「基礎ポルトガル語」と合わせてひと通りポルトガル語の基礎文法を習得し終えることを目指すが、重要な表現や文法事項は既習のものでも繰り返し解説する。会話、文法、読解、作文の力がバランスよく身に付くように、実践形式で取り組む。また、映像資料を使ってブラジルやポルトガル等の文化、歴史、社会にも触れ、「ルソフォニア」と称されるポルトガル語文化圏について様々な角度から理解を試みたい。

テキスト

- ・プリント配布

参考文献

- ・池上岑夫 他「現代ポルトガル語辞典」白水社
- ・その他、講義中に紹介する。

評価方法

出席状況と試験により評価する。

受講者への要望

学生の積極的授業参加を望む

年間授業計画

1. ポルトガル語総論、「基礎ポルトガル語 I」復習
2. 重要表現の確認、重要動詞の基本的用法
3. 目的格人称代名詞
4. 否定語とポルトガル語の否定文
5. 直説法・現在未来形
6. 接続法・未来形
7. 直説法・過去未来形（条件法）
8. 仮定文
9. 代名動詞、非人称的用法の SE
10. 直説法・完了過去複合形
11. 強調構文
12. 直説法・現在未来複合形
13. 人称不定詞

14. 動詞総説
15. 接続法総論
16. 接続法の用法 名詞節において
17. "
18. 接続法の用法 形容詞節において
19. "
20. 接続法の用法 副詞節において
21. "
22. 仮定文
23. まとめ
24. まとめ

科目名	基礎ロシア語
担当者	佐藤 千登勢

体、動詞の人称変化、未来の時制について学んでゆきます。テキストでは、第 6 課から第 10 課までが範囲となります。

講義の目標

ロシア語は、その文字の奇異な印象と変化の多さのためか、習得が難しいと思われがちですが、文法体系は実にシステムティックな言語です。この講義では、その文法事項を簡潔なかたちで習得してゆき、まずはロシア語文法の全体像をつかむこと、そしてロシア語そのものに慣れることを目標とします。ロシア語の音の響きの美しさ　ロシア人たちはそれを次のように誇っています。「ドイツ語は男と話すによく、フランス語は女と話すによい、スペイン語は神と話すにふさわしい、ところがロシア語はそのすべてに適している」と。このようなロシア語の美しさ、豊かさに触れてもらうことが、当講義の最終的な目標となります。

講義概要

ロシア語の初学者を対象としていますので、アルファベットの文字と発音に慣れるところから始め、名詞の格変化、動詞の人称変化、過去の時制、未来の時制をゆっくりと（復習を重ねながら）確実にこなしてゆき、基本的な構文の読解と作文ができるようにします。ロシアの文化や生活習慣についても、適宜、紹介してゆきます。

テキスト

諫早勇一 他著「セメスターのロシア語」(白水社)

参考文献

博友社「ロシア語辞典」

評価方法

前期、後期に 1 回ずつ行う定期試験、および出席率を含めた平常点により決定しますが、判断の上でもっともウェートを占めるのは出席率です。

受講者への要望

とにかく授業に毎回、出席することを心掛けて下さい。継続することが重要です。

年間授業計画

前期：アルファベット（キリル文字）の発音、綴り、簡単な文章のイントネーションの習得。併せて、筆記体の練習も行います。文法事項としては、名詞の性について、過去の時制、名詞の格の概要、所有代名詞を学んでゆきます。テキストでは最初から第 5 課までが範囲となります。

後期：疑問詞を用いた疑問文、所有の表現、動詞の

科目名	基礎ロシア語
担当者	斉藤 毅

講義の目標

必要最低限のロシア語の文法・語彙を一通り身につけ、簡単なロシア語を自分で使える（話す・読む）ようになることを目指します。

講義概要

昨年度の「ロシア語」の続編の授業ですが、ロシア語の最初歩の経験がある人ならば誰でも受講できます。昨年度に使用した教科書を軸にして、ロシア語の文法や表現を学んでゆきますが、受講者の皆さんの興味なども聞きながら、会話や簡単な文章などのサブテキストも並行して使い、なるべく多彩なロシア語に触れることができるようにしてゆきます。

テキスト

桑野隆『はじめてのロシア語』（白水社）、およびプリント（授業時に配布）

参考文献

辞書や参考書などについては、授業にてそのつど説明してゆく。

評価方法

出席、授業参加などの平常点。 期末試験。

受講者への要望

外国語というのは、それに触れたり、接したりすること自体に意義があるので、とにかく継続して出席してください。

年間授業計画

1. 文法・語彙：教科書にそって学んでゆきます。文法では、名詞の6つの「格」の用法が中心になります。格の用法を一通り見ることによって、ロシア語で表現できることが一気に広がることでしょう。
2. 発声：毎回の授業で発声（イントネーションその他）の練習を重視します。
3. 教科書以外のサブテキストをもちいて、できるかぎり多くのロシア語に触れることを目指します。

科目名	基礎中国語
担当者	横川澄枝

なペースで随時理解度を確認しつつ進みます。課が進むにつれて、とくに後期は次第にペースをあげ、また、理解度に応じてテキストの他にプリント教材を使用することもあります。

講義の目標

初めて中国語を学ぶ学生を対象とします。中国語の文法についての基礎的な知識を得ること、中国語の文型や会話パターンを知り、語彙についての知識を積み重ねることによって、簡単な日常会話ができるようになることをめざします。それとともに、我が国にとってはもっとも古くからの隣国である中国を知る - 表現形式から見た日本語との違いや、現代中国についての知識などを得る - ことも目的とします。

講義概要

最初は発音の基礎から入ります。このテキストは、課ごとに、スキット・文法説明・練習問題・発音練習という構成がとられ、2課ごとに「Review」として復習が入っています。各課において、会話の内容を理解し、文法の要点を理解し、練習することによってそれを定着させ、さらに応用できることをめざします。そのためには講義をただ聞いている・テキストを目で見ているだけではなく、発声練習をする・会話練習をするといった双方向的な活動を重視します。これらの活動を通じて、文法知識・語彙力をも高めていき、実際に使える知識とします。

テキスト

『学ビテ時二之ヲ習フ』相原茂・郭雲輝・保坂律子 共著 好文出版

参考文献

辞書 『中日辞典』小学館など（最初の時間に辞書類の紹介もします）

評価方法

2回の定期考査の成績、および、出席率をも含めた授業への取り組み方などにもとづき、小テストの結果なども加味して総合的に評価します。

受講者への要望

中国語は高校で学んだ漢文と同じではありません。外国語の学習には、とくに自分で発音練習をすることは欠かせません。また、語学は積み重ねが重要です。予習や出された課題は当然してきているものとして授業にのぞみます。辞書は必携です。

年間授業計画

テキストは発音編4課、および本編12課からなっています。一時間に1課のめやすで進めていきますが、前期は発音編から始め、はじめのうちはややゆるやか

科目名	基礎中国語
担当者	頼 明

講義の目標

中国語を学ぶ上で、発音の習得は非常に重要です。正しく発音できることは、自信につながり、中国語そのものも楽しくなります。この授業では、発音の繰り返し練習に重点を置き、文法は必要最小限に押さえ、話せる中国語を目指します。

講義概要

教科書に沿って進みます。前期は発音や中国語の音声表記であるピンインの習得が最大の課題です。後期は実際の会話文の発声練習を中心に進み、基本例文の暗記とその応用が中心となります。テキストの本文の暗記・暗唱が必要最低条件です。

テキスト

『学ビテ時二之ヲ習ウ』相原 茂 他 著 好文出版

参考文献

『はじめての中国語』相原 茂 著 講談社現代新書 650 円

評価方法

出席を重視し、授業態度、学期末試験と総合して評価します。

受講者への要望

授業は休まず出席してください。

教科書の本文が暗記・暗唱できるよう、教材に付属の CD を毎日聞いてください。

年間授業計画

教科書に沿って進みます。(詳しくは授業中に指示します。)

科目名	基礎中国語
担当者	秦 敏

講義の目標

中国語 を履修した学生あるいは同等の語学力を持つ学生を対象とします。中国語 で学んだ中国語の基本的な構文を会話通して習得し、さらにそれを発展させることを目標とします。

講義概要

教科書に沿って進みます。講義は理解し得る範囲内で中国語で行う。また中国の文化、習慣、ものの考え方などを紹介したいと思います。

テキスト

荒川清秀「美香 in China」同学社出版社

参考文献

必要に応じて授業中に指示します。

評価方法

出席、受講態度および学期末試験と総合して評価します。

受講者への要望

復習と予習することを望みます。

年間授業計画

授業中に説明します。

科目名	基礎朝鮮語
担当者	朴 勇 俊

講義の目標

日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化等の諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流が進展していくことが期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から徹底した会話力の養成を基盤に多様な場面における表現活動を通じて何よりも生きた人々と自由にコミュニケーションできる能力の定着をめざしていく。また韓国の文化の諸相への関心と探究意欲を育てていくことにも留意していく。

講義概要

朝鮮語をはじめて学ぶ人を対象とし、韓国固有の民族・歴史・生活・芸能・衣食住を題材に実用会話を入門指導する。その際、韓国の典型的文化や生活などを紹介しながら、直結する会話や学習内容を精選・組織する。また言語だけでなく絵・写真・スライド等を提示し、学習の場面の雰囲気や情緒を感得できるようにする。特に韓国の民話等、ストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での単純な文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら学習する。

テキスト

「韓国語学習 - 基礎から完成まで -」(プリント)

参考文献

後日指示

評価方法

評価は原則として定期試験と授業へのとりくみ、出席状況等を総合的に判定する。

受講者への要望

外国語の学習は学習者が持続的な学習や訓練に対応する積極的な興味や関心、内面から湧き出る主体的、継続的努力などを一貫して維持できるかどうかによって成果が左右される。意欲を持って主体的に取り組む姿勢を身につけてほしい。

年間授業計画

1. 朝鮮語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得
2. 朝鮮語の文字・文章の理解と解読
3. 朝鮮語の文字・文章の理解と解読
4. 朝鮮語の文字・文章の理解と解読
5. 朝鮮語の文字・文章の理解と解読

6. <基礎会話> 次のような場面を想定し、学習する。

「あいさつ、家族」

7. " 「食堂、図書館」

8. " 「教室、事務室」

9. " 「バス、タクシー」

10. " 「市場」

11. " 「駅」

12. 前期定期試験

13. 次のような生活場面を設定し、柔軟に対応できるような会話力の定着をめざす。「スーパーマーケット」

14. " 「薬局」

15. " 「病院」

16. " 「洋服店」

17. " 「故郷・職業」

18. " 「郵便局」

19. " 「理髪店」

20. " 「役所」

21. " 「映画館」

22. " 「喫茶店」

23. " 「スポーツ」

24. 後期定期試験

科目名	基礎朝鮮語
担当者	李 貞 美

講義の目標

外国語の学習は学習者が生まれ育った生活や文化とは別体系の典型的な異文化との接触である。そして外国語は異なる意志疎通の用具や手段であるばかりでなく、異文化の典型的集積体でもある。したがってその背景になっている文化の諸相の理解をも含めた語学の学習を通じて、当該外国に、より親しみを感じ、友好関係を切り開いて行くことができるコミュニケーション能力を身につけていくことが必要である。この授業では日本からいちばん近い隣国である韓国の言語を習得するとともにその背景にある文化についての理解をも深めていく。

講義概要

朝鮮語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型等を身につけさせる。また、外国語は異文化の典型的集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探究意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報等を題材に選び、多様で実用的なコリア語表現力を定着させていく。

テキスト

「韓国語学習 - 基礎から完成まで - 」(プリント)

参考文献

後日指定

評価方法

評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

受講者への要望

実用的な会話力を定着させるために様々な状況を想定して練習を繰り返す。意欲的に取り組んでほしい。

年間授業計画

1. 本講義に対する紹介、概要説明、注意点について
2. 次のような内容を題材にクラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話文を暗唱できるようにしていく。「入国審査」
3. " 「税関」
4. " 「両替」
5. " 「予約便の確認」

6. " 「国際電話」
7. " 「伝言」
8. " 「地下鉄利用」
9. " 「忘れ物」
10. " 「ホテル」
11. " 「パーティ」
12. 前期定期試験
13. 次のような内容の題材をとりあげ幅広い会話力の定着をめざす。「名刺交換」
14. " 「出身地」
15. " 「伝統的行事」
16. " 「余暇」
17. " 「外国人登録」
18. " 「ビザの延長」
19. " 「健康管理」
20. " 「演劇」
21. " 「病状」
22. " 「韓国料理」
23. " 「趣味」
24. 後期定期試験

科目名	基礎タイ語
担当者	江 藤 双 恵

講義の目標

タイ語の基礎を 1、文字の表記と発音 2、会話の 2 点を中心に学習し、サバイバル可能なレベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。サバイバル可能なレベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意思疎通ができるという意味であり、文字が判読でき、正しく発音できることが大前提となる。また、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢が求められる。そこで本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、タイ語を通じて、その背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。

講義概要

前半はタイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行ない、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。後半は、挨拶、数、年月日と時間など日常会話に最低限必要な表現を学ぶ。さまざまな状況に応じた会話表現例を学びながら、その背景にあるタイ人の行動様式や考え方などについても理解する。また、ディクテーションによって正確な発音と表記の仕方を身につけ、作文練習によって表現能力をつける。さらに、随時、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。

テキスト

「やさしいタイ語 文字の読み書き」(宇戸清治著 大学書林発行)

プリント

参考文献

講義中に紹介する。

評価方法

学期末に試験を行い、その点数と受講態度を加味して評価する。

受講者への要望

やる気のある学生の受講を希望します。

年間授業計画

1. 導入：現代タイの政治経済状況と、そこに反映される伝統的な価値観などについての概論、今タイ語を学ぶ意義は？
2. タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての

概説、ローマ字表記の方法、数字の発音

3. 文字の読み書き 1 (中子音, 高子音)
4. 文字の読み書き 2 (低子音と長母音)
5. 文字の読み書き 3 (真正二重子音, 平音節, 促音節, さまざまな末子音の読み方)
6. 文字の読み書き 4 (声調符号, 短母音)
7. 文字の読み書き 5 (低子音の高子音化と中子音化, 疑似二重子音)
8. 文字の読み書き 6 (一字再読字)
9. 文字の読み書き 7 (タイ数字, 年月日に関する表記, 例外), 辞書の使い方
10. タイ文化入門 (映画などビジュアル教材を用いる予定)
11. 会話 1 (挨拶, 所在に関する表現), タイ語を聞いて書く
12. 会話 2 (ものの性質などに関する表現), タイ語を聞いて書く
13. 会話 3 (家族に関する表現), タイ語を聞いて書く
14. 会話 4 (所有, 存在に関する表現), タイ語を聞いて書く
15. 会話 5 (職業, 国名に関する表現), タイ語を聞いて書く
16. 会話 6 (可能, 不可能に関する表現), タイ語を聞いて書く
17. 会話 7 (名前, 所在, 手段などに関する表現), タイ語を聞いて書く
18. 会話 8 (動詞を用いた表現), タイ語を聞いて書く
19. 会話 9 (類別詞の用法 1), タイ語を聞いて書く
20. 会話 10 (類別詞の用法 2), タイ語を聞いて書く
21. 会話 11 (日時に関する表現), タイ語を聞いて書く
22. 会話 12 (比較を含む表現), タイ語を聞いて書く
23. 会話 13 (自己紹介など), タイ語を聞いて書く
24. タイ文化入門 (タイ映画などビジュアル教材の鑑賞)

科目名	基礎タイ語
担当者	江 藤 双 恵

講義の目標

タイ語の基礎を1、会話 2、文法 3、作文の3点を中心に学習しながら、サバイバル可能なレベルのタイ語を習得する。サバイバル可能なレベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意思疎通ができるという意味であり、そのためには、まず、正しい発音を身につけ、聞き取り、読み書きができることはいうまでもない。それ以外に、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢も不可欠である。そこで本講義では、単に道具としての言葉の習熟にとどまらず、タイ事情に関する簡単な読み物やビジュアル教材などを通じて、その背景にある文化的・社会的特徴や経済状況などを理解することをめざす。

講義概要

さまざまな状況に応じた表現例を学びながら、その背景にあるタイ人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。さらに、現代タイ事情に関する簡単な読み物を通じて生きたタイ語に触れるとともに、背景説明などを加えて理解を深める。なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。

テキスト

プリント

参考文献

講義中に紹介する。

評価方法

学期末に試験を行い、その点数と受講態度を加味して評価する。

受講者への要望

やる気のある学生の受講を希望します。

タイ語の読み書きの基礎ができている人の受講が望ましいが、読み書きはできないけれど会話はある程度できるという人も受講可能である。

年間授業計画

1. 導入：今タイ語を学ぶ意義。タイ文化、社会に関するトピックス。
2. 会話1（比較、最上級に関する表現）、タイ語を

聞いて書く

3. 会話2（食べ物に関する表現）、タイ語を聞いて書く
4. 会話3（疑問詞の使い方）、タイ語を聞いて書く
5. 会話4（可能表現のいろいろ）、タイ語を聞いて書く
6. 会話5（完了に関する表現）、タイ語を聞いて書く
7. 会話6（推量に関する表現）、タイ語を聞いて書く
8. 会話7（お金の計算）、タイ語を聞いて書く
9. 会話8（電話をかける）、タイ語を聞いて書く
10. 会話9（旅行する）、タイ語を聞いて書く
11. 会話10（受身の表現）、タイ語を聞いて書く
12. 会話11（病気のとき）、タイ語を聞いて書く
13. 会話12（買い物をする）、タイ語を聞いて書く
14. 会話13（素材に関する表現）、タイ語を聞いて書く
15. 文法1（疑問文・否定文、疑問文への答え方）、作文
16. 文法2（存在・所有動詞の用法、繁辞の用法）、作文
17. 文法3（一般動詞の用法）、作文
18. 文法4（類別詞の用法、比較）、作文
19. 文法5（助動詞）、作文
20. 購読1（現代タイ事情）
21. 購読2（現代タイ事情）
22. 購読3（現代タイ事情）
23. 購読4（現代タイ事情）
24. ビジュアル教材の鑑賞

科目名	基礎アラビア語
担当者	本 田 孝 一

講義の目標

アラビア語は1ヶ国の言語ではありません。アラビア語は中東 21ヶ国の国語であり、国連の公用語の1つです。しかし日本においてはいまだあの「虫の這った跡のような」文字とだけで片づけられています。本講義ではそのような偏重を打破し、世界のメジャーな言葉としてのアラビア語の重要性を認識し、アラビア語の世界に親しんでもらうことを目的とします。

講義概要

本講義は会話と文法を交互に学んでいきます。その他アラブ世界に広く親しんでもらうように文化的側面もビデオなどで紹介していこうと考えています。

テキスト

「アラビア語の入門」(改訂版)(本田孝一著、白水社)

参考文献

「アラビア文字を書いてみよう読んでみよう」(本田孝一他著、白水社)

「パスポート初級アラビア語辞典」(本田孝一他著、白水社)

評価方法

学年末に簡単な会話をやってもらいます。

年間授業計画

1. Introduction
- 2.(会話) アラブ人と友達になろう 1
- 3.(会話) アラブ人と友達になろう 2
- 4.(文法) アラビア文字に挑戦! 1
- 5.(文法) アラビア文字に挑戦! 2
- 6.(会話) アラブ人と友達になろう 3
- 7.(会話) アラブ人と友達になろう 4
- 8.(文法) アラビア文字をつなげてみよう 1
- 9.(文法) アラビア文字をつなげてみよう 2
- 10.(会話) 友達を紹介しよう 1
- 11.(会話) 友達を紹介しよう 2
- 12.(文法) アラビア文字はどう読むのだろう 1
- 13.(文法) アラビア文字はどう読むのだろう 2
- 14.(文法) 自分の名前をアラビア語で書いてみよう
- 15.(会話) 「これは何ですか」の表現 1
- 16.(会話) 「これは何ですか」の表現 2
- 17.(文法) 「私は日本人です」 1 人称代名詞(主格)

- 18.(文法) 「私は日本人です」 2 人称代名詞(属格)
- 19.(会話) 「空港でアラビア語を使ってみよう」 1
- 20.(会話) 「空港でアラビア語を使ってみよう」 2
- 21.(文法) アラブ諸国の名前を読んでみよう 1
- 22.(文法) アラブ諸国の名前を読んでみよう 2
23. 期末の会話テストの準備
24. 会話テスト

科目名	基礎アラビア語
担当者	本 田 孝 一

講義の目標

前年度基礎アラビア語を受講した人を原則的に対象とし前年度のつづきを勉強します。目的としては、受講生の一人一人がアラブ世界に関心を抱き、各自で興味の対象を見つけ、将来的にそれを伸ばしていけるようにすること。

講義概要

授業は必ずしも、テキスト通りに進行させるということではありません。受講生の希望に従ってパラエティーに豊んだ授業にしたいと考えています。

講師の専門の「アラビア書道」の実習も導入したいと考えています。

テキスト

「アラビア語の入門」(改訂版)(本田孝一著、白水社)

参考文献

「ステップアップアラビア語」(本田孝一著、白水社)

「パスポート初級アラビア語辞典」(本田孝一他著、白水社)

評価方法

学年末に簡単な会話をやってもらいます。

年間授業計画

1. 復習
2. 復習
- 3.(会話) ご出身はどちらですか 1
- 4.(会話) ご出身はどちらですか 1
- 5.(文法)「待つ」の表現 1
- 6.(文法)「待つ」の表現 2
- 7.(会話) アラビア語で買い物をしてみよう 1
- 8.(会話) アラビア語で買い物をしてみよう 2
- 9.(文法) of の表現
- 10.(文法) 双数、複数
- 11.(会話) いろいろな数量の表わし方 1
- 12.(会話) いろいろな数量の表わし方 2
- 13.(文法) 動詞(完了形)の使い方 1
- 14.(文法) 動詞(完了形)の使い方 2
- 15.(会話)「きのうあなたは何をしましたか」の表現 1
- 16.(会話)「きのうあなたは何をしましたか」の表現 2
- 17.(文法) 動詞(未完了形)の表現 1

- 18.(文法) 動詞(未完了形)の表現 2
- 19.(会話) カイロの街角での会話 1
- 20.(会話) カイロの街角での会話 2
- 21.(文法) 命令形の作り方 1
- 22.(文法) 命令形の作り方 2
23. 期末の会話テストの準備
24. 会話テスト

科目名	現代ヘブライ語
担当者	高橋正男

講義の目標

ヘブライ語は、印欧語とは異なり、セム語の一つ、アラビア語と同系の言語である。我が国では旧約聖書の言語として広く知られている。ヘブライ語は、イスラエル - ユダヤ民族の消長とともに幾多の変遷をへて、今からおよそ 100 年前、ロシア出身のエリエゼル・ベン - イフェダの努力により、パレスティナに入植したユダヤ人帰還民の間に復活・浸透し、1948 年イスラエル国独立とともに同国の公用語となり、イスラエルをはじめ世界各地に在住する 1500 万ユダヤ人の中で広く用いられている。本講は生きた日常現代ヘブライ語の基礎（日常会話と文法の把握と応用）の習得を目標とする。併せて現代のユダヤ - イスラエル文化を紹介する。

講義概要

我が国では明治以来の西欧語偏重のなかでセム語は日本人には難解といわれてきた。これは言語が元来話されるものであるという基本事実を無視して教育が行なわれてきたからである。イスラエルでヘブライ語を習得した体験から、ヘブライ語はアラビア語同様日本人には学習困難な言語ではない。現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語との隔たりは、現代日本語と明治日本語のそれとは異なり、予想以上に小さい。初年度は日常会話と文法を交互に学習する。

テキスト

- ・神藤耀他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、1998 年。
- ・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、1998 年。

参考文献

- ・『ヘブライ語入門発音テープ』（45 分テープ 2 本組）ミルトス（5 棟 3 階 外国語教育研究所で利用可能）

評価方法

平常点と学年末の簡単な口述会話テストによる。

受講者への要望

毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。

年間授業計画

1. セム語概説
2. ヘブライ文字の書体（活字体・筆記体）
3. ヘブライ文字の書き方(1)

4. ヘブライ文字の書き方(2)
5. 発音
6. 発音の手引(1)
7. 発音の手引(2)
8. 名詞と代名詞(1)
9. 名詞と代名詞(2)
10. 形容詞
11. 前置詞
12. 動詞の現在形(1)
13. 動詞の現在形(2)
14. 語根と動詞
15. ラメッド - ヘー型のパアル態
16. 不定詞(1)
17. ビエル態の現在形
18. ヒトパアル態の現在形
19. ニファル態の現在形
20. ヒフフィル態の現在形
21. 不規則名詞複数形
22. 数詞(1)
23. 数詞(2)
24. 名詞の人称接尾辞と連結詞

科目名	現代ヘブライ語
担当者	高橋正男

講義の目標

ヘブライ語は、印欧語とは異なり、セム語の一つ、アラビア語と同系の言語である。我が国では旧約聖書の言語として広く知られている。ヘブライ語は、イスラエル ユダヤ民族の消長とともに幾多の変遷をへて、今からおよそ 100 年前、ロシア出身のエリエゼル＝ベン イフェダの努力により、パレスティナに入植したユダヤ人帰還民の間に復活・浸透し、1948 年イスラエル国独立とともに同国の公用語となり、イスラエルをはじめ世界各地に在住する 1500 万ユダヤ人の中で広く用いられている。本講は生きた日常現代ヘブライ語の基礎（日常会話と文法の把握と応用）の習得を目標とする。併せて現代のユダヤ - イスラエル文化を紹介する。

講義概要

我が国では明治以来の西欧語偏重のなかでセム語は日本人には難解といわれてきた。これは言語が元来話されるものであるという基本事実を無視して教育が行われてきたからである。イスラエルでヘブライ語を習得した体験から、ヘブライ語はアラビア語同様日本人には学習困難な言語ではない。現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語との隔たりは、現代日本語と明治日本語のそれとは異なり、予想以上に小さい。前年度に引き続き日常会話と文法を交互に学習し、現地のヘブライ語新聞の講読を目標とする。併せて創世記を読む。

テキスト

- ・神藤耀他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、1998 年。
- ・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、1998 年。

参考文献

- ・『ヘブライ語入門発音テープ』（45 分テープ 2 本組）ミルトス（5 棟 3 階 外国語教育研究所で利用可能）

評価方法

- ・平常点と学年末の口述会話テストによる。

受講者への要望

- ・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。
- ・前期末・後期末に補講を行なう。

年間授業計画

1. 復習
2. 復習
3. ニフアル態の現在形
4. ヒフィル態の現在形
5. 不規則な名詞複数形
6. 数詞（1）
7. 数詞（2）
8. 名詞の人称接尾辞
9. 連結語 / ヘブライ語新聞講読（1）
10. バアル態の過去形
11. ラメッド - ヘー型バアル態の過去形
12. ビエル態の過去形
13. ヒトバエル態の過去形
14. ニフアル態の過去形
15. プアル態とフフアル態
16. 比較の表現
17. 不定詞（2） / ヘブライ語新聞講読（2）
18. 動詞の未来形
19. バアル態の未来形
20. ヒフィル態の未来形
21. ニフアル態の未来形
22. 不規則な未来形
23. 条件文
24. ヘブライ語新聞講読（3）

科目名	古典ギリシア語
担当者	古川 堅治

講義の目標

一年間の授業を通して、古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを主目的とする。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、1つ1つステップアップしていく手法をとる。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの文化や歴史、さらには、現代ギリシアの文化や社会にも触れることにしたい。

講義概要

毎回、単元を1～2つずつ学習するペースで進む。授業は、アト・ホームな雰囲気、気軽に行ないたい。ビデオなどを交えて、視覚にうったえながら理解を深めることもする。出席は必ず毎回するように心掛けること。また、予習と復習をきちんと行なうことを前提として進めていくので、連続して欠席しているとついてこられなくなるので注意して欲しい。

テキスト

田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門改訂版』(岩波全書、1648円)。第1回目の授業までに必ず購入しておくこと。

参考文献

とくに使用せず

評価方法

出席者による練習問題の解答を繰り返し行なうので、特別にテストや試験は行わない(平常点による評価)

受講者への要望

誰でも一年間、真面目に学ばなければ、古典ギリシア語はマスターできる。未知で貴重な古典語を気軽に学んで欲しい。ビデオやCDなどでギリシア文化にも触れるので興味のある人の来講を拒まない。

年間授業計画

1. . 字母・発音・音韻などの分類 (独特のギリシア語字体に魅せられる。)
2. . 音節・アクセント・句読点 (古典ギリシア語の単語がもう読めるようになる。)
. 動詞変化・現在直説法能動相 (単文章が理解でき、含蓄に富むギリシア人の知恵が共有できるようになる。)
3. . 名詞の第一変化(1)(2)(名詞の規則的な格変化が段階を追って理解できるようになる)
4. . 名詞の第一変化(3)(4)と動詞の未来直接

法能動相(同上)

5. . 未完了過去直接法能動相(動詞の3つの時称を学ぶことで複雑な文章も理解できるようになる。)
6. . 名詞の第二変化(ギリシア語のスペルがすらすら書くことができるようになる。)
7. . 形容詞の変化(第一、第二変化)(ギリシア語の語順が定まっていない理由がわかるようになる。)
8. . 前置詞(ヨーロッパの近代語の前置詞の使用法と対比してその類似性がわかるようになる。)
9. . アオリスト直接法能動相(新たな動詞の時称を学ぶことで、より一層複雑な文章が理解できるようになる。)
10. . 現在完了、過去完了直接法能動相(同上)
11. . 指示代名詞と強意代名詞(各代名詞の本来の使い方と独特の使い方が一層明確になる。)
12. . 直接法能動相本時称と副時称の人称語尾(新約聖書が簡単に理解できるようになる。)
13. . [μ], μの現在直接法(ギリシア語の動詞の格変化の基本形が理解できるようになる。)
14. . 疑問代名詞と不定代名詞(アクセントの有無で意味が変わるという便宜性が理解できるようになる。)
15. . 直接法中動相の現在・未完了過去・未来(中動相の独特の使い方を知り、微妙な表現方法が理解できるようになる。)
16. . 直接法中動相のアオリスト・現在完了、過去完了・未来完了(同上)
17. . 人称代名詞(さまざまな代名詞を学ぶことで、文章上のつながりを理解できるようになる。)
18. . 再帰代名詞・相互代名詞・所有代名詞(同上)
19. . 第二アオリスト直接法能動相と中動相(動詞の人称変化の不規則変化からもとの形をきちんと探り当てることができるようになる。)
20. . 直接法受動相(動詞の3つの相を学ぶことで更に一層の複雑な文章が理解できるようになる。)
21. . 第三変化の名詞(1)(名詞の不規則な格変化の規則性が理解できるようになる。)
22. . 第三変化の名詞(2)(同上)
23. . 能相欠如動詞と約音動詞(1)(ほとんどの文章が辞書を片手に理解できるようになる。)
24. . 約音動詞(2)(簡単なギリシア語の古典

作品を読んでもたくなる。)

まとめ

()内は到達度チェックの際のポイントを示している。

科目名	ラテン語
担当者	松 田 治

講義の目標

古典ラテン語は難しそうに見えますが、語尾変化などの約束ごとを理解すればわりあい簡単です。多くの例文を読むことで約束ごとは身につきます。そうすると逆に自分でラテン語の文章を書くこともできるようになります。古代ローマ人のようにラテン語を読み、基本的な文の構造を把握し、その過程で彼らの文化の一端に触れる、このあたりを目標にしましょう。

講義概要

名詞の変化、動詞の活用を中心に勉強し、語の機能表示の方法や文の構造を把握するような形で授業を進めます。とりわけ動詞の活用は大事で、直説法や接続法などのモードによる変化、過去・現在・未来といった時制による変化、能動・受動のヴォイスによる変化など、ラテン語形態論の基本をしっかり押さえないけません。折にふれて近代語の語源考察も行います。ラテン語 にそなえてゆっくり基本を勉強しましょう。

テキスト

樋口勝彦・藤井昇『詳解ラテン文法』(研究社)

参考文献

必要に応じて授業中に指示します。

評価方法

どれだけ積極的に授業に参加したかを重視します。試験の成績だけでなく、総合的に判断します。

受講者への要望

精神的かつ時間的にユトリのある諸君、つまり予習できる人を歓迎します。予習できないことが予め分かっている人はご遠慮ください。

年間授業計画

1. 授業概説
2. ラテン語の読み方
3. sum 動詞の現在
4. 規則動詞(1)
5. 規則動詞(2) possum の活用
6. 名詞変化(1)
7. 名詞変化(2)
8. 形容詞(1)
9. 形容詞(2)
10. 規則動詞(3)(4)
11. 人称代名詞、再帰代名詞

12. 前置詞
13. 未完了過去
14. 不規則動詞
15. 名詞変化(3)
16. 形容詞(3)
17. 指示代名詞・形容詞
18. 動詞の未来、現在分詞
19. 疑問文、疑問詞
20. 関係代名詞
21. 命令法
22. 完了(1)
23. 完了(2)
24. 受動態、形式受動態

科目名	ラテン語
担当者	松 田 治

講義の目標

ラテン語文の意味は、動詞の活用と名詞語尾の母音の長短によって決定されるといっても過言ではない。この基本を再認識して、まとまりのある文を読み、最後に古典に手を染めるあたりを目標にしたい。

講義概要

ラテン語 で培った基礎知識をさらに高度なものにし、読む楽しさ、読解（解読？）のスリルを身をもって体験しよう。平易な中級用のリーダーをゆっくり読み進め、文法の復習をする。そのあと、古典作品に取りかかる。散文はキケロー、カエサル、叙情詩ではホラーティウス、叙事詩ではウエルギリウスなど。

テキスト

- 1) 田中秀央『初等ラテン語讀本』（研究社）
- 2) プリント配布

参考文献

必要に応じて授業中に指示する。

評価方法

どれだけ積極的に授業に参加したかを重視する。
試験の成績だけでなく、総合的に判断する。

受講者への要望

精神的かつ時間的にユトリのある諸君、つまり予習できる人を歓迎します。予習できないことが予め分かっている人はご遠慮ください。

年間授業計画

1. 授業概説
2. 名詞変化の復習
3. 動詞活用の復習（1）
4. 動詞活用の復習（2）
5. 中級リーダー（1）
6. 中級リーダー（2）
7. 中級リーダー（3）
8. 中級リーダー（4）
9. 中級リーダー（5）
10. 中級リーダー（6）
11. 中級リーダー（7）
12. 中級リーダー（8）
13. 中級リーダー（9）
14. 中級リーダー（10）
15. 中級リーダー（11）
16. 中級リーダー（12）

17. キケロー（1）
18. キケロー（2）
19. カエサル（1）
20. カエサル（2）
21. ホラーティウス（1）
22. ホラーティウス（2）
23. ウエルギリウス（1）
24. ウエルギリウス（2）

科目名	総合講座 A
担当者	青 柳 多恵子

講義の目標

「二十一世紀に於ける国、地域、生物（人間、動物）環境、を考える」広範囲なタイトルの元で、様々な分野の教授、研究者、実務家に登壇いただき、それぞれの分野の領域から現在の課題や、将来に向けての展望・動向を講義していただく。特に男女共同参画社会の実現の問題、少子・高齢化社会の到来に対する課題、世界の平和と人間教育の問題といった情報や知識をより詳しく知ること・考えることができる。このことは学生諸君の卒業後の社会活動に必要な不可欠な知識としてとしてのみでなく、「考える人間」育成講座としたい。

講義概要

毎週、講師が変わるオムニバス方式。統一テーマとして前期は「世界の二十一世紀の社会状況の予測と課題」に関して、それにまつわる問題点や問題解決について、研究者、専門家、実務家の研究成果と最新情報を企画。後期「男女共同参画社会の実現の問題点」に関して、国や地域における人間の生活、文化、教育、宗教等の歴史的経過と現状、および、家庭・地域・社会生活についての未来予測を聞き、学生個人が常に諸問題について積極的に思考していくのに必要な最新の情報を得られる講座。

テキスト

講師がレジユメを配布し、参考文献を提示することがある。

評価方法

前期、後期にレポートを提出。

受講者への要望

時間厳守のこと。マナーの守れる学生を要望する。

年間授業計画

前期・後期に外来講師...各五名予定

科目名	保健体育講義
担当者	梶野克之

講義の目標

生涯を通じての健康のためには、年齢、体力に応じた身体活動の実践が重要である。人間の社会生活にとって不可欠な文化活動として存在するスポーツ・身体活動の実践により健康の増進と体力の維持向上をはかることが重要になる。これらの課題を解決するために、体育・スポーツに関する情報を理解したうえで、実践に結びつけることが大切である。体育学に関する知識をいろいろな角度から探求し、社会生活にとって重要な基礎的理論を身につけることにより、現在から将来にわたって健康で有意義な社会生活が送れることを目的としたい。

講義概要

体育学に関する知識についていろいろな角度から解説する。

現代社会の特質とスポーツについて、その現状と問題点についての理解を深める。

体育・スポーツの実践にかかわる身体運動について、生理学的な側面から解説し理解を深める。現代社会をめぐる体力についてその現状を理解するとともに、体力を向上させるトレーニングについて考える。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献

- ・ 梶野豊編『現代社会とスポーツ』不味堂出版
- ・ 大学保健体育研究会編『大学生の体育と保健』道と書院

評価方法

評価は授業への参加態度、出席回数、定期試験の成績を加味して決定する。

受講者への要望

後期を選択する場合も第1回目の授業に出席してください。

年間授業計画

1. 講義概要の全般的な説明と、現代社会とスポーツについて考える。現代社会の特質と問題点をさぐり、社会の変化とスポーツについて解説する。
2. 現代人の健康・体力問題とスポーツについて考える。積極的な身体運動の必要性やよりよいスポーツ生活をめぐる理解を深める。
3. 現代人にとってスポーツとは何かについて考える。

スポーツの意味とそのとらえ方や、生きがいとスポーツについて理解する。

4. 体育の心理学側面について、発育・発達の意義や発達段階について考え、さらに身体的機能や運動能力の発達などの理解を深める。
5. 体育における運動学習について考える。学習の意義を考えるとともに、運動技能の能率化について理解する。
6. 体育における集団の心理について考える。集団として実施される体育活動について、その集団の形成や集団の構造について考える。
7. 身体活動の生理学的側面について、運動と呼吸から理解する。呼吸数や換気量を理解したうえでエネルギー代謝などを考える。
8. 運動と筋力について考える。筋収縮のメカニズムについて考え、収縮のエネルギー源について理解する。
9. 前回に引き続き、運動と筋力について考える。運動を制御する神経系について理解を深め、疲労についても考える。
10. 体力とトレーニングについて考える。体力の概念について理解するとともに、体力の要素と関係要因について理解する。
11. 体力づくりとトレーニングについて、その意義について理解を深める。さらにトレーニングの一般的な原則について考える。
12. 体力づくりの具体的な方法について考える。筋力にかかる、ウェイト・トレーニングやサーキット・トレーニングについての理解を深める。

科目名	保健体育講義
担当者	青 柳 多恵子

講義の目標

近代文明のめまぐるしい発展と、すぎましい勢いの人口の高齢化や地球環境の変化が急速に進むなかで、豊かで健康な人生を生き生きと送ることは、昔よりも難しくなりつつある。真の健康とは、ともあれ自然に順応した生活の追求と言える。日本人の食生活は美食・飽食の時代になって早くも 30 年余であり、夜型生活の浸透と食生活の欧米化に加えて核家族化という中で、健康は自分のライフスタイルの確立に大きく左右されると思われる。我々を取り巻く諸問題を正確に受け止め、自己の将来設計に健康で豊かな生活を送るための真の健康とは何かを考えることを目的とする。

講義概要

文明の発達をもたらした便利で過ごし易い生活が、健康にとって如何なる問題をもたらしたか。まだ文明の発達が環境に上るで何を残したのか。急速に変化していく生物の健康や地球環境の周辺が、目に付く変化と目に入らない所の変化が生じてきた。高齢化を迎えるためのライフスタイルを自立した生き生きとした健康なものとするには、環境、食生活、心の在りよう、疾病、人間の身体、特に本講座では、東洋医学の用いている人間の本来保持している自然治癒力の考え方を理解することによって、真の健康を考える。

参考文献

- 加藤 橘大著 「体力科学からみた健康問題」
 村木 弘昌著 「丹田呼吸健康法」
 NHK 「本人の健康観」
 内山 興正著 「生死を生きる」
 ネット・ローレンス著 「健康・体力づくり」
 湯浅 泰雄著 「気とは何か」
 立川 昭二著 「病気の社会史」
 岩槻 邦男著 「植物からの警告」

評価方法

出席状況とレポートとテストによる

受講者への要望

東洋医学的健康方法に興味のある学生。単位取得だけの目的の学生は遠慮してほしい。

年間授業計画

1. 東洋（中国）の身体の捉え方。西洋の疾病の考え方。東洋の心身観について・「気」について。

2. 健康の捉え方。人体の見方と自然観（見える身体と見えない身体）
3. 疾病の時代的变化について。
4. 食生活の変容と自然治癒力の変化。現代の食生活の実態の捉え方と未来の健康の意味
5. 健康を意識する事とは。生活との関連について
6. 心（精神）の健康の維持と育成。東洋の養生の意味するものとは。
7. 有酸素理論について。西洋のエアロビクス理論と気功について
8. 21世紀を予測して。
9. 生活・仕事・家庭・趣味について。パラダイムの転換を解析する。
10. 社会生活と健康管理。20 - 40 - 20 の考え方と家庭について。
11. 健康教育の必要性。東洋の人間性と健康観。
12. まとめ

科目名	経済学
担当者	浜本光紹

講義の目標

本講義では、経済学の諸領域を学ぶうえで必要な分析道具である、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎を修得することを目的とする。

講義概要

前期にミクロ経済理論、後期にマクロ経済理論の講義を行う予定である。また、こうした理論によって実際の経済諸問題がどのように説明されるのか、といったことにも触れていきたい。

テキスト

とくに指定しない。

参考文献

西村和雄「ミクロ経済学入門」岩波書店
 福田慎一・照山博司「マクロ経済学・入門」有斐閣

評価方法

前期・後期の試験、および不定期に課すレポートの提出に基づいて評価する。

受講者への要望

できるだけ継続して出席すること。

年間授業計画

1. 経済学という学問について
2. ミクロ経済学の課題について
3. 消費者行動理論（全2回）
4. 企業行動理論（全2回）
5. 完全競争市場（全2回）
6. 不完全競争（全2回）
7. 市場機構の限界（全2回）
8. マクロ経済学の課題について
9. 国民所得の決定メカニズム
10. 労働市場と完全雇用
11. 不完全雇用経済
12. 家計の消費・貯蓄行動
13. 企業の投資行動
14. 貨幣と経済活動
15. マクロ経済モデル（全2回）
16. マクロ経済政策（全2回）
17. 国際マクロ経済

科目名	自然科学特殊講義 A (東洋の健康論)
担当者	青柳多恵子

講義の目標

東洋の健康の考え方には、人間が本来もっている自然治癒力、抵抗力、生命力を大切に、体の回復をはかることを重視している。東洋の多くの古典的文献に見られる「健康観」「養生訓」は、現代の我々が抱えている多くの個人的・社会的な大問題である「いかに健康に生涯を生きるか」との解決策をその考え方に学びとることができると思われる。先人の残していった言行の含む意味の解析と理解によって、真の健康なライフスタイルを模索することを目的とする。

講義概要

文化遺産である古書（日本・中国）や健康について記された文献の中から、健康であるための心のあり方について検証し、文献に記載されている時代の社会情勢や生活様式・食文化といった基本的な生活状況に加えて、当時の教育の状態や生活習慣・しきたり・行事・式典・祭り等に現れている健康への望みや、祈りが意味するものを解明しつつ、現代人の置かれている環境（自然・社会）や生活・考え方がどのような変遷をし、また、21世紀における健康の意味を問いただすことである。生物としての人間の真の健康を自己に問いかけ、先人が残した文化遺産に健康の普遍性を見いだすことができる。東洋のロマンに触れ、今の健康のあり方を考えることとする。

テキスト

参考文献

- 吉川幸次郎著 「支那人の古典とその生活」
「論語について」
- 青柳洋次郎著 「論語からみたビジネス生活の方法」
- 森 隆夫著 「生涯教育と学校教育」
- 松尾 芭蕉著 「奥の細道」
- 蜂屋 邦夫著 「孔子」
- 品川 嘉也著 「気功の科学」
- 丸山 敏秋著 「気」

評価方法

レポート提出と出席による。

受講者への要望

真面目に自分の生活や健康を考える者

年間授業計画

前期

1. 西洋的なものの考え方と東洋的なものの考え方の

違い。

2. 日本の現状（食料・生活・教育・家庭・疾病）
3. 江戸期、明治期、大正期、昭和期、平成...将来。
4. 自然観・宇宙観と健康観。
5. 中国の「気」の概念と日本の「気」の概念の違い。
6. 指導理念としての古典の価値の意味するもの。
7. 現代ビジネスと健康意識。
8. 普遍的・究極的な健康は存在するのか。
9. 人生に関する活きた智恵としての「論語」の解釈。
10. 幸福に関する価値連鎖体系の崩壊とは。
11. 健康に関する価値連鎖体系の崩壊とは。
12. まとめ

後期

13. 現代日本の「健康観」について。
14. 心の様相と「老い」について。
15. 世界の健康意識の変化とその心の在りよう。
16. 健康を阻害する要因と歴史的な流れ。
17. 自然の意味するもの。
18. 現代文明と健康意識の功罪について。
19. 「論語」に見られる超現代感覚とは。
20. 原始生活と現代生活を比較
21. 東洋的健康観とは。
22. 健康への関心と配慮について。
23. 幼児の時から健康教育の必要性。
24. まとめ

科目名	情報科学特殊講義 A (プログラミング論・自然言語処理入門)
担当者	呉 浩 東

講義の目標

本講義では、コンピュータの基本操作をマスターした外国語学部の学生を対象に、人間の言葉をコンピュータによる処理するために入門的な知識を習得することを目的とする。そのために、実際にプログラミングを行い、ソフトウェアの使用と開発の技能を身に付けることを目標とする。

講義概要

前期は、初めにコンピュータのハードウェアとソフトウェアを概説する。続いて、ソフトウェア開発の手順について講義し、プログラミング言語のひとつである Visual Basic を用いてプログラミングの方法を解説しながら、実習を行う。

後期は、プログラミングの方法を概説した後、自然言語処理の基本となる技術を中心に講義と実習を行う。まず、単語の諸統計、誤綴の検出と訂正などに関する簡単なプログラムを紹介する。その後、機械翻訳について解説し、機械翻訳ソフトウェアを使用して実習しながら自然言語処理の入門知識を学習する。

テキスト

- (1) 最初の講義で指示する。
- (2) 随時必要な資料をファイルで配布する。

参考文献

必要に応じて、著書、ホームページ、ソフトウェアなどを紹介する。

評価方法

前・後期各一度のテストと、3～4 回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。

受講者への要望

「コンピュータ入門」を既修か、または、それと同等程度のものを対象とします。人数が多い場合は、抽選を行う。

年間授業計画

1. 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説
コンピュータの構成要素と動作原理、コンピュータの種類、特徴、性能
2. プログラミング言語とオペレーティングシステム
コンピュータと機械語、オペレーティングシステム、Windows と GUI
3. ソフトウェア開発手順
プログラム開発の手順、システム開発の手順

4. Visual Basic プログラミング (1): Visual Basic(VB)とは
画面構成、起動と終了、ウィンドウの構成と基本的な操作方法
5. Visual Basic プログラミング (2): VB を体験してみる
コントロールの配置、プロパティの設定、画面のデザイン
6. Visual Basic プログラミング (3): 何を作ってみよう
プログラムのコーディング、実行、保存および呼び出す
7. Visual Basic プログラミング (4): コントロールについて
コントロールの種類、プロパティ値の設定
8. Visual Basic プログラミング (5): 画面のデザイン
コントロールをデザインするコツ、プロパティの値の取得と演算、メソッド
9. Visual Basic プログラミング (6): データ型と演算子
データ型、変数と定数の宣言、演算子
10. Visual Basic プログラミング (7): ジェネラルプロシージャの活用
Sub プロシージャと Function プロシージャ
11. Visual Basic プログラミング (8): 選択のあるプログラム
選択ステートメント、コントロールの扱い方
12. Visual Basic プログラミング (9): 繰り返しのあるプログラム
各種繰り返し構造
13. Visual Basic プログラミング (10): プログラム
フォームの設定、ラベル、オブジェクト、メソッド、プログラムの新規作成
14. Visual Basic プログラミング (11): グラフィックス
グラフィックスを作る。
15. Visual Basic プログラミング (12): ファイル操作
キーボードからの操作、ファイルの保存と読み込み、実行ファイルの作成
16. Visual Basic プログラミング (13): プログラム (2)
配列を用いた実用プログラム例
17. Visual Basic プログラミング (14): プログラ

ムのデバッグ

プログラムのデバッグと実行ファイルの生成

18. 自然言語処理（計算言語学）入門

人工言語、自然言語、自然言語処理における課題

19. 単語処理

単語の同定、誤綴の検出と訂正

20. 言語処理の知識源

電子辞書、シソーラス、コーパス、言語データベース

21. 機械翻訳（1）

形態素解析

22. 機械翻訳（2）

構文木、文法規則、構文解析

23. 機械翻訳（3）

文と単語の意味解析

24. 機械翻訳（4）

機械翻訳システムの使用と評価

科目名	情報論
担当者	前田 功雄

講義の目標

情報システムは、今日、コンピュータサイエンス・コンピュータネットワーク・インターネットなどの情報通信技術の応用・企業や社会の中の情報システム活用という形で進化している。情報システムが有効に利用できるように、その設計思想や理論並びに運用方法を学習する。

講義では、情報システムの実例を通して、情報システム化の技法・ソフトウェアの開発など、具体的には本学の入試事務システムの辿ってきた経路を遡り、その中で生まれた情報管理の技術や方法を学習する。学内の情報管理システムは、すべてこの入試事務の情報化によって始められた。今から四半世紀以上前のことである。

ここでは状態遷移、データフロー、オブジェクト指向、データベース、情報検索、ソフトウェアのライフサイクル、情報システムの設計と管理・運用といった言葉がすべて含まれた生々しい実例をみてもあろう。現在のパソコンを使ったSQLなどの設計や運用利用の方法のいくつかを学習する。さらに、情報システム内でのエラー制御の問題を考える〈含む実習〉。最後に、コンピュータネットワークからのSQLなどの取得と情報検索について学習することで、基礎的な知識と応用力を身につけることを目的とする。

講義概要

コンピュータサイエンス・コンピュータネットワーク・インターネットなどの情報通信技術の応用・企業や社会の中の情報システム活用という概念や理論・方法論の基本的なことを理解することになる。

情報システムの開発・設計・運用並びにDBの具体例として本学の大学入試システムについて解説し、当時（昭和45年頃）DB用のソフトもなかった時代を省みながら、その設計思想、管理・運用を実例として述べる。

既存のソフト（たとえば表計算ソフトやDB専用ソフト）を使ったSQLなどの情報検索システムの開発・運用実習を行う。つぎに、自分の興味あるデータを利用してソフトウェアの開発から運用までの実習を行う。本講義では、これら実習をつうじて情報システムの設計と運用並びに管理について生きた知識をえることを目的とする。

テキスト

未定

評価方法

10 回程度の課題提出による。

受講者への要望

しっかり授業に出ること。

年間授業計画

1. オリエンテーション：受講者の確認・決定。年間予定、授業方法等についての説明。
2. 情報システムの概要と方法論
3. システムの設計と運用－入試データベースのケース
4. 入試データベースのシステムの設計と運用（1）：実習
5. 入試データベースのシステムの設計と運用（2）：実習
6. 入試データベースのシステムの設計と運用（3）：実習
7. 入試データベースと情報検索（1）：実習
8. 入試データベースと情報検索（2）：実習
9. 入試データベースと情報検索（3）：実習
10. SQLなどのソフトウェア利用
11. 前期のまとめ
12. 入試情報システム開発のためのシステム設計と運用の概要
13. 学籍番号と暗号システム
14. 暗号システムの開発・設計・運用（1）：実習
15. 暗号システムの開発・設計・運用（2）：実習
16. 暗号システムの開発・設計・運用（3）：実習
17. 暗号システムの開発・設計・運用（4）：実習
18. 入試情報システムの運用と管理のシステム概要
19. 大学情報システムの事務システム上の入試概要
20. ネットワーク上の入試データシステムの開発と設計（1）：実習
21. ネットワーク上の入試データシステムの開発と設計（2）：実習
22. コンピュータネットワークからの入試情報検索システム（1）：実習
23. コンピュータネットワークからの入試情報検索システム（2）：実習
24. まとめ

科目名	地域文化研究（現代英米社会研究）
担当者	有 吉 広 介

講義の目標

英国社会を支えるミドルクラスの社会学的分析を通して、現代英国の社会構造および文化を理解する。

講義概要

かつてミドルクラスは英国資本主義社会をつくりだした歴史的主体・ブルジョアジーであった。そしてこの国の伝統と革新とを独特な方法で調和させて近代の英国社会を生みだした。現代英国のミドルクラスは、19世紀末における経営者革命や官僚機構の発達に起源をおく専門経営者層、中間管理者層、専門技術者層、および大量の事務員層からなるホワイトカラー階級である。この階級の中核をなす人々は、家庭生活のなかでミドルクラスの文化を体得したうえで、英国の独特な教育システムを通して社会に送り出されて、英国の社会と文化とを支えている。本講義では、英国人の生活と文化とを読み取ってみたい。

テキスト

プリントを渡す。

評価方法

前・後期の終わりに求めるレポートにて評価する。

受講者への要望

講義に出席し、そこで要点を把握すること。

年間授業計画

1. 英国におけるミドルクラスの現状
2. 産業革命前後のミドルクラス
3. 古典的ミドルクラスの性格
4. 前回到続く
5. 古典的ミドルクラスの文化
6. 新しいミドルクラスの出現
7. 現代におけるブルジョア階級の衰退
8. 専門経営層の確立
9. 前回到続く
10. 中間管理者層の出現と社会的地位
11. 前回到続く
12. 新旧の専門家層
13. 前回到続く
14. 実業家層の現状
15. 事務労働者の階級状況
16. 前回到続く
17. ミドルクラスの家庭生活
18. 前回到続く

19. ミドルクラスと教育
20. 前回到続く
21. ミドルクラスと余暇
22. ミドルクラスの政治的関心
23. ミドルクラスと政治リーダー
24. まとめ

科目名	比較文化論特殊講義 A (東西文化比較)
担当者	近 衛 秀 健

- 6 . 同上
- 7 . 同上
- 8 . 同上
- 9 . 同上
- 10 . 同上
- 11 . 同上
- 12 . 同上
- 13 . 同上
- 14 . 同上
- 15 . 同上
- 16 . 同上
- 17 . 同上
- 18 . 同上
- 19 . 同上
- 20 . 同上
- 21 . 同上
- 22 . 同上
- 23 . 同上
- 24 . 同上

講義の目標

東西というのが、今の日本の立場はそのどちらでもない奇妙な存在である。明治時代、彼等の生活を先進と見做し、ひたすらこれに近付きあわよくば追越そうとした結果が現日本である。他の未だ自国の伝統ある文化を捨てかね、西欧様式の取り込みをためらっているアジア諸国と比べ優越感にひたったりする事が文化論ではあるまい。現在われわれは大きなディレンマに立たされている。事実の分析により明日の生活の資となるような材料を見つけようではないか。

講義概要

対象が二つあれば比較できる。"何か"とそれを観察している自分とで二つである。毎日の新聞の記事、過剰なまでのTV情報に対し、自分が向かいあう。思索により結論がでてくる。千年前の"何か"と現在の自分、一万キロ彼方の"何か"と現在位置にいる自分、何ごとと比較できないものはない。今の日本人は西洋人でも東洋人でもない。乱れとぶ情報に流されず自分の居場所を確保する方法を考えてみよう。

テキスト

随時配布。

参考文献

世に参考にならぬ文献など存在しない。しかし全員がこれを読み、それに依って思索乃至行動するなら蟻の集団と変わらない。質問に応じ、読みたい人、調べたい人にはヒントを与えよう。

評価方法

自分自身の思考能力を問うため、年二回のレポートを課します。又、随時何か書いてもらいます。

受講者への要望

「これは語学習得などの段階的学習ではない。常に諸君は私と向い合い毎時限私と対決する気持ちでいて欲しい。

年間授業計画

- 1 . 毎日の情報や、書物の抜粋を材に色々と考えてみる。その内容については情勢の変化に応じ予測できない。
- 2 . 同上
- 3 . 同上
- 4 . 同上
- 5 . 同上

科目名	比較文化論特殊講義 A (能楽における中世武士の諸像)
担当者	瀬尾 菊次

講義の目標

中世に日本で誕生した能楽がそれ以後の日本の芸能にどのように影響を与えていったのかを能の全体像を解明しながら考察する。

また作品に登場する「中世武士」の生涯を通して、生活習慣、年中行事など人が生きていくなかで、通過していく人生儀礼・風習などが現代にどのように残っているかをも考察する。

講義概要

「半官びいき」の言葉をうみ、日本人の考え方に影響を与えた「源義経」を主人公にした能「安宅」が、以後の芸能、歌舞伎・映画にどのように取り入れられているかをビデオ鑑賞しながら作品研究し、能における表現方法を現役の能楽師が実技をふまえながら探っていく。

テキスト

関連資料のプリントを配布

参考文献

資料プリントを配布

評価方法

- ・前期（自分の住んでいる近くの能の史跡の現地取材）
 - ・後期（能・歌舞伎・映画での義経像を考察）
 - ・能楽堂での鑑賞（期日自由選択）
- 以上三点のレポートによる。

受講者への要望

学問的解釈にとどまらないために、実際に能楽堂での鑑賞を体験してもらう。

年間授業計画

1. 「安宅（勸進帳）」事件の背景
2. 源義経の生涯と時代背景
3. 同上
4. 義経の生涯と能との関連
5. 能楽（能と狂言）の概説
6. 能について その
能のながれ
7. 能について その
能楽師と狂言師
8. 能について その
能舞台について
9. 能について その
能の現行曲、史跡と現地取材との関連

10. 映画「虎の尾を踏む男達」黒澤明監督ビデオ鑑賞
11. 歌舞伎「勸進帳」作品研究とビデオ鑑賞
12. 同上
13. 能「安宅」の作品研究とビデオ鑑賞
14. 同上
15. 同上
16. 能の演技について
17. 同上
18. 「安宅」・「勸進帳」の比較
19. 同上
20. 能の作品構成・夢幻能と現在能
21. 同上
22. 現代の能
23. 前衛演劇と能
24. まとめ

科目名	比較文化論特殊講義 A (アラブ文化・芸術)
担当者	本 田 孝 一

講義の目標

本講義では、アラブ文化、特にアラブの芸術を中心に、その特性を考えることを目的とします。またある意味で両端にあるともいえる日本文化とアラブ文化との対比を通して、21世紀の国際化時代の中で異文化間でどう共生していかなければならないかを考えます。

講義概要

講師の長年にわたるアラブとの関わり、特に講師のアラビア書道家としての活動を通して得た体験を中心に話します。授業には映像(ビデオ、スライド等)を多用する予定。

テキスト

特にありません。

評価方法

初めに題を出し、簡単な作文を書いてもらいます。(できたら、それを受講生全員参加の作文集として一冊の本にまとめて印刷する予定です。有料)

受講者への要望

本講座は人数的に多いことを望みません。具体的にはオリエンテーションの最初の時間に教室(中教室)の席に座れる人数(60名くらい)だけを原則とします。受講したい人はその時間に早めに来て座って下さい。

年間授業計画

1. Introduction
2. アラブ全体について、「アラブとは何か」を考えます。
3. アラブの言語であり、イスラム教の言語でもあるアラビア語について考察します。
4. アラブの衣食住研究(1)
5. アラブの衣食住研究(2)
6. アラブの衣食住研究(3)
7. アラブ文化の源である砂漠的文化について、その住民であるベトウインの生活を紹介します。
8. 講師のサウジアラビア砂漠での体験を話します。
9. アラブの芸術全体について、その特性を考えます。
10. アラブの宗教である「イスラム教」について、その誕生の意味や教義について講師の実体験からお話します。
11. 映画「アラビアのロレンス」を観ながらアラブと西欧の考え方の違いを探ります。

12. 「アラビアのロレンス」の中でロレンスの実像と虚像を探り、彼のアウトサイダー的側面を考えます。
13. アラブ芸術の中で最も中心的な位置を占めているアラビア書道芸術の入門(1)
14. " (2)
15. " (3)
16. アラブの装飾美術(トルコやペルシャの細密画などを鑑賞し、それが持っている意味を探ります。
17. エジプト映画「バイナル・カスライン」(エジプトのノーベル賞受賞作家の小説)を観ながらアラブ社会のあり方を考察します。(1)
18. " (2)
19. アラブの音楽について、その代表的な楽器ウードの演奏を聴きながら考察します。
20. 今世紀が生んだアラブ文学の異色作家、詩人であるハリール・ジブラーンについて、彼の代表作『プロフェット』(預言者)を通して紹介します。(1)
21. " (2)
22. アラブと関わりの深かった『星の王子さま』の著者、サン・テグジュペリについて、彼の代表作の一つ『人間の大地』を通して考察します。
23. 受講生の作文集作成の準備。
24. まとめ。講師自身のアラブとの書道芸術を通しての将来的関わりをお話します。

科目名	日本語教授法
担当者	中西 栄子

講義の目標

言語理論及び言語学習理論の理解を深めた上で、日本語教育に当たって必要とされる日本語の知識と具体的な日本語の教授法を習得する。

講義概要

言語学習・習得理論、それに基づくさまざまな外国語教授法を紹介したのち、日本語教育に関し、教材開発、教案の書き方、教室活動のマネジメント、4技能のレベル別指導方法、評価方法、テストの作り方等、具体的に例を見せながら指導する。特に、言語教育には言語伝達能力の育成が重要であることを強調したい。学生には言語運用能力の教育を重視した教案・教材を作成させ、グループワークを通じて言語教育の方法を理解且つ習得させる。文法・語彙指導は特に強調する点で、日本語の文型を言語機能として捉え、それをどのように学習者に紹介・導入するか、導入した後、それをどのような練習を通して習得させるか等、段階的に様々な活動を積み上げていき、最終的には発話場面や文脈に沿った言語運用ができるように指導する方法について学習する。

テキスト

中西家栄子・茅野直子『実践日本語教授法』バベル出版

プリントのハンドアウト

参考文献

- ・ D. スタインバーグ『言語心理学』 研究社
- ・ A. C. Omaggio "Teaching Language in Context"
- ・ 名柄迪・茅野直子・中西家栄子『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルク出版
- ・ 『にほんごのきそ、教師用指導書』財団法人海外技術研修協会
- ・ ピピアン・クック 米山朝二訳『第2言語の学習と教授』研究社

評価方法

- 1) 中間・期末テスト 30% + 30% 2) 課題提出 20% 3) 出席 20%

受講者への要望

本クラスを取るまえに日本語教育概論又は日本語学概論を履修していること。また、日本語文法論・音声学等も履修していることが望ましい。実践的な内容の科目なので、出席を非常に重視する。従って6回以上の欠席は認めない。3年次に履修してほしい。

年間授業計画

前期

1. オリエンテーション
2. コースデザインの概要・ニーズ分析とシラバス・学習者の要因
3. 言語教育の基礎理論・第一言語習得・第二言語習得の違い
4. 教材 1. 教科書の分析・教材 初級・中級の文型と語彙 2. その他の専門教材
5. 同上
6. 教室活動と授業分析・教案の書き方
7. 同上
8. 音声の指導法 (Video) と教材の作成 同上
9. 聴解の教材作成と指導 1. 初級 2. 中級 3. 上級 同上
10. 文字表記の指導と教材 1. 平仮名・片仮名の導入 2. 漢字圏・非漢字圏の学習者の指導
11. 同上
12. 同上

備考

後期

1. 読解力の養成 精読・スキミングと教材作成 1. 初級 2. 中級 3. 上級
2. 同上
3. 文法の指導と教材 意味と文型の導入 1. ドリルから応用へ 2. 絵教材・その他の教材の作成と検討
4. 同上
5. 同上
6. 会話指導と教材 (上級のディベート教材の作成)
7. 同上
8. Video 教材の紹介とその使用方法
9. 同上
10. 作文の指導法と評価の方法
11. 同上
12. 評価とテストの作成法

備考

科目名	日本語教授法
担当者	各担当教員

- 20. 同上
- 21. 同上
- 22. 同上
- 23. 同上
- 24. 同上

講義の目標

外国語としての日本語を教える方法を考え学ぶ。

講義概要

日本語教育機関での実習を行うための完全に演習的な授業。従って、毎回学生による模擬授業が行われ、その授業観察を通じて、各人が授業内容、進め方、等について具体的に検討しあう。教案作成、様々な副教材の作成も科せられる。なお、前期完結科目（週一回の講義と集中講義、4単位）として行うので、時間割をよく確認して履修すること。

テキスト

なし。

参考文献

『しんにほんごのきそ』・『しんにほんごのきそ・教師用書』（スリーエーネットワーク）中級については未定。

評価方法

教案提出・模擬授業・教材発表 模擬授業（2回）

教材の提出 模擬授業の反省と自己分析 出席

受講者への要望

クラス活動への参加が重要なので、欠席は極力避けること。与えられた課題をきちんと果すこと。

年間授業計画

1. オリエンテーション
2. 教材の研究・検討
3. 教案の書き方とオブザベーション
4. 模擬授業グループ別
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 同上
16. 同上
17. 同上
18. 同上
19. 同上

科目名	日本語文法論
担当者	高松正毅

講義の目標

我々の母語である日本語の中に潜む規則を自ら発見し、それを自ら整理する力を養う「自ら掘り当てる文法」を目標とする。

講義概要

日本語が実際に使われる際に現れるさまざまな言語事実をつぶさに観察することによって、その底流に流れる規則性に気づき、体系づけていく。

基本的にテキストに沿って進んでいくが、他に「日本語教育能力検定試験」の文法問題を用いる。

テキスト

『ワークブック日本文法』おうふう他、プリント等。

参考文献

井口厚夫・井口裕子「日本語文法整理読本」バベル・プレス

吉川武時「日本語文法入門」アルク

益岡隆志・田窪行則「基礎日本語文法」くろしお出版

小池清治「現代日本語文法入門」ちくま学芸文庫

評価方法

前期および後期試験期間中に一回ずつ試験を行う。出席や授業への参加度など平常点も加味する。

受講者への要望

何よりもコトバが好きであること。興味を持って積極的に授業に参加することを望む。

年間授業計画

1. ガイダンス
2. 導入 あいまいな表現
3. 格
4. 受動文と使役文
5. 受動文と使役文
6. 自動詞と他動詞
7. 自動詞と他動詞
8. 連体修飾
9. 連用修飾
10. テンス・アスペクト
11. テンス・アスペクト
12. 授受・移動の表現
13. 授受・移動の表現
14. ハとガ
15. ハとガ

16. スコープと焦点

17. スコープと焦点

18. とりたて

19. とりたて

20. モダリティ

21. モダリティ

22. 語順

23. 語順

24. 文の構造

科目名	日本語音声学
担当者	小松雅彦

講義の目標

日本語音声を中心として、調音音声学の基礎的な知識、音響音声学・音韻論の紹介的な内容を学ぶ。調音音声学については、日本語教育等で必要最低程度程度の知識を習得することを目標とする。体系的な知識と実際の音声の調音・聴取が結びつくこと。音響音声学・音韻論については、これらの分野の紹介的な内容を聞いて理解する程度。

講義概要

前期は、調音音声学の基礎的な知識を学ぶ。日本語教師用のテキストを用い、日本語の調音について一通りのことをカバーする。実際に音声を発音し聞くことも行う。

後期の前半は、音響音声学についての講義を行う。音声の生成のしくみ、分析方法についての概要を述べた後、母音と子音の音響的特徴を見ていく。

後期の後半は、音韻論についての講義を行う。音素・素性という概念を学んだ後、日本語についてのいくつかの話題に触れる。

テキスト

猪塚元、猪塚恵美子「日本語の音声入門」バベル・プレス

参考文献

レイ・D・ケント、チャールズ・リード「音声の音響分析」海文堂

窪園晴夫「日本語の音声」岩波書店

小泉保「音声学入門」大学書林

城田俊「日本語の音：音声学と音韻論」(テキスト版) ひつじ書房

評価方法

筆記試験。

聞き取りテスト、または聞き取り・分析の宿題(検討中)

受講者への要望

本から学ぶだけでなく、実際に自分で発音することによって基礎的な知識を身に付けて欲しい。フリーソフトによる音声分析等も試みられれば、なお可。

年間授業計画

1. イントロダクション
2. . 調音音声学
調音、気流メカニズム
3. 子音と母音、IPA

4. 音声と音韻、音素
5. 五十音図とその発音
6. 特殊音素
7. 環境による音声変化
8. 音節、拍
9. アクセント
10. プロミネンス、イントネーション
11. 前期のまとめ
12. (予備)
13. . 音響音声学
音響音声学の研究
14. 音声生成の音響理論
15. 音声の音響分析、現代の分析技術
16. 母音の音響特性
17. 子音の音響特性
18. 文脈や話者が及ぼす音響効果、音声合成
(時間数が不足する場合は割愛)
19. . 音韻論
20. 音素
21. 音素素性
22. 連濁
23. 日本語の特質とモーラ
24. 音節とアクセント

科目名	対照言語学
担当者	中西 栄子

講義の目標

二言語間（日本語と他の言語 基本的には英語）の様相を体系的に比較対照することによって、次のことについて理解を深める。 1）それぞれの言語についての体系的知識 2）言語の背景にある発想法 3）第二言語としての日本語習得への干渉 4）日本語教育への応用

講義概要

対照言語学の目標は二つの言語の共時的な比較対照を行い、そこでの結果をいかに日本語教育に応用するかを考えて行くことと捉える。その一方で二言語の体系的な知識を得るという目的も達成するように指導していく。日本語を学ぶ場合、学習者の母語と日本語の相違がどのような影響を与えるかについては、比較対照することによってかなりのことが予測できることが分かっている。また、日本語の誤用の原因もその相違によって説明できることが多い。誤用の資料を検討・分析し、次に検討した事柄についていろいろな角度から比較対照を試みる。

テキスト

無し。但しテーマごとにプリントの配布があり、それが最終的にはテキストとなる。

参考文献

- 安藤貞雄『英語の論理・日本語の論理』大修館書店
 森田良行『日本語の視点』創拓社
 水谷信子『日英比較話し言葉の文法』くろしお出版
 国広哲弥編『日英語比較講座 1 4巻』大修館書店
 吉川千鶴子『日英比較動詞の文法』くろしお出版
 『講座日本語学』外国語との対照 10、11、12 くろしお出版

評価方法

1) 中間・期末テスト 30% + 30% 2) レポートの発表と提出 30% 3) 出席 10% 欠席6回以上は認めない。

受講者への要望

テキストはなく毎回の配布プリントがテキストになる。従って、きちんと出席しないと授業についていけなくなることに注意。レポート発表は全員する。どのテーマで発表するか早くから考えをまとめてお

くこと。すくなくとも日本語学概論・日本語学は履修していることが望ましい。

年間授業計画

前期

1. オリエンテーション 語順（説明）
2. 語順 無生物主語の構文（説明） 所有格（説明）
3. 無生物主語の構文 所有格 人称代婦詞・指示代名詞（説明）
4. 人称代名詞・指示代名詞 Of + 名詞（説明）
5. Of + 名詞 形容詞・副詞（説明）
6. 比較級・最上級 形容詞・副詞 自動詞文・他動詞文（説明）
7. 自動詞文・他動詞文 否定（説明）
8. 否定 受動態（説明）
9. 受動態 連体修飾（説明）
10. 連体修飾
11. 連体修飾 仮定法（説明） 話法（説明）
12. 仮定法 時制・接続詞

備考

後期

- ・課題発表 各人が自分の課題を決めて発表
- ・各テーマについての誤用分析
- ・対照・誤用分析に基づいた日本語の導入と説明及び練習問題の作成
- ・日本語のテキストでの扱いかたを調べる

備考

科目名	日本語史
担当者	小島幸枝

- 20. 言語生活史
- 21. 位相語の歴史
- 22. 言語変化とその要因
- 23. ~25. 予備

講義の目標

日本語は、まだ日本民族が文字をもたなかった文献以前の時代から現代まで、日本列島に行われてきた言語である。海洋の島国という地理的条件から、古来日本人には外来文化を消化・吸収する能力が培われてきた。このことは、日本語の歴史においてどのような面に成果があらわれ、どのように日本語を生成発展させてきただろうか。今年度も語彙をとりあげ、その史的変遷を迎えることを目的とする。

講義概要

講述にあたっては、時代を日本の政治区分に従い、上代・中古・中世・近世・近代・現代に分けて、主として古辞書、各種文献資料によって、各時代ごとの語彙の特徴を知り、その変遷の要因を考察する。

テキスト

沖森卓也編『日本語史』(おうふう)

参考文献

- ・亀井孝他編『日本語の歴史』1～7 (平凡社)
- ・永山勇『国語史概説』(風間書房)
- ・国語学会編『国語の歴史』(改訂版)(刀江書院)
- ・「講座解釈と文法」1～7(明治書院)
- ・山田孝雄『国語の中に於ける漢語の研究』(宝文館)
- ・土井忠生編『日本語の歴史』(至文堂) その他

評価方法

前期・後期にレポート各1本

受講者への要望

日本史の基礎知識をもっていること。および国語学を履修した上で受講することがのぞましい。

年間授業計画

1. 奈良時代までの日本語
2. 平安時代の日本語
3. 鎌倉時代の日本語
4. ~5. 室町時代の日本語
6. ~7. 江戸時代の日本語
8. ~9. 明治以降の日本語
10. 文字史
11. ~12. 音韻史
13. 文法史
14. 待遇表現史
15. ~16. 語彙史
17. ~19. 文章文体史

科目名	情報科学各論 (音の構造1)
担当者	伊豆山 敦子

講義の目標

人間の言語音にはどのようなものがあるか。その調音機構を観察し、調音・聴取の訓練をする。そしてその表記方法を習得する。それは、言語研究の基礎である。

さらに、音声が各言語で果たしている機能にも触れる。

無意識に習得した各自の第一言語の音声面に対して、客観的認識が得られることを期待する。そして第二言語習得や言語研究・教育などに役立てることを目標としている。

講義概要

一般的に、人間の言語音には、どんなものがあり、どのような構造なのかを学ぶ。国際音声字母表を用いながら、調音音声学的訓練を行う。個々の単音の調音を説明し、各自で自覚的に調音し、また、聞き分ける。そして音声表記をできるようにする。当然、各自生得の言語(方言)の音声面に対する音声学的観察をすることになる。

さらに進んで、音声の機能面に着目し、音韻論の基礎を日本語の音声観察から学ぶ。

受講者の人数にもよるが、各人が音声学的知識を身につけ、音声を観察することができるようになることを主眼とする。

テキスト

小泉保「音声学入門」(1996) 大学書林

参考文献

服部四郎「音声学」(1984) 岩波書店

川上泰「日本語音声概説」(1977)おうふう

風間喜代三 et al.「言語学」(1993) 東京大学出版会

評価方法

授業中に随時行う単音聴取テストへの参加。

前期・後期各一回の聴取テストと筆記試験。

以上の総合により評価する。

受講者への要望

単音を聴き取り、発音するのは、自分自身である。

実際に聴き、注意を向けるところを教われれば解るのに、一人で本を読むだけでは解りにくい。休まないことを要望する。

年間授業計画

1. 音声学とは (pp. 1 - 4)

2. 気流と発声 (pp. 5 - 23)

3. 調音器官 (pp. 23 - 30)

4. 母音 (pp. 85 - 97)

5. 有声・無声、鼻腔・口腔

6. 両唇閉鎖音

7. 両唇摩擦音

8. 唇歯音

9. 歯・歯茎閉鎖音

10. 歯・歯茎摩擦音

11. 破擦音

12. テスト

科目名	情報科学各論 (音の構造2)
担当者	伊豆山 敦子

講義の目標

人間の言語音にはどのようなものがあるか。その調音機構を観察し、調音・聴取の訓練をする。そしてその表記方法を習得する。それは言語研究の基礎である。

さらに、音声各言語で果たしている機能にも触れる。

無意識に習得した各自の第一言語の音声面に対して、客観的認識が得られることを期待する。そして第二言語習得や言語研究・教育などに役立てることを目標としている。

講義概要

一般的に、人間の言語音には、どんなものがあり、どのような構造なのかを学ぶ。国際音声字母表を用いながら、調音音声学的訓練を行う。個々の単音の調音を説明し、各自で自覚的に調音し、また、聞き分ける。そして音声表記をできるようにする。当然、各自生得の言語(方言)の音声面に対する音声学的観察をすることになる。

さらに進んで、音声の機能面に着目し、音韻論の基礎を日本語の音声観察から学ぶ。

受講者の人数にもよるが、各人が音声学的知識を身に付け、音声を観察することができるようになることを主眼とする。

テキスト

小泉保「音声学入門」(1996) 大学書林

参考文献

服部四郎「音声学」(1984) 岩波書店

川上泰「日本語音声概説」(1977)おうふう

風間喜代三 et al.「言語学」(1993) 東京大学出版会

評価方法

授業中に随時行う単音聴取テストへの参加。

前期・後期各一回の聴取テストと筆記試験。

以上の総合により評価する。

受講者への要望

この講義は前期開講の情報科学各論(音の構造1)の習得を前提とする。

年間授業計画

1. テスト講評と復習
2. 硬口蓋音
3. 軟口蓋音

4. 口蓋垂音
5. 側面音
6. ふるえ音・はじき音
7. 接近音
8. 副次調音(pp.70 - 83)
9. 鼻母音(pp.100 - 101)
10. 日本語の音素(pp.142 - 146)
11. 日本語の音素(pp.148)
12. テスト